FILE

ハードディスク・メニュープログラム

File driver 4

NEC PC-9800シリーズ

操作マニュアル

重　要　本製品をご使用になる前に必ずお読みください。

この度は、株式会社メッツのソフトウェアをお求めいただきまして、ありがとうございます。本ソフトウェアをご使用になる前に、使用許諾契約書をよくお読みになり各事項にご同意いただきましたら、添付の登録カードに記入、捺印し、弊社までご返送ください。

登録カードはお客様と弊社を結ぶ大切なチャネルです。

- ソフトウェアの保証
- ユーザーサポート
- バージョンアップサービスなどのお知らせ
- 新製品のお知らせ

などはすべてこの登録カードが基になりますので、正確にご記入くださるようお願いいたします。また、登録後に内容に変更があった場合は、弊社までご連絡くださるようお願いいたします。

本製品に関する質問は、文書と電話でお受けいたします。サポート窓口までお問い合せください。なお登録カードを返送いただいていない場合や、お客様固有の運用上の問題に関しては、お答えできないこともありますので、ご了承ください。また窓口が混みあいご迷惑をおかけすることもありますが、何卒ご理解くださるようお願いいたします。

ソフトウェア使用許諾契約書

1. 使用許諾の範囲
お客様は、本製品を用法に従って、お客様ご自身に限り使用することができます。

2. 複写・改変の制限
本製品の複写については、マニュアルに規定してある条件に従うものとします。複写が許可された場合でも、複写した製品を第三者に使用させることはできません。本製品の内容全部または一部を改造することはできません。

3. 製品の保証
万一、磁気媒体の不良などの為、本製品が購入時に正常に動作しない場合、あるいは梱包内容に不足があった場合は購入された販売店にお申し出ください。無償で交換いたします。

4. アフターサービス
本製品の運用上特に注意すべき問題が生じた場合、登録カードをご返送いただいたお客様にはその旨ご通知いたします。ただし、このサービスは本製品の購入日より1年以内とさせていただきます。

5. 免責
本製品に関しての弊社の責任は、前記「3.製品の保証」と「4.アフターサービス」に限ります。お客様が本製品を運用された結果の影響については、弊社は免責とさせていただきます。

6. 修理交換
本製品が運用上支障をきたす状態になった場合、登録カードが返送されている場合は修理を行います。故障の原因がお客様あるいはお客様側のハードウェアにある修理作業は、有償となります。

7. バージョンアップ交換
本製品がバージョンアップされた場合、お客様は弊社が別途定める料金を支払うことによって本製品のバージョンアップ品を受取り、使用することができます。ただし、バージョンアップ交換は、登録カードを返送したお客様に限られます。

8. 契約の成立
本契約は、お客様が本製品を受領した日から成立します。

9. その他
本製品は、将来予告なしに変更されることがあります。その他、別段定めのない事項については、著作権法および関連法規に従うものとします。

株式会社メッツ　代表取締役　永田　典久

商品構成について

MET's Filedriver 4 のパッケージ内容は以下の通りです。

●システムディスク

●操作マニュアル

●保証登録カード

商品の梱包に関しましては万全を期しておりますが、万が一以上の内容に不足がありましたら、下記までご連絡下さい。

㈱メッツ　大阪営業所　サポートセンター
TEL 06－245－2089

●MET's Filedriver 4とは

MET's Filedriver 4とはいままで当社が発売してきた、ハードディスクメニューユーティリティのMET's Filedriverシリーズの後継のソフトです。

今まで１台のハードディスクで１つのアプリケーションソフトを使う場合は、そのアプリケーションソフトが持つ環境で使用すれば問題はありませんでした。

ところが最近は１台のハードディスクで、複数のアプリケーションソフトを使うことが多くなってきました。こうなるとアプリケーションソフトの互いの環境がぶつかり動作しなくなる場合が増えてきます。

特に日本語入力FEPの場合、ある日本語入力FEPに対応しているアプリケーションソフトはいいのですが、対応していない場合「CONFIG.SYS」をそれ用に書き換え、リセットして立ち上げるという作業が必要になってきます。

最近のMS－DOSは「ADDDRV」「DELDRV」というコマンドを用いて
の切り換え作業が可能ですが、定義ファイルの作成などかなりの技術を要します。

いずれの作業もやさしいとは言い難いものがあります。

この様な作業を代行するのが**MET's Filedriver 4**です。

MET's Filedriver 4の**MET's Filedriver 4**はこの様な作業を極力避け、複数のアプリケーションソフトや日本語入力FEP、その他のデバイスドライバーを混在し使用する事が可能です。

●MET's Filedriver 3から、MET's Filedriver 4への変更点

このMET's Filedriver 4は、弊社が平成３年１１月に発売した、MET's Filedriver 3の後継に当たるバージョンです。

以下は、MET's Filedriver 3から、MET's Filedriver 4への変更点です。

●日本語入力FEP、アプリケーションソフトが使用したEMS領域の開放

MET's Filedriver 3までは、日本語入力FEP、アプリケーションソフトが使用したEMS領域を終了時には開放しませんでした。

MET's Filedriver 4では、これを開放するようにしました。

●各ファイラーごとのヘルプ表示機能

日本語入力FEP、アプリケーションソフトのファイラーに、それぞれのヘルプ表示機能をもうけました。

これは、日本語入力FEPやアプリケーションソフト固有の注意事項を表示する機能で、MET's Filedriver 3でも、一部のファイラーでは存在していましたが、インストール終了直後しか表示できず、不便でしたので、機能の１つとしました。

これにより、インストールを実行せず、事前に目的のファイラーの注意事項を参照することができます。

●MS－DOS Ver5.0への対応

MET's Filedriver 3まではMS－DOS Ver5.0には未対応で、無理に動作させた場合、アプリケーション起動時に暴走してしまいました。

MET's Filedriver 4では、日本電気株式会社とエプソン販売株式会社のMS－DOS Ver5.0に対応しています。

ただし、DOSシェル（ドスシェル）からのMET's Filedriver 4の起動と、MET's Filedriver 4からのDOSシェル起動は出来ません。

また、MET's Filedriver 4では、MS－DOS Ver5.0のSETVER.EXEの使用はできません。

MS－DOS Ver5.0を正式にサポートしていない日本語入力FEP、アプリケーションソフトを、MET's Filedriver 4から起動させても動作は保証しません。

「MS－DOS Ver5.0への対応」というのは、MET's Filedriver 4のシステムが、MS－DOS Ver5.0へ対応した、という意味です。

各日本語入力FEP、アプリケーションソフトのMS－DOS Ver5.0への対応確認は、それぞれのメーカー様にお問い合せ下さい。

●スケジューラの搭載

1980年1月1日から、2079年12月31日の範囲で1000件の登録ができます。

●カレンダーの搭載

1980年1月1日から、2079年12月31日までのカレンダーを搭載しました。
また、お客様サイドでの休日設定にも対応しています。

●実行情報ファイル、SETUP.BATをMFD.BATに変更

MET's Filedriverシリーズは、アプリケーションソフト起動時に、SETUP.BATというファイルを使用し、アプリケーションソフトを起動させますが、同じディレクトリに、SETUP.COM、SETUP.EXEが存在した場合、そちらを起動していました。
MET's Filedriver 4では、起動ファイル名をMFD.BATに変更し、この症状を解消しました。
また、MET's Filedriverシリーズから、**MET's Filedriver 4**に変更した場合、SETUP.BATは、**MET's Filedriver 4**から、そのアプリケーションソフトを1回起動することで、MFD.BATにリネームされます。

●CRT保護機能

MFD4では、1分から60分の範囲内で設定できる、CRT保護機能を搭載しています
設定した時間が過ぎると、画面が消え、右上に時計のみが表示されます。

●1ページ当りのメニュー数の増加

MET's Filedriver 3までは、1ページ当り8個のメニュータイトルしか、登録できませんでしたが、**MET's Filedriver 4**では、10個のメニュータイトルが登録できます。
従来のMET's Filedriverシリーズで構築されたメニューは、**MET's Filedriver 4**起動時に自動的にコンバートされます。
ただし、いったん**MET's Filedriver 4**仕様のメニューに変ったメニューデータは、以前のMET's Filedriverシリーズでの使用はできません。

●日本語入力FEP自動登録時の、EMS登録の廃止

MET's Filedriver 3では、日本語入力FEP自動登録時、EMSドライバのみを登録してきましたが、**MET's Filedriver 4**では、これを廃止しました。

廃止の理由は、いままでの方法ではEMSドライバ、それもハードウェアEMS対応のドライバしか登録できず、多種多様になってきた、メモリ環境の設定に対応できなくなった為です。
また、**MET's Filedriver 4**では、日本語入力FEPなどが使用したEMS領域を開放するようにしましたので、メモリ環境の設定は、各メモリドライバの取り扱い説明書にしたがって、ルートディレクトリの、CONFIG.SYSに記述するようにして下さい。
ただし、ここで日本語入力FEPを設定し、なおかつ**MET's Filedriver 4**の標準使用FEPを設定した場合、日本語入力FEPの2重起動となりますので、ご注意下さい。

●日本語入力FEP、アプリケーションソフト自動登録時の、ディレクトリ階層の変更

MET's Filedriver 3までは、日本語入力FEPとアプリケーションソフトを自動登録した場合、サブディレクトリ￥MFDの下に階層を作成し、必要ファイルをコピーしていました。

しかし、階層がわかりにくいケースがあり、これを変更し、全てルートディレクトリの直下にディレクトリを作成し、必要ファイルをコピーするように変更しました。

したがって、従来のMET's Filedriverシリーズのように、サブディレクトリ￥MFDの下に　アプリケーションソフトのサブディレクトリを作成することはありません。

ただし、以前のMET's Filedriverシリーズで、構築されたディレクトリ構造はそのままとなります。

●インストール時の、単一ディレクトリ構造の廃止

MET's Filedriver 3では、インストール時「／ND」を入力することにより、アプリケーションファイラーをジャンル分けせず、すべてサブディレクトリ￥MFD￥HCA内にインストールしていましたが、分りにくい為、これを廃止し、ジャンル分けのみとしました。

●使用可能な機器構成

●パソコンについて

MET's Filedriver 4 は以下のコンピュータで動作します

5インチ2HD内蔵型
PC－9801VX、PC－9801RX、PC－9801RA、PC－9801RS
PC－9801VM11、PC－9801VM21、PC－9801DA、
PC－9801DS、PC－9801DX、PC－9801FA、PC－9801FS
PC－9801FX

3.5インチ2HD内蔵型
PC－9801EX、PC－9801ES、PC－9801LX、PC－9801LS
PC－9801UR、PC－9801UF、PC－9801T、PC－9801UV21、
PC－9801UV11、PC－9801UX、PC－9801US
PC－9801CV、PC－9801DA／U、PC－9801DS／U
PC－9801DX／U、PC－9801CS、PC－9801FA／U、
PC－9801FS／U、PC－9801FX／U
PC－9801N、PC－9801NS、PC－9801NS／E、PC－9801NC
PC－9801NV、PC－9801NS／T、PC－9801NL
PC－9801NS／L

および上記コンピュータの互換機。
注）現在の互換機は完全互換ではありません。
この為、その部分における動作は保証できませんのでご注意下さい。

条件付動作可能コンピュータ
PC－9801VM2、PC－9801VF、PC－98XL、
PC－98RL、
PC－H98シリーズ

注１）**MET's Filedriver 4** は、システムディスクのバックアップフロッピーとして、2HDを使用します。
したがいましてPC－9801VFの場合、内蔵のフロッピーディスクユニットでシステムディスクのバックアップを行なうことはできません。
外部に2HDのフロッピーディスクユニットを接続してお使い下さい。

注２）PC－9801VM、PC－9801VF、メインメモリが640KBまで搭載されていません。
メインメモリを640KBまで増設されてからご使用下さい。
また、上記機種で **MET's Filedriver 4** をご使用になる場合、16色ボードが必要となります。

注３）PC－98XL、PC－98RL、PC－H98シリーズのハイレゾリューションモード
　　　には対応していません。ノーマルモードでご使用下さい。

●動作不可能コンピュータ
PC－9801、PC－9801U、PC－98LT、PC－98HA
PC－98XA、PC－9801E、PC－9801F、PC－9801UV2

●メインメモリについて

MET's Filedriver 4 を動作させるためには、640KB以上のメインメモリが必要です。

●MS－DOSについて

MET's Filedriver 4 は、MS－DOS Ver3.1から、Ver5.0までのOSの下で動作します。
ただし、Ver5.0のタスクスワップ機能、DOSシェルには対応していません。

また、**MET's Filedriver 4** のシステムディスクには、MS－DOSのシステムは含まれていません。ご了承下さい。

●ハードディスクについて

MET's Filedriver 4 は、以下のハードディスクをサポートしています。
また、**MET's Filedriver 4** はハードディスク専用のメニューソフトです。
フロッピーディスクでの使用はできません。

・PC－9801－27互換ハードディスク（SASI型）
・PC－9801－55／55L互換ハードディスク（SCSI型）
・PC－9801－FA02（SCSI型）

そのハードディスクのオリジナルのフォーマットユーティリティを使用する場合、対応できない場合があります。
ご使用になっているハードディスクが互換機かどうかは、ハードディスクをお買い求めになった販売店様か、そのハードディスクメーカー様にお問い合せ下さい。

●改造されたコンピュータでの動作について

この **MET's Filedriver 4** を改造されたコンピュータで動作させ、なんらかの支障が発生しても、弊社はいっさいサポートを行いません。
この場合の改造とは、コンピュータ本体に添付されている保証書のメーカー規定に準拠します。
したがって、コンピュータ本体のCPUを、メーカー工場出荷時以外の、互換CPUに交換し、なんらかの動作異常が発生しても、それは保証書のメーカー規定を無視し、改造作業行ったお客様の責任です。
また、改造業者、購入店で保証、改造行為を行ったケースも、これに相当します。
ただし、コンピュータを出荷しているメーカが正式に、オプション、グレードアップとしてサポートするケースは除きます。
ご了承下さい。

●LAN（ローカル・エリア・ネットワーク）について

MET's Filedriver 4 は、各社、各種のLANには対応していません。
ご了承下さい。

●サポートについて

操作していく上で問題点が生じた場合は、以下の点について、弊社ユーザサポートセンターにご連絡下さい。

- **MET's Filedriver 4** の登録番号（フロッピーラベルに記載）
- ご使用のコンピュータのメーカと、その型番
- ご使用のハードディスクのメーカとその型番、容量、分割フォーマットか、単一フォーマットか、SASI形式かSCSI形式か
- ハードディスクのインターフェイス以外に、コンピュータに接続されている、インターフェイスボードのメーカ名、型版
- ご使用のMS－DOSの製品型番とバージョン
- **MET's Filedriver 4** をインストールしたドライブ番号
- **MET's Filedriver 4** を立ち上げたドライブの、「CONFIG.SYS」の設定内容
- **MET's Filedriver 4** を立ち上げたドライブの、「AUTOEXEC.BAT」の内容
- 障害が発生した、アプリケーションソフトの製品名、バージョン、名称
- 障害が発生した、アプリケーションソフトに割り当てられた、日本語入力FEPの製品名、バージョン
- どの様な状態で
- どの様な症状が生じ
- 画面上のどこに
- どういったメッセージが表示されるのか

お問い合せの際はお手数ですが以下の事項をお守り下さい。

●当社の他の商品と混同する場合がございますので、正確に **MET's Filedriver 4** のユーザであることをお知らせ下さい。

●正規ユーザの確認にご協力下さい。
お名前や、登録番号を確認させていただけない場合はサポート、バージョンアップをお断りする場合があります。
ご連絡はお電話・お手紙・ FAX等でお問い合せ下さい。

●できるかぎり、症状を要約し的確にお伝え下さい。
いままでのケースでは「動作しない」、「動かない」等それだけのお問い合せが多く、状況が把握できないことがありました。

この為、お手数ですが上記の項目にしたがって、お客様の動作環境を含んだ症状を、的確にお知らせ下さい。

なお、ユーザサポートは、保証登録カードをご返送されている方を、対象とさせていただきます。また、バージョンアップのお知らせなどの発送なども、ユーザ登録されている方のみですので、ご購入された方はできる限り早く保証登録カードをご返送下さい。

また、保証登録カードには必ず登録番号を記載して下さい。
登録番号はフロッピーラベルに記載されています。
その登録番号が、そのままお客様の登録番号になりますので、登録番号が書かれていない保証登録カードは、ユーザ登録ができません。ご注意下さい。

なお、弊社のユーザ登録システムではお客様に対し、ユーザ登録が終了した旨の報告はお送り致しておりませんが、ユーザ登録が完了したお客様に対しては、平均して年２回ほど「MET's PRESS」という、弊社の会報紙をお送り致しております。

この会報紙では、弊社商品のバージョンアップや、新商品のご案内をお知らせ致しております。
ユーザ登録葉書を弊社に送付されても、「MET's PRESS」がお手もとに届かない場合は、お手数ですが弊社までご一報下さい。

また、出張、ご来社いただいてのサポートは行っておりません。
ご了承下さい。

ユーザサポートご連絡先

●サポートセンター
株式会社　メッツ　大阪営業所
〒541　大阪市中央区北久宝寺町４－３－５
本町サミットビル4F

TEL　06－245－2089
FAX　06－245－8460

●お問い合せ時間
月曜日ー金曜日　AM10：00－PM12：00
PM　2：00－PM　5：00

土曜日・日曜日・祝祭日・夏期休暇・年末年始・社内行事・フェア開催時等はお休みさせていただきます。

第１章　はじめに

MET's Filedriver 4 を使用する前に、MS－DOSの簡単なファイル管理の考え方や、ハードディスクをより効率的に使うための考え方を解説していきます。
初めてハードディスクをご使用になる方にも、ご理解いただけるようにできる限り、やさしく解説しています。
初めての方はこの章からお読み下さい。
ハードディスクの使い方に自身のある方は読み飛ばして下さい。

1.1 ハードディスクを有効活用するために

初めてコンピュータを扱われる方も最近はハードディスクを購入される方も多いと思います。ここであらためてハードディスクはどういうものかを定義してみましょう。

●フロッピーディスクに比べ、耐久製にすぐれ、大容量のデータが高速で読み書きできる。

上記の内容を満たしている物はほぼ、ハードディスクと呼ばれています。
例外としては、最近低価格になってきた、光磁気ディスク、シリコンディスクなどが上げられますが、大多数の方はハードディスクの持つ大容量と高速性、容量に対するコストパフォーマンスに惹かれたのではないでしょうか。
大容量と高速性、容量に対するコストパフォーマンスは、ハードディスクの持つ命題であり、各メーカは、開発努力を行なっている部分でもあります。

ところで、最近のハードディスクは、PC－9800シリーズの初期からサポートされていたSASI規格より、高性能で大容量化が可能なSCSI規格に比重がうつり、SASI規格のハードディスクは、ノートパソコン用などを除いては、販売店の店頭では、ほとんど見かけなくなくなってしまいました。

これはハードディスクで多数のアプリケーションソフトを使う方には福音ですが、何にも計画もなしにハードディスクを使うと、必ずどこかでつまずいてしまいます。
特に、何も考えなしに、ハードディスクにアプリケーションソフトをインストールして、管理すると、正常に動作しないなどの問題が出てくるでしょう。

このようなことに陥らない為にも、ハードディスクを含めた環境をご使用されるにあたって、次の点にご注意下さい。

1. ご使用になるハードディスクで、動作が保証されているアプリケーションソフトを使いましょう。

   たとえば、一太郎 Ver3などにバンドリングされている、ATOK6などは、10MB以上の領域が確保されたSCSI規格のハードディスク、または40MB以上のノートパソ

コン用のハードディスクには対応していません。
また、出荷時期がかなり前のアプリケーションソフトは、OSを含めた、最新の環境には対応していないと考えて下さい。

2. どの様なアプリケーションソフトをどのような環境で使用するのかを、そのハードディスクを使われるかたが事前に計画をたてましょう。

3. できる限り、階層ディレクトリでアプリケーションソフトを管理しましょう。

4. データはできる限り、アプリケーションソフト別にわけて管理しましょう。

5. 重要なデータは作業が終了したら、必ずバックアップを取るように心掛けましょう。
ハードディスクは絶対ではありません。いつか必ず壊れます。

6. コンピュータ・ウイルスには常に細心の注意を払って下さい
最近、PC－9801で動作するコンピュータ・ウイルスの被害が増加しています。
出来ることならば、最新のワクチンソフトを常に使用できる状態にして下さい。

このような計画をたてながら、ハードディスクを活用するとより有効に利用できることでしょう。
次の項ではハードディスクを有効に活用する方法として、階層ディレクトリの概念について説明いたします。

1.2 階層ディレクトリの考え方

フロッピーディスクで作業を行なっていたとき、あまり気にかけなかったのがファイルの保管場所です。フロッピーディスクの1.2MBの大きさですと、ただ単にフロッピーディスクに登録していくだけで大丈夫でしたが、ハードディスクの場合、自分が使用したいファイルがどこに存在するのかが、わからなくなる場合があります。

そこで登場するのが階層ディレクトリの考え方です。

日本の住所を思い浮べて下さい。

まず最初に、都道府県名、次が市または郡名、そして町、区名となっています。

東京都の場合を例に上げてみましょう。

東京都というハードディスクが存在しているとします。この中に「深沢」というファイルがありますが、これはどこ存在しているでしょう？何区か何市かもわからなければ、「東京の深沢」だけではお手上げです。

この時、その町名の所が何区なのかわかれば、ある程度の目安がたちます。住所と同様に区分けして管理しなければ、同じ町名がある場合に困る場合がでてきます。

このように、それぞれを区分けして管理することを、階層ディレクトリといいます。

```
                   区名           町名
ルート             サブ           ファイル

東京都 ───  ┌──────千代田区    ┌赤坂
            ├──────港区    ──┼六本木
            ├──────渋谷区      ├麻布十番
            ├──────世田谷区    ├芝
            ├──────新宿区      ├三田
            └──────中野区      └南青山
```

上記の例では「東京都」にあたる一番最初の階層を「ルートディレクトリ」と呼びます。通常は「￥」で表されます。

ルートディレクトリに対してその１つ下の階層のディレクトリを「サブディレクトリ」と呼びます。上記の例では「区」に相当します。サブディレクトリの階層下にもディレクトリを設けることも可能です。ただし、MS－DOSの制限上、ルートディレクトリから数えてパス名が64文字を越えるディレクトリは作成できません。

サブディレクトリの下には「ファイル」があります。
プログラムの最低単位を「ファイル」と言います。上記の例では「町」にあたります。

このように、一見とっつきにくい階層ディレクトリの考え方も、身近なものに置き換えると、多少は理解しやすくなってくるでしょう。

1.3 パス名とカレントディレクトリ

ハードディスク内のファイルがどんなに多くても、系統立てて区分けすれば、どのファイルが何処にあるかを認識することは、さほど難しくないことは先ほど述べました。

「六本木」というファイルも正式には「東京都港区六本木」と呼びます。このような呼び方を「パス名」といいます。（ルートディレクトリ東京のサブディレクトリである港区にある六本木というファイル）

ディレクトリの区切りを￥マークで表しますので、

「東京都港区六本木」
↓
「東京都￥港区￥六本木」

表記する場合は上記の様になります。

このようにパス名を指定すれば、どのサブディレクトリにあるファイルも開くことが可能です。

ただ、いちいち「東京都￥港区￥六本木」としていては面倒です。

もし、貴方が「港区」にいて道をたずねるとき、「東京都港区六本木はどこですか？」というような聞き方はされないと思います。普通「六本木はどこですか？」と聞くでしょう。

階層ディレクトリの考え方も同様で、今いるディレクトリ（ルートかサブ）がわかれば、その中のファイルはパス名を付けなくてもいいことになります。

このような今いるディレクトリの事を「カレントディレクトリ」と呼びます。

ただし、カレントディレクトリ以外のサブディレクトリに対してはパスを指定しなければなりません。

1.4 ハードディスク使用上の注意

ハードディスクは、最低でもフロッピーディスクの約10倍から20倍の容量があります。これは、それだけ多くのデータを一度に扱える、というメリットとともに、万が一障害が発生したとき、それはデータ容量に比例して大きいものになるという、デメリットを合せ持っています。

フロッピーディスクが、デリケートな記憶媒体であることはご存じだと思いますが、ハードディスクは、フロッピーディスク並みにデリケートなものです。

以下はできる限り避けていただきたい条項です。

●ハードディスクにアクセスしている状態、またはアクセスランプか点灯している時は、電源を切らない。

●不安定な箇所には設置しない。

●極端に粉塵の多い場所での使用は避ける。

●ハードディスクの上に、花瓶やコップなどを置かない。

●調子が悪いからといって、ハードディスクをたたかない。

上記の事はできる限り避けて下さい。

また、ハードディスクの機種によっては、マニュアルに使用上の制限事項が記載されている場合がありますので、そちらもご一読下さい。

MET's Filedriver 4 はディスクアクセス以外は、ハードディスクのヘッドをセーフティゾーンに退避させる、オートシッピング機構を持っています。

この為、突然の事故からハードディスクを守るようになっています。

もっと、最近の新型ハードディスクは、ほどんどの機種においてこの機能を持っています。

ただ、危険防止の意味からもコンピュータの電源を切る際は、必ず[STOP]キーをおしてから、電源を切るようにして下さい。

以下の手順で終了作業を行なって下さい。

① **MET's Filedriver 4** を終了させる。

②キーボードの[STOP]キーを押す。

③ハードディスクの電源を切る。

この時、内蔵型のハードディスクをご使用のかたは次に進んで下さい。

④コンピュータ本体の電源を切る。

一度の過ちが、取返しのつかないことにならないよう、注意して下さい。
また、重要なデータはできる限りこまめに、ハードディスクバックアップユーティリティで、バックアップを取るように心掛けて下さい。

第２章　MET's Filedriver 4の導入の前に

　ここでは**MET's Filedriver 4**をハードディスクにインストールする前に行なっておかなければならない事柄を説明します。

2.1 MET's Filedriver 4のシステムディスクのバックアップ

　MET's Filedriver 4のプログラムが収められているフロッピーディスクは、世の中に存在する磁気記憶媒体の中で、脆弱な部類に入ります。
　この為、万が一に備えて以下の手順で、システムディスクのバックアップディスクを作成して下さい。
　MET's Filedriver 4はプロテクトは掛けていません。

●用意するもの
　MET's Filedriver 4システムディスク
　中に何も入っていないフロッピーディスク

　以下の説明ではハードディスクからMS－DOSを起動し、ハードディスクがA、フロッピードライブがB、Cと仮定して説明しています。

①ハードディスクからMS－DOSを起動し、A＞の状態にして下さい。

②A＞になりましたら、Bドライブに**MET's Filedriver 4**のシステムディスクを挿入して下さい。

③システムディスクを挿入しましたら、B：と入力し⏎キーを押して下さい。

④画面がB＞になりましたら、Cドライブに何も入っていない、フロッピーディスクを挿入して下さい。

⑤Cドライブにディスクを挿入しましたら、以下のコマンドを入力して、⏎キーを押して下さい。

```
BACKUP B: C:
```

⑥以下の様な画面が表示されます。

> ハードディスク・メニュー・ユーティリティ
>
> MET's File Driver Ⅳ
>
> システムディスク・バックアップ・バックアップユーティリティ
>
> ---
>
> MET's File Driver Ⅳの
>
> システムディスクのバックアップを実行します
>
> B:ドライブ　にMET's File Driver Ⅳのシステムディスクを、
>
> C:ドライブ　に新しいフロッピーディスクを挿入して下さい
>
> 中止する時は、STOPｷｰか、CTRLｷｰを押しながら Cｷｰを押して下さい
>
> 準備ができたらどれかキーを押してください.

⑥前記の画面が表示されましたら、フロッピーディスクを確認した上で、何か適当なキーを押して下さい。
次の画面が表示されます。

> MET's File Driver Ⅳ システムディスク バックアップ中!!
>
> 終了までフロッピーディスクは抜かないで下さい
>
> * 自動フォーマット・ディスクコピー * version 1.09
>
> (c) 1992 Userside Software Technology Inc.
>
> 複写元 [B] 複写先 [C] タイプ [2HD1MB]
>
> 複写後ベリファイを行います

⑦前記の画面の状態ではフロッピーディスクは抜かないで下さい。
バックアップが終了すると、次の画面が表示されます。

MET's File Driver Ⅳのシステムディスクのバックアップを終了しました
作成されたディスクはバックアップディスクといいます
システムディスクは大切に保管し、以後の作業はこのディスクで行って下さい

⑧以上で **MET's Filedriver 4** のシステムディスクのバックアップは終了です。
フロッピーディスクを抜き、システムディスクは大切に保管して下さい。

作成したディスクはバックアップディスクといい、以後の作業はこのバックアップディスクで行って下さい。

●98NOTEでのバックアップの取りかた

98NOTEの場合、標準ではフロッピーディスクが１基しか搭載されていません。

この様な場合、MS－DOSのコマンドをもちいてフロッピーディスクを丸ごとコピーするのはかなり難しい問題です。

そこで、このハンディを解消するため98NOTEには独自のコピー機能がもうけられています。

以下はその説明です。

なお、ここでは標準構成の「PC－9801NS／T（98 NOTE SX／T）」で説明を行ないます。

また、以下のディスクを使用します。

●**MET's Filedriver 4** システムディスク
●新品の3.5インチのフロッピーディスク

①PC－9801NS／Tの「HELPキー」を押しながら、電源スイッチまたは、本体左側面にある、リセットボタンを押します。

②リセットボタンを押しましたら、1～2秒たってから「HELPキー」を放して下さい。

③すると以下の様なメニュー画面が表示されます。

```
◆ 98NOTE メニュー ◆

メインメニュー
        ↑↓キーで項目を選び、リターンキーを押して下さい

            1.モード設定
            2.FD→RAMドライブコピー
            3.RAMドライブ→FDコピー
            4.FD→FDコピー
            5.オートモード
            6.動作環境の設定
            7.システム起動
```

④この中で、「4.FD→FDコピー」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
以下の様なメッセージが表示されます。

ＲＡＭドライブを作業領域に使用してコピーを行ないます
よろしいですか？（Ｙ／Ｎ）

⑤上記の画面が表示されましたら、「N」を押して下さい。
もし、RAMドライブを設定されている状態で「Y」を押すと、RAMドライブをディスクコピーの作業領域として、使用するためRAMドライブの内容は消えてしまいます。
どちらかのキーを押すと、以下の様なメッセージが表示されます。

フォーマットしながらコピーしますか？(Ｙ／Ｎ)

⑥上記メッセージが表示されましたら、「Y」を入力して下さい。
次の様なメッセージが表示されます。

コピー元のフロッピーディスクを挿入して下さい
(準備ができたらリターンキーを押して下さい)

⑦上記のメッセージが表示されましたら、**MET's Filedriver 4**のシステムディスクを、フロッピードライブに挿入し、⏎キーを押して下さい。
この時、**MET's Filedriver 4**のシステムディスクのライトプロテクトを確認して下さい。
以下の様な画面が表示されます。

読み込み中です

0　　100％

⑧しばらくすると画面上部に以下の様なメッセージが表示されますので、フロッピードライブからコピー元の**MET's Filedriver 4**のシステムディスクを取り出し、新品の3.5インチのフロッピーディスクを挿入して下さい。

コピー元のフロッピーディスクを取り出し、コピー元のフロッピーディスクを挿入して下さい

⑨これを何回か繰り返しましたら、画面上部に「FD→FDコピーを終了しました」と表示されます。
これで**MET's Filedriver 4**のシステムディスクのバックアップは終了です。

フロッピードライブから **MET's Filedriver 4** のバックアップディスクを抜き、大切に保管して下さい。
⏎キーを押すと「98NOTE メニュー」に戻りますので、フロッピーディスクドライブに何もないことを確認した上で、「Q.終了」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ハードディスクが接続されていて、MS－DOSのシステムが存在する場合はハードディスクからMS－DOSが立ち上がってきます。

第3章　MET's Filedriver 4の導入

3.1 MET's Filedriver 4の構成ファイル

MET's Filedriver 4 のマスターディスクには以下のファイルが収納されています。

●ルートディレクトリ

MFD.COM	**MET's Filedriver 4** システムプログラム
MFD.EXE	**MET's Filedriver 4** システムプログラム
MFD.SYS	**MET's Filedriver 4** システムプログラム
MFD.HLP	**MET's Filedriver 4** ヘルプファイル
MFD.ALG	**MET's Filedriver 4** 画面色データ
MSDRV.COM	**MET's Filedriver 4** マウスファイル
FDRV.EXE	**MET's Filedriver 4** 添付ファイル管理プログラム
ME.EXE	**MET's Filedriver 4** 添付エディタ
HDINST.BAT	**MET's Filedriver 4** ハードディスクインストール用ファイル
INS.BAT	**MET's Filedriver 4** ハードディスクインストール用ファイル
CHKFILE.EXE	インストール用プログラム
CONFIG.MFD	**MET's Filedriver 4** 用「CONFIG.SYS」 インストール時に「CONFIG.SYS」にリネーム
AUTOEXEC.MFD	**MET's Filedriver 4** 用「AUTOEXEC.BAT」 インストール時に「AUTOEXEC.BAT」にリネーム
BACKUP.BAT	**MET's Filedriver 4** 用のシステムディスクバックアッププログラム
MNCFDC.COM	前記、「BACKUP.BAT」内で使用する、フロッピーコピーユーティリティ
HOLIDAY.DAT	休日設定用テキストファイル
ACLAMP.COM	ハードディスクアクセス状態表示ユーティリティ

●サブディレクトリ￥HCAの各ディレクトリ内

ファイル名.HCA	**MET's Filedriver 4** 用アプリケーションソフト登録用ファイル
ファイル名.HCM	**MET's Filedriver 4** 用マニュアル登録専用ファイル

●サブディレクトリ￥HCF

ファイル名.HCF	**MET's Filedriver 4** 用日本語入力FEP登録用ファイル

●サブディレクトリ￥MENUDATA

ファイル名.CNF	各ドライブ用の **MET's Filedriver 4** 環境ファイル
ファイル名.ALG	**MET's Filedriver 4** 用画面色データ

以上のファイルが **MET's Filedriver 4** のマスターディスクの内容となります。
またハードディスクにインストールされた後、以下のファイルが作成されます。

●サブディレクトリ¥MFD

MENU.IDX	アプリケーションソフト用メニューインデックスファイル
FEP.IDX	日本語入力FEP用メニューインデックスファイル
MFD.CNF	**MET's Filedriver 4** の環境ファイル

●ルートディレクトリ
AUTOEXEC.BAT
CONFIG.SYS

●サブディレクトリHCF

●サブディレクトリHCA

◎前記のファイルの内、「MENU.IDX」と「FEP.IDX」はハードディスクのサブディレクトリ¥MFDに同名のファイルがある場合、新規作成は行なわず、そのファイルを使用します。
したがいまして、MET's Filedriver シリーズがインストールされているハードディスクに、MET's Filedriver 4をインストールした場合、新規作成は行ないませんが、メニューデータは使用することができます。
また、「AUTOEXEC.BAT」と「CONIFG.SYS」は、ルートディレクトリに同名のファイルが存在した場合、それぞれ「AUTOEXEC.BAK」、「CONFIG.BAK」に書き換えます。
もし、すでに「AUTOEXEC.BAK」、「CONFIG.BAK」も存在した場合は、それぞれ、「AUTOEXEC.BAC」、「CONFIG.BAC」に変更します。

●参考事項　MET's Filedriver 4 の使用メモリ

MET's Filedriver 4 は約2.5KBがメインメモリ常駐します。
以下にその状態を示します。

例1

使用MS－DOS	MS－DOS3.3D（91－11－08）
●計測条件	
CONFIG.SYS	FILES=30 BUFFERS=10 SHELL=A:¥COMMAND.COM A:¥ /P
AUTOEXEC.BAT	CD A:¥MFD MFD CD A:¥
計測使用ソフト	VMAP.COM Ver2.01

1．メニュー表示時

```
VMAP Version 2.01  Copyright (C) 1989-91 by c.mos

addr PSP  blks   size  owner/parameters            hooked vectors
---- ---- ---- ------  -------------------------   ---------------------------
1047 sys    1   21952  <config>
15A4 <--    3    3712  command                     2E
168F 1693   2    2432  mfd
1729 172D   3    3712  command                     22 23 24
1814-A000   1  556720  <free>
```

◎ **MET's Filedriver 4** の標準使用のFEPは使用しないに設定。
その後、メインメニュー内の「9：Shell(Command.com)の起動」からMS－DOSに入って計測。
また、上記の値は出荷バージョンによって変化する場合があります。

2. アプリケーション起動時

弊社のMET's File Control Cute Ver2.5 を、**MET's Filedriver 4**に登録、起動し、「MS－DOSコマンド実行」から、VMAP.COMを実行

日本語入力FEPは使用せず

```
VMAP Version 2.01  Copyright (C) 1989-91 by c.mos

addr PSP  blks   size  owner/parameters               hooked vectors
---- ---- ---- ------- ------------------------------ ---------------------------
1047 sys    1   21952  <config>
15A4 <--    3    3712  command                        2E
168F 1694   2    2448  mfd
172A 172F   4    3792  command
181B 1822   3   44960  mfc      EXE
2318 231F   3    3760  command                        22 23 24
2406-A000   1  507792  <free>
```

上記の値は出荷バージョンによって変化する場合があります。

例２

使用ＭＳ－ＤＯＳＭＳ－ＤＯＳ５.０（９１－１１－１８）

●計測条件

CONFIG.SYS	FILES=30 SHELL=A:¥COMMAND.COM DEVICE=A:¥DOS¥HIMEM.SYS DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.SYS /P=160 /UMB DEVICEHIGH=A:¥DOS¥SMARTDRV.SYS 1280 128 DEVICEHIGH=A:¥DOS¥PRINT.SYS /U DEVICEHIGH=A:¥DOS¥RSDRV.SYS DEVICEHIGH=A:¥DOS¥KKCFUNC.SYS DOS=HIGH,UMB
AUTOEXEC.BAT	CD A:¥MFD MFD CD A:¥
計測使用ソフト	VMAP.COM Ver2.01

１．メニュー表示時

```
VMAP Version 2.01  Copyright (C) 1989-91 by c.mos

addr PSP  blks   size  owner/parameters           hooked vectors
---- ---- ---- ------  -------------------------  ---------------------------
D001 <--     1  49120  umb                        05 1B
DC00 000A    1   8192  sm                         0D
DE01 <--     1   8176  umb
                       --- UMB total:  64 KB ---
0589 sys     1   3808  himem                      DC
0678 sys     1   7808  emm386                     1F 4B 67
0861 sys     4  43728  <config>
1312 <--     3   2960  command                    2E 2F
13CE 13D2    2   2416  mfd
1467 146B    3   2944  command                    22 23 24
1522-9FFF    1 568768  <free>

----- EMS ver4.0 (frame: C000h) -----      ----- XMS ver2.00 -----
handle pages   size  name                  HMA used: 59 KB by DOS
------ ----- ------  --------             EMB free: 1020 KB
  free   160  2560k
 total   160  2560k
```

2. アプリケーション起動時

弊社のMET's File Control Cute Ver2.5 を、**MET's Filedriver 4**に登録、起動し、「MS－DOSコマンド実行」から、VMAP.COMを実行

日本語入力FEPは使用せず

```
VMAP Version 2.01  Copyright (C) 1989-91 by c.mos

addr PSP  blks   size  owner/parameters              hooked vectors
---- ---- ---- ------  ------------------------      ------------------------------
D001 <--     1  49120  umb                           1B
DC00 000A    1   8192  sm                            0D
DE01 <--     1   8176  umb
                       --- UMB total:  64 KB ---
0589 sys     1   3808  himem                         DC
0678 sys     1   7808  emm386                        1F 4B 67
0861 sys     4  43728  <config>
1312 <--     3   2960  command                       2E 2F
13CE 13D2    2   7728  mfd                           05
15B3 15B7    4   3008  command
1673 167A    3  44960  mfc     EXE
2170 2177    3   2992  command                       22 23 24
222E-9FFF    1 515328  <free>

----- EMS ver4.0 (frame: C000h) -----        ----- XMS ver2.00 -----
handle pages   size  name                    HMA used: 59 KB by DOS
------ -----  ------  --------               EMB free: 1020 KB
  free   160  2560k
 total   160  2560k
```

3.2 MET's Filedriver 4のインストール

前章までで **MET's Filedriver 4** のインストールの準備が整いました。
ここではいよいよ **MET's Filedriver 4** をハードディスクにインストールします。

いままでMET's Filedriverシリーズをご使用の場合、**MET's Filedriver 4** を上書きの形でインストールすると、それまで構築されたメニューデータは、そのまま **MET's Filedriver 4** 上でご使用になれます。
ただし、1ページ当りのメニュータイトル登録数が変った関係上、**MET's Filedriver 4** のメニューデータは、他のMET's Filedriverシリーズで使用することは出来ません。
この為、インストール先にMET's Filedriverシリーズのメニューデータが存在した場合、そのファイルの拡張子を「.OLD」に書き出し、保存します。

準備するもの
● MS－DOSでフォーマットされ、MS－DOSのシステムが転送されたハードディスク（ハードディスクの初期化、領域確保の方法は、お手数ですが、MS－DOSのマニュアルか、ご使用のハードディスクのマニュアルをご参照下さい）
● **MET's Filedriver 4** のシステムディスク

なお、以下の説明はMS－DOSのバージョンが3.3D、ハードディスクがAドライブで、単一の拡張フォーマット、フロッピードライブがB、Cと仮定します。

①ハードディスクからMS－DOSを起動して、画面をA＞の状態にして下さい。

②A＞の状態になりましたら、Bドライブに、**MET's Filedriver 4** のシステムディスクを入れて下さい。

③A＞の状態から以下のコマンドを入力して⏎キーを押して下さい。

```
A＞B：
```

④B＞の状態になりますので、以下のコマンドを入力して⏎キーを押して下さい。

```
B＞HDINST
```

注意事項

Ａドライブ以外のハードディスクにインストールされたい場合は、カレントドライブをハードディスク以外のドライブに変更した後、「HDISNT」と入力し、半角でスペースを１つ入れた後、目的先のハードディスクのドライブ名を入力して下さい。
以下の例はハードディスクをＡ、Ｂと分割していて、ＢドライブにMET's Filedriver3をインストールする場合です。この時、フロッピードライブはＣ、Ｄとなります。

Ｃ＞HDINST Ｂ：

⑤次のようなインストールプログラムの画面が立ち上がってきます。

ハードディスク・メニュー・ユーティリティ
MET'S File Driver Ⅳ
ハードディスク・インストール

B: ドライブのハードディスクに
MET'S File Driver Ⅳを
インストールします

中止する時は、STOPキーか、CTRLキーを押しながら Cｷｰを押して下さい
準備ができたらどれかキーを押して下さい

⑥ **MET's Filedriver 4** のシステムディスクが、送り先のドライブに入っている事を確認した上で、⏎キーを押して下さい。

⑦画面の中ほどに、以下の様に表示されます。

MET'S File Driver Ⅳ　インストール中！！
終了までフロッピーディスクを抜かないで下さい

⑧インストールが終了しましたら、次の様な画面が表示されます。

```
MET'S File Driver Ⅳ の、ハードディスクへのインストールが終了しました
フロッピーディスクを抜いて、リセットボタンを押せば、MET'S File DriverⅣが起動します
MET'S File Driver シリーズに上書きされた場合は、MET'S File Driver Ⅳ起動後、標準使用のFEPを設定し直してください
```

⑨上記のメッセージが表示されましたら、フロッピードライブに入っている **MET's Filedriver 4** のシステムディスクを抜き、コンピュータ本体のリセットボタンを押して下さい。

MS－DOSの起動後、**MET's Filedriver 4**が起動します。
また、MET's Filedriverシリーズに **MET's Filedriver 4**を上書きした場合、お手数ですが標準使用のFEPを設定しなおしてください。

注意事項

MET's Filedriverシリーズから、**MET's Filedriver 4**に変更された場合、登録されているアプリケーションソフトは、必ず、1回立ち上げて下さい。
これは、**MET's Filedriver 4**では、アプリケーションソフトの実行情報ファイル名を、従来のSETUP.BATから、MFD.BATに変更しているため、**MET's Filedriver 4**変更直後に実行情報ファイルの編集を行った場合、SETUP.BATではなく、MFD.BATの存在を見てしまうことを防ぐためです。
なお、SETUP.BATは、**MET's Filedriver 4**から、そのアプリケーションソフトを1回起動することにより、自動的にMFD.BATにリネーム、変更されます。

●MET's Filedriver 4のハードディスクインストール時の注意事項

1. **MET's Filedriver 4**をハードディスクにインストールした時、そのルートディレクトリに、すでに「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」が存在していると、それぞれ「CONFIG.BAK」、「AUTOEXEC.BAK」に書き換えられ、「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」は**MET's Filedriver 4**用に以下の様に変更されます。

●CONFIG.SYS

```
FILES = 30
BUFFERS = 10
```

●AUTOEXEC.BAT

```
CD ¥MFD
MFD
CD ¥
```

また、すでに「AUTOEXEC.BAK」と「CONFIG.BAK」が存在していた場合、そのファイルは「AUTOEXEC.BAC」と「CONFIG.BAC」に変更されます。

2. MS－DOSの領域が２つ以上確保されている場合や、２台以上ハードディスクを接続されている場合は、どれか１つの領域かドライブに**MET's Filedriver 4**をインストールして下さい。
   もし、１台のコンピュータに**MET's Filedriver 4**のシステムが複数存在した場合、正常な動作ができなくなる可能性があります。

3.　インストール中、以下のようなメッセージが出た場合、以下のような原因が考えられます

メッセージ ディレクトリは作成できません 原因 ハードディスクのルートディレクトリに「MFD」というファイルがある場合か、Aドライブ以外にインストールした場合のドライブ指定が間違っているのが原因です 対策 インストールはそのまま終了してしまいますので、ルートディレクトリに存在するMFD関係のファイルを全て削除してインストールを再実行して下さい

メッセージ セクタが見つかりません 原因 MET's Filedriver 4のマスターディスクがなんらかの原因により、破壊されている可能性があります 対策 お手数ですが弊社ユーザサポートまでご連絡下さい

●モノクロ液晶をご使用の場合

MET's Filedriver 4をモノクロ液晶でご使用になる場合は、システムディスク内のサブディレクトリ、￥MENUDATA内に存在する、「MFDMONO.ALG」か、「MFDMONO2.ALG」を
ハードディスク内のサブディレクトリ、￥MFDに「MFD.ALG」のファイル名でコピーして下さい。

２つあるのは、弊社でチェック中、同一機種で、２種類の液晶の存在を確認した為です。

以下の手順で、コピーして下さい。
なお、以下の説明は、ハードディスクがAドライブ、フロッピーディスクドライブは、Bドライブで、
コピーするファイルは、「MFDMONO.ALG」と仮定します。

①ハードディスクから、MS－DOSを起動し、画面をＡ>の状態にして下さい。

②Ａ>になりましたら、Ｂドライブに**MET's Filedriver 4**のシステムディスクを挿入し、以下のコマンドを入力して⏎キーを押して下さい。

```
COPY B:¥MENUDATA¥MFDMONO.ALG A:¥MFD¥MFD.ALG
```

③コピーが終了しましたら、次章に進んで下さい。

第4章　MET's Filedriver 4の起動の前に・・・

4.1「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」について

この項は、MS－DOSに自信のあるかたは、読み飛ばしてください

前項で、ハードディスクに**MET's Filedriver 4**をインストールすることができました。
いよいよ**MET's Filedriver 4**をハードディスクから起動します。

その前に触れておきたい事柄があります。
それは「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」についてです。この２つのファイルは**MET's Filedriver 4**に限らず、MS－DOSの環境下で動作するアプリケーションソフトには、なくてはならない重要なファイルです。

●CONFIG.SYSとは

このファイルはMS－DOSの環境ファイルです。MS－DOSを起動したとき、「CONFIG.SYS」があると、MS－DOSはその内容にそって、以後の使用できる環境を整えます。
例をあげますと現在市販されている日本語入力FEPの中に、㈱ジャストシステム社の「ATOK7」という日本語入力FEPがあります。
この日本語入力FEPがMS－DOS上で使用できるようにするには、「CONFIG.SYS」に以下のように記述する必要があります。

```
DEVICE=ATOK7A. SYS  /D=ATOK7. DIC
DEVICE=ATOK7B. SYS
```

上記のように「CONFIG.SYS」に記述してあると、MS－DOSは、起動後のMS－DOSの中で「ATOK7」を使えるように設定します。
もし、上記のような記述がないと,「ATOK7」にかぎらず同じ様な日本語入力FEPや、デバイス形式で指定するファイルは使う事はできません。
日本語入力FEPの場合、宣言がないと変換動作を行なったとき、画面下に本来表示されるべき表示にかわって、「16進」と表示されます。
このように「CONFIG.SYS」に「DEVICE＝」の形式で記述できるファイルを、「デバイスドライバ」といいます。
また、この「デバイスドライバ」にも種類が存在し、1つは「キャラクタ系デバイスドライバ」、もう1つを「ブロック系デバイスドライバ」といいます。

この両者の違いを詳しく解説しますと、難しくなりますのでMS－DOSのマニュアルや、参考書に譲りますが、「キャラクタ系デバイスドライバ」が、特殊なコマンドを使ってMS－DOS起動後、MS－DOSの環境に接続、切り離しのできるデバイスドライバで、「ブロック系デバイスドライバ」が接続、切り離しができず、MS－DOSの起動時に「CONFIG.SYS」に記述されていないと、使用できないデバイスドライバーだと理解して下さい。

この特殊なコマンドは「ADDDRV.EXE」「DELDRV.EXE」というファイルで、MS－DOS Ver3.1の後期のバージョンからサポートされたものです。

「ADDDRV.EXE」が接続を、「DELDEV.EXE」が切り離しを行ないます。

このコマンドを使う場合、「CONFIG.SYS」には、このコマンドでMS－DOSの環境に接続する「キャラクタ系デバイスドライバ」を記述してはいけません。

前出の「ATOK7」を例にあげましょう。

「CONFIG.SYS」に「ATOK7」が記述された状態で、MS－DOSを起動すると、MS－DOSは、その環境で「ATOK7」が使えるように設定することは、すでに述べましたが、この状態で「ADDDRV.EXE」を使って、「ATOK7」を接続すると、「CONFIG.SYS」による「ATOK7」の設定の後に、「ADDDRV.EXE」による「ATOK7」の設定が来るようになり、２重にメインメモリに「ATOK7」が存在する形になります。

こうなりますと、メインメモリの残り容量がわずかとなり、「ATOK7」を入力システムとして使う㈱ジャストシステムの「一太郎Ver4.3」などが起動しなくなる可能性があります。

ここで **MET's Filedriver 4** と「CONFIG.SYS」の関係ですが、後にも述べますように、**MET's Filedriver 4** は、「日本語入力FEP」と「デバイスドライバ」は、「アプリケーションソフト」とは個別に登録する形をとっています。

そして「日本語入力FEP」の切り換えは、MS－DOSの「ADDDRV.EXE」や「DELDRV.EXE」とほぼ、同じような動作を行ないます。

したがって、**MET's Filedriver 4** をご使用になる際は、「CONFIG.SYS」に「キャラクター系デバイスドライバー」、特に「日本語入力FEP」は記述しないで下さい。

ただし、EMSドライバーなどの記述はいたしかたない場合があります。

● AUTOEXEC.BATとは

このファイルはMS－DOSを起動して「CONFIG.SYS」を読み込んだ後、ルートディレクトリにこのファイルが存在していた場合、その内容を自動的に実行するファイルです。

「MS－DOS3.3D（PS98－1002)」の「システムディスク＃１」から作成した、「運用ディスク＃１」の「AUTOEXEC.BAT」を例に上げてみましょう。

以下のような内容になっています。

```
MENU
```

これは「MENU」というコマンドを実行しろ、という意味になります。

試しに「MS－DOS3.3D（PS98－1002）の「運用ディスク＃１」を、コンピュータ本体のフロッピードライブ１に入れて、リセットボタンを押してみましょう。

フロッピードライブからMS－DOSが起動し、「CONFIG.SYS」に記述されたデバイスドライバーの宣言を行ない、「COMMAND.COM」のバージョン表示を行なった後、画面に一瞬ですが「A＞MENU」と表示されます。

そしてすぐに「MS－DOS3.3D コマンドメニュー」というメニューが表示されるはずです。

これは、「AUTOEXEC.BAT」に宣言されている「MENU」を実行した結果、このように表示されたものです。

MET's Filedriver 4は、ハードディスクにインストール時に、ルートディレクトリに「AUTOEX EC.BAT」が存在した場合、「AUTOEXEC.BAK」に書き換えることは、「4.4 MET's Filedriver 4のインストール」で述べましたが、これは**MET's Filedriver 4**がMS－DOS起動後、 すみやかに立ち上がるためのものです。

ただし、後にも述べますが**MET's Filedriver 4**をインストールした後、**MET's Filedriver 4**の「自動　登録」で対応できないアプリケーションソフトを、そのソフトの持つ、ハードディスクインストールプ　ログラムでインストールした場合、ハードディスクのルートディレクトリ「AUTOEXEC.BAT」をそのソフト専用に書き換えてしまう場合があります。

このようなときは、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」を**MET's Filedriver 4**用に以下の様に直す必要が出てきます。

● AUTOEXEC.BAT

```
CD ¥MFD
MFD
CD ¥
```

●CONFIG.SYS

```
FILES = 30
BUFFERS = 10
```

以上のように、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」は、ハードディスクから**MET's Filedriver 4**のみならず、アプリケーションソフトをすみやかに起動するために、必要なファイルだということをご理解いただけたと思います。

次の項でいよいよ**MET's Filedriver 4**の**MET's Filedriver 4**の起動について説明いたします。

第５章　MET's Filedriver 4の起動

5.1 MET's Filedriver 4の起動

いよいよ**MET's Filedriver 4**をハードディスクから起動します。
以下の手順で起動して下さい。
なお、以下の説明はコンピュータ本体に接続されているハードディスクが１台で、MS－DOS 3.3Dでフォーマットを行い、確保されている領域が１つと仮定しています。

> 注意事項
>
> MET's Filedriverシリーズから、**MET's Filedriver 4**に変更された場合、登録されているアプリケーションソフトは、必ず、1回立ち上げて下さい。
> これは、**MET's Filedriver 4**では、アプリケーションソフトの実行情報ファイル名を、従来のSETUP.BATから、MFD.BATに変更しているため、**MET's Filedriver 4**変更直後に実行情報ファイルの編集を行った場合、SETUP.BATではなく、MFD.BATの存在を見てしまうことを防ぐためです。
> なお、SETUP.BATは、**MET's Filedriver 4**から、そのアプリケーションソフトを1回起動することにより、自動的にMFD.BATにリネーム、変更されます。

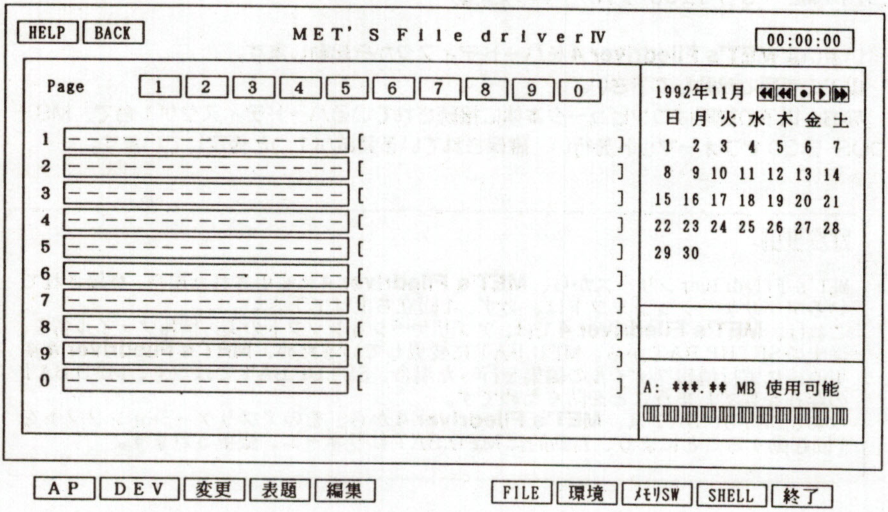
①コンピュータ本体の内蔵フロッピーディスクドライブや、外付けのフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていない状態で、ハードディスクの電源を入れて下さい。

> 注意事項
>
> この時、内蔵型のハードディスクをお使いの場合か、ハードディスクの電源がコンピュータ本体の電源と連動している場合は、この限りではありません。

②コンピュータ本体の電源を入れて下さい。

③MS－DOSが立ち上がってきて、その後**MET's Filedriver 4**が起動します。

④以下の画面が**MET's Filedriver 4**の「アプリケーションメニュー画面」です。
この画面が**MET's Filedriver 4**の全ての始りであり、全ての終りの画面です。



⑤このアプリケーションメニューでは、1ページに10タイトルまでのアプリケーションソフトを登録でき、そのページが10ページあります。したがって、合計100タイトルまでのアプリケーションソフトをメニューに登録することができます。
ただし、登録できるアプリケーションソフトはハードディスクの容量により、左右されます。

●メイン画面で使用できるキー

SPACE

押すと「メインメニュー」を表示します。

↑、↓

「メインメニュー」の各機能を選択することができます。

INS

登録したアプリケーションソフト、日本語入力FEPのタイトルの並びを、変更することができます。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、0

数字のキーですが、どれかを押すと、画面に表示されているアプリケーションメニューの、ページに登録されている、アプリケーションソフト名のタイトルに、カーソルを移すとこが可能です。
ただし、その位置に登録されていないと、カーソルは移動しません。

HELP

押した時の画面に応じた「HELPファイル」を表示します。

ESC

MET's Filedriver 4の終了メニューを表示します。

⏎

選択したアプリケーションソフトを起動することができます。

F1

画面上は「AP」と表示されているキーで、アプリケーション登録、削除のウインドが開きます。
スペースキーを押した時に表示される、「メインメニュー」の「0：アプリケーションの登録」「1：アプリケーションの削除」と同じ機能です。

F2

画面上は「DEV」と表示されているキーで、デバイスドライバ登録、削除のウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「2：デバイスドライバの登録」「3：デバイスドライバの削除」と同じ機能です。

F3

画面上は「変更」と表示されているキーで、**MET's Filedriver 4**の画面上や、登録されたアプリケーションソフトで使用する日本語入力FEPや、デバイスドライバの選択を行う、ウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「4：標準で使うデバイスの選択」、「5：APで使うデバイスの選択」と同じ機能です。

F4

画面上は「表題」と表示されているキーで、**MET's Filedriver 4**に登録されたアプリケーションソフトや、日本語入力FEPのタイトルや表題を変更するためのウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「6：APタイトル・表題変更」と同じ機能です。

F5

画面上は「編集」と表示されているキーで、**MET's Filedriver 4**に登録されたアプリケーションソフトの「MFD.BAT」や「CONFIG.DEV」、日本語入力FEPの「CONF IG.DEV」、「任意のファイル」などを編集することができる、「環境ファイル編集」の　ウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「7：AP環境ファイルの編集と同じ機能です。

F6

画面上は「FILE」と表示されているキーで、後述する環境設定で設定した、ファイル管理ソフトを起動することが出来ます。
スペースキーを押した時に表示される、メインメニューの「+：ファイル管理の呼び出し」と同じ機能です。

F7

画面上は「環境」と表示されているキーで、**MET's Filedriver 4**の動作環境を設定するウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「*：MFD Ⅳ実行環境の設定」と同じ機能です。

F8

画面上は「ﾒﾓﾘSW」と表示されているキーで、メモリスイッチの設定を行うウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「8：メモリスイッチの設定」と同じ機能です。

F9

画面上は「SHELL」と表示されているキーで、メモリスイッチの設定を行うウインドが開きます。
スペースキーを押した時表示される、メインメニューの「9：SEHLL（COMMAND.COM）起動」と同じ機能です。

F10

画面上は「終了」と表示されているキーで、**MET's Filedriver 4**を終了し、MS－DOSに戻ります。

ROLL UP、ROLL DOWN

カレンダー表示を１ヵ月ごとに変更することができます。
ROLL UP で、１ヵ月先にすすみ、ROLL DOWN で、１ヵ月戻ります。

SHIFT＋ ROLL UP 、SHIFT ＋ ROLL DOWN

カレンダー表示を１年単位で変更します。
SHIFT＋ ROLL UP で、１年先にすすみ、SHIFT ＋ ROLL DOWN で、１年戻ります。

HOME CLR

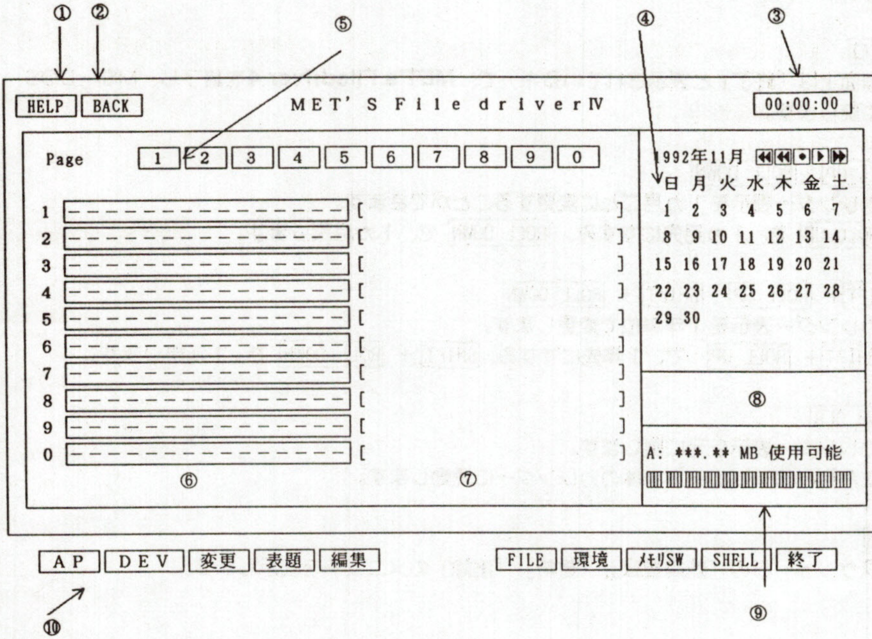
カレンダー表示を元に戻します。
ただし、コンピュータ本体のカレンダーに連動します。

TAB

スケジューラの「新規登録」、「更新」、「削除」のメニューを表示します。

●各部の名称

以下に **MET's Filedriver 4** の各部名称を説明します。
なお、表示されていない箇所に関しては、それぞれの説明時に紹介します。



①マウス使用時のヘルプアイコン
　キーボードの「HELP」キーを押しても、同様の内容が表示されます。
②マウス使用時の終了メニューアイコン。
　キーボードの「ESC」キーを押しても、同様の内容が表示されます。
③時計表示
　コンピュータ本体の内蔵時計に連動します。
④カレンダー表示
　コンピュータ本体内蔵のカレンダーに連動します。
⑤アプリケーションメニューページ表示部
　いま、どのページのアプリケーションメニューを表示しているか、を示します。
⑥アプリケーションメニュー　タイトル部
　アプリケーションのタイトルを表示する箇所です。

⑦アプリケーションメニュー　表題表示部

アプリケーションの表題を表示する箇所です。

サブタイトルと考えて下さい。

⑧カレンダー休日内容表示

カレンダー用のデータファイル、「HOLIDAY.DAT」に記載されている休日の内容を表示します。

この「HOLIDAY.DAT」はテキストファイル形式なので、お客様が編集し、自分用の休日設定を行うこともできます。

⑨ディスク残容量表示

MET's Filedriver 4の「MFD Ⅳ実行環境の設定」で設定された、AP登録ドライブの残り容量を表示します。

⑩機能ファンクション

スペースキーを押した時に表示される、「メインメニュー」と同じ内容が含まれた、機能ファンクションキーです。

5.2 MET's Filedriver 4の環境設定

前の項で**MET's Filedriver 4**を起動することができました。
基本的にこのままの状態で、日本語入力FEPやアプリケーションソフトを登録することができるのですが、ここで**MET's Filedriver 4**自身の環境設定についてふれてみましょう。

MET's Filedriver 4の「メイン画面」からファンクションキーのF7「環境」を押すか、スペースキーを押し、メインメニューを表示してその中の「＊：MFD Ⅳ実行環境の設定」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のような画面が表示されます。

```
                環境設定
---------------------------------------------
  マウス使用      [ しない ] [ する ]
  マウス感度      [1] [2] [3] [4]
  AP登録ﾄﾞﾗｲﾌﾞ    [A:]
  起動Editor      [              ]
  起動File管理    [              ]
  CRT保護         [ ]

  [RET : 登録]    [ESC : 中止]
```

上記の画面が、**MET's Filedriver 4**の、環境設定画面になります。
ここで設定する項目は、**MET's Filedriver 4**のシステムの、動作に関しての環境設定となります。

●マウス使用

MET's Filedriver 4の、画面上の操作でマウスを使用するか、使用しないかの設定です。
なお、お使いになれるマウスの種類はバスマウスのみになります。
シリアルマウスはご使用になれません。

以下の方法で設定して下さい。

①マウス使用の項目にカーソルを合せます。

②カーソルを合せると、「する」にカーソルがあって反転表示の状態になっています。
もし、**MET's Filedriver 4**の画面上でマウスをご使用になるのでしたら、
このままで結構ですが、ご使用にならない場合は、← キーで「しない」に合せて下さい。

③マウス使用の設定は以上で終了です。
「マウスを使用しない」に設定された場合は、「AP登録ドライブ」に移ってください

「マウスを使用する」に設定された場合は次の項目の「マウス感度」も合せて設定して下さい。

他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

●マウス感度

MET's Filedriver 4の、画面上での上でのマウスの感度、すなわち移動量を決定します。
数値が少ない方、「1」が一番移動量が多くなり、「4」が一番移動量が少なくなります。
また、この移動量はお持ちのマウスの移動量に比例します。
つまり、移動量が200カウントのマウスと、800カウントのマウスでは、同じ「1」を選択しても移動量は800カウントのマウスの方が多くなります。

以下の方法で設定して下さい

①マウス感度の項目にカーソルを合せます。

②カーソルを合せると、「2」にカーソルがあって反転表示の状態になっています。
もし、この感度で**MET's Filedriver 4**の画面上で、マウスをご使用になるのでしたら、このままで結構ですが、感度を変更したい場合は、←キーか→キーで他の感度にカーソルを合せて下さい。

③マウス感度の設定は以上で終了です。
他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

●AP登録ドライブ

MET's Filedriver 4で、日本語入力FEPや、アプリケーションソフトを登録する場合の、初期ドライブを設定します。

ここで設定されたドライブ番号は、日本語入力FEPの自動登録、マニュアル登録の実行時や、アプリケーションソフトの自動登録、マニュアル登録、ユーザ登録の実行時に、登録優先ドライブとして認識され、登録時にドライブ変更を行わない限り、有効となります。

たとえば、Aドライブに**MET's Filedriver 4**のシステムがインストールされていても、この設定がBドライブ指定になっていた場合、日本語入力FEPや、アプリケーションソフトの登録は、Bドライブが優先ドライブとなり、登録時に変更しない限り、常にBドライブに登録を行います。
ここで設定されたドライブ番号は、画面右下の容量表示に残り容量とともに表示されます。

また、このドライブ番号の初期値は、インストールされたドライブ番号によって異なります。
これは、A~Lドライブまでのドライブにインストールした場合、そのドライブ番号に見あった環境ファイル、「MFD.CNF」をコピーしている為です。

以下の方法で設定して下さい
以下は**MET's Filedriver 4**がAドライブに存在する場合です。

①「AP登録ドライブ」の項目にカーソルを合せます。

②カーソルを合せると、すでに「A:」となっていて、反転表示の状態になっています。
もし、このドライブにアプリケーションソフトや、日本語入力FEPを登録されるのでしたらこのままで結構ですが、変更されたい場合は、← キーか → キーを押して下さい。
接続されているハードディスクのドライブ番号が表示されます。

③「AP登録ドライブ」の設定は以上で終了です。
他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

注意事項

この「AP登録ドライブ」の機能で、**MET's Filedriver 4**がインストールされているドライブ以外に、「AP登録ドライブ」を設定し、なんらかの理由でそのドライブが無くなってしまった後、MET's Filedriver 4を起動した場合、**MET's Filedriver 4**は正常に起動することができません。

たとえば、ハードディスクを2分割し、Aドライブに**MET's Filedriver 4**をインストールし、Bドライブを「AP登録ドライブ」として設定します。
そして、**MET's Filedriver 4**を終了させ、MS－DOSのフォーマットコマンドでBドライブをスリープ状態にして、Aドライブから**MET's Filedriver 4**を起動させようとしても
以下の様なメッセージが最下行に表示され、正常に**MET's Filedriver 4**を立ち上げることは出来ません。

```
ドライブの準備ができていません(B:)   中止   再試行
```

この場合は、中止を選択して、MS－DOSに戻り、Aドライブのサブディレクトリ¥MFDの中の「MFD.CNF」をMS－DOS の「DEL」で以下の様に削除してから、MET's Filedriver 4を再起動して下さい。

```
DEL MFD.CNF
```

また、この場合環境設定で設定されていた内容は、全て消えてしまいますので、MET's Filedriver 4が再起動した後、再度設定し直して下さい。

●起動Editor

この項目は、**MET's Filedriver 4** 上で編集作業を行うための、エディタの起動ファイル名を設定する項目です。

ここで設定されたエディタは、「アプリケーションの登録」の「ユーザ登録」、「AP環境ファイルの編集」の「環境ファイル編集」で使用することが出来ます。

この時、何も設定しない場合は標準添付の「ME.EXE」が立ち上がります。

以下に例として㈱ビレッジセンター社のVZエディタを例に上げます。

方法としては以下の２つが考えられます。

なお、以下の例の環境はハードディスクがＡドライブ、フロッピーディスクがB、Cドライブと仮定します。

1. サブディレクトリ￥MFDにVZエディタのファイルを全てコピーする場合

①サブディレクトリ￥MFDの中に、VZエディタの必要ファイルを全てコピーします。

② **MET's Filedriver 4** を立ち上げ、ファンクションキーのF7「環境」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示させ、「＊：MFD Ⅳの実行環境の設定」にカーソルを合せてキーを押して下さい。

「環境設定」のウインドが開きますので、「起動Editor」にカーソルを合せて下さい。

カーソルが点滅する状況になりますので、ここでVZエディタの起動ファイル名、「VZ」を半角で入力して下さい。

④「起動Editor」の設定は以上で終了です。

他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。

変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4** の画面に戻ります。

また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして、**MET's Filedriver 4** に戻ります。

2. すでにハードディスクにVZエディタがインストールされており、その中のファイルを使用する場合

この場合、例としてVZエディタがインストールされているディレクトリは、サブディレクトリ¥VZと仮定します。

① **MET's Filedriver 4**を立ち上げ、ファンクションキーのF5「編集」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
以下の様な「編集ファイル選択」のウインドが開きます。

編集ファイル選択
デバイス情報ファイル 実行情報ファイル 任意のファイル

②ここで、「任意のファイル」にカーソルを合せ⏎キーを押します。
ウインドが以下の様に切り換わります。

編集するファイル名を入力して下さい（中止:ESC）

③上記のウインドが開きました、以下の様にファイル名を入力して⏎キーを押して下さい。
なお、ファイル名はあくまで例ですので、ユーザ様が、ご都合のいいファイル名をご使用下さっても結構です。

```
VZ.BAT
```

④「③」でファイル名を入力し⏎キーを押すと、**MET's Filedriver 4**標準添付の「ME.EXE」が立ち上がってきます。
そして、画面中央に「新しいファイルです」と表示されます。
この状態から以下の文字列を入力して下さい。

```
CD ¥VZ
VZ %1
CD ¥MFD
```

注意事項

上記の入力で、「CD ¥MFD」の後は必ず、⏎キーを押して、画面上に表示されている「EOF」というマークが4行目に来るようにして下さい。
「EOF」とは「End Of File」の略で、ファイルの終わりを意味しています。

⑤入力が終わりましたら、ファンクションキーのF10に「終了」がありますので、このキーを押して下さい。
MET's Filedriver 4のメインメニューの「7：AP環境ファイルの編集」からこの作業に入られた場合には、メインメニューに戻り、ファンクションキーのF5「編集」から、作業に入られた場合にはメイン画面に戻ります。

⑥前記の状態から、ファンクションキーのF7「環境」を押すか、スペースキーを押して「メインメニュー」を表示させ、「＊：MFD Ⅳの実行環境の設定」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
「環境設定」のウインドが開きますので、↓ キーで「起動Editor」までカーソルを移動して下さい。
カーソルが点滅して入力待ちの状態になります。

⑦前記の状態になりましたら、「④」で作成したVZ.BATのファイル名「VZ」を半角で入力して下さい。

⑧他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

以上でVZエディタを**MET's Filedriver 4**の「起動Editor」に設定する方法は終了です。

●起動File管理

この項目は、**MET's Filedriver 4** 上で、ファイル管理行うためのファイル管理ソフトの起動ファイル　名を設定する項目です。
ここで設定されたファイル管理は、ファンクションキーのF6「FILE」や、メインメニューの「+：ファイル管理の呼び出し」で使用することが出来ます。
この時、何も設定しない場合は標準添付の「FDRV.EXE」が立ち上がります。

以下に例として㈱マイクロデータの「エコロジーⅡ」、弊社の「MET's File Control Cute」を例に上げます。
「エコロジーⅡ」は２つの方法が、「MET's File Control Cute」は１つの方法があります。

なお、以下の例の環境はハードディスクがＡドライブ、フロッピーディスクがＢ、Ｃドライブと仮定します。

Ⅰ. ㈱マイクロデータ「エコロジーⅡ」の場合

1. サブディレクトリ¥MFDにエコロジーⅡの必要ファイルをコピーする場合

①サブディレクトリ¥MFDの中に、エコロジーⅡの必要ファイルを全てコピーします。

② **MET's Filedriver 4** を立ち上げ、ファンクションキーのF7「環境」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示し、「＊：MFDⅣの実行環境の設定」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
画面中央に「環境設定」のウインドが開きますので、ウインドが開きましたら「起動File管理」に [↓] キーでカーソルを移動せて下さい。
カーソルが点滅する状況になりますので、ここでエコロジーⅡの起動ファイル名、「EC」を半角で入力して下さい。

④「起動File管理」の設定は以上で終了です。
他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4** の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして **MET's Filedriver 4** に戻ります。

2. すでにハードディスクにエコロジーⅡがインストールされており、その中のファイルを使用する場合

この場合、例としてエコロジーⅡがインストールされているディレクトリは、サブディレクトリ¥EC2と仮定します。

① **MET's Filedriver 4** を立ち上げ、ファンクションキーのF5「編集」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカー

ソルを合せて⏎キーを押して下さい。
以下の様な「編集ファイル選択」のウインドが開きます。

編集ファイル選択
デバイス情報ファイル 実行情報ファイル 任意のファイル

②ここで任意のファイルにカーソルを合せ⏎キーを押します。
ウインドが以下の様に切り換わります。

編集するファイル名を入力して下さい（中止:ESC）

③上記のウインドが開きました、以下の様にファイル名を入力して⏎キーを押して下さい。

```
EC.BAT
```

④「③」でファイル名を入力し⏎キーを押すと、**MET's Filedriver 4** 標準添付の「ME.EXE」か、前項の「起動Editor」で設定したエディタが立ち上がってきます。
標準添付の「ME.EXE」の場合は、画面中央に「新しいファイルです」と表示されます。
この状態から以下の文字列を入力して下さい。

```
CD ￥EC2
EC
CD ￥MFD
```

注意事項

この時、画面上に表示されている「EOF」とは「End Of File」の略で、ファイルの終わりを意味しています。
また、前項の「起動Editor」でエディタを設定した場合は、そのエディタごとに新規ファイルに対するあつかい方、終了方法が異なりますので、そのエディタのマニュアルをごらん下さい
例えば、前項で「起動Editor」に設定したVZエディタの場合、画面下部に以下の様に表示されます。

A：￥MFD￥EC.BATは見つかりません。新規ファイルですか？（Y/N)

上記のメッセージが表示されましたら、「Y」を入力して、⏎キーを押して下さい。
編集モードに入りますので、「④」の文字列を入力して下さい

⑤入力が終わりましたら、ファンクションキーのF10に「終了」がありますので、このキーを押して下さい。
MET's Filedriver 4のメインメニューの「7：AP環境ファイルの編集」からこの作業に入られた場合には、メインメニューに戻り、ファンクションキーのF5「編集」から作業に入られた場合にはメイン画面に戻ります。

⑥前記の状態から、ファンクションキーのF7「環境」を押すか、スペースキーを押して「メインメニュー」を表示させ、「＊：MFD Ⅳの実行環境の設定」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
「環境設定」のウインドが開きますので、↓ キーで「起動File管理」までカーソルを移動して下さい。
カーソルが点滅して入力待ちの状態になります。

⑦前記の状態になりましたら、「④」で作成したEC.BATのファイル名「EC」を半角で入力して下さい。

⑧他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

以上でエコロジーⅡを**MET's Filedriver 4**の「起動File管理」に設定する方法は終了です。

Ⅱ. 弊社のMET's File Control Cuteの場合

この場合、例としてMET's File Control Cuteがインストールされているディレクトリは、サブディレクトリ￥MFCと仮定します。

① **MET's Filedriver 4** を立ち上げ、ファンクションキーのF5「編集」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
以下の様な「環境ファイル編集」のウインドが開きます。

編集ファイル選択
デバイス情報ファイル 実行情報ファイル 任意のファイル

②ここで任意のファイルにカーソルを合せ⏎キーを押します。
ウインドが以下の様に切り換わります。

編集するファイル名を入力して下さい（中止:ESC)

③上記のウインドが開きましたら、以下の様にファイル名を入力して⏎キーを押して下さい。

```
MFCC.BAT
```

④「③」でファイル名を入力し、⏎キーを押すと、**MET's Filedriver 4** 標準添付の「ME.EXE」か、前項の「起動Editor」で設定したエディタが立ち上がってきます。
標準添付の「ME.EXE」の場合は、画面中央に「新しいファイルです」と表示されます。
この状態から以下の文字列を入力して下さい。

```
CD ￥MFC
SET PATH＝A：￥；A：￥MFC；
MFC
CD ￥MFD
```

注意事項

この時、画面上に表示されている「EOF」とは「End Of File」の略で、ファイルの終わりを意味しています。

前項の「起動Editor」でエディタを設定した場合は、そのエディタごとに新規ファイルに対するあつかい方が異なりますので、そのエディタのマニュアルをごらん下さい。

例えば、前項で「起動Editor」に設定したVZエディタの場合、画面下部に以下の様に表示されます。

A：¥MFD¥MFCC.BATは見つかりません。新規ファイルですか？(Y/N)

上記のメッセージが表示されましたら、「Y」を入力して、⏎キーを押して下さい。
編集モードに入りますので、「④」の文字列を入力して下さい

また、MET's File Control Cuteは起動時には約150KBのメモリを消費しますので、「メモリ不足です」と表示され、起動しない場合があります。
この場合は、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATで消費しているメインメモリを削減

⑤入力が終わりましたら、ファンクションキーのF10に「終了」がありますので、このキーを押して下さい。
MET's Filedriver 4のメインメニューの「7：AP環境ファイルの編集」からこの作業に入られた場合には、メインメニューに戻り、ファンクションキーのF5「編集」から作業に入られた場合にはメイン画面に戻ります。

⑥メイン画面に戻りましたら、ファンクションキーのF7「環境」を押すか、またはスペースキーを押して、「メインメニュー」を表示させ、「＊：MFD IVの実行環境の設定」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
「環境設定」のウインドが開きますので、「File管理」に ↓ キーでカーソルを合せて下さい。
カーソルが点滅する状況になりますので、ここで先程作成したファイル名、「MFCC」を半角で入力して下さい。

⑦「起動File管理」の設定は以上で終了です。
他に何も環境設定を行う必要のない方は、⏎キーを押して下さい。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

●CTR保護

CRTの焼き付け防止の為の機能です。
1分間隔で、0分から60分の範囲で設定でき、0分に設定した場合、CRT保護機能は動作しません。

以下の方法で設定して下さい

①環境設定のウインド内のCRT保護にカーソルを合せます。

②表示色が変りますので、CRT保護を動作させたい時間を入力してください。
入力できるのは0〜60までの範囲内です。

③入力が終わりましたら、⏎キーを押してください。
変更した内容で環境設定を終了し、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、ESCキーを押すと変更した内容を無効にして**MET's Filedriver 4**に戻ります。

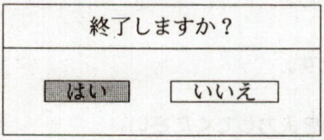
④設定された時間がくると、画面が消え、右上に時刻表時のみを表示します。
元に戻すには、以下のキー以外のキーを押してください。
元の画面に戻ります。

> CRT保護の動作を停止できないキー
>
> STOP、SHIFT、XFER、NEFER、GRPH、カナ、CAPS、CTRL
> COPY、VF1〜VF5

以上で**MET's Filedriver 4**の「環境設定」は終了です。
ここで設定した内容は、サブディレクトリ¥MFDの「MFD.CNF」に記憶されます。

5.3 MET's Filedriver 4の終了

MET's Filedriver 4を終了させるには、「メイン画面」の状態から、キーボードの「ESCキー」か、ファンクションキーのF10を押します。
すると、以下のようなウインドが画面中央に表示されます。



①上記の状態では「はい」にカーソルがあっていますので、終了させるのでしたら、そのまま↵キーを押して下さい。画面がA>の状態になります。

終了しないのであれば、「いいえ」にカーソルを移して、↵キーを押すか、もう一度、「ESCキー」を押して下さい。
MET's Filedriver 4の「メイン画面」に戻ります。

第６章　日本語入力FEP、デバイスドライバとアプリケーションの登録

MET's Filedriver 4は「日本語入力FEP」と「アプリケーションソフト」を個別に登録し、その組み合わせでアプリケーションソフトを起動することが可能です。
MET's Filedriver 4でアプリケーションソフトを登録する場合、そのソフトで使用する日本語入力FEPをまず、インストールする必要があります。

これは、**MET's Filedriver 4**がアプリケーションソフトと、日本語入力FEPを分けて登録し管理している為で、アプリケーションソフトをインストールする場合、その過程で使用する日本語入力FEPを指定しなければなりません。
したがって、もし日本語入力FEPをインストールしていなかった場合、その箇所で日本語入力FEPの使用指定することはできませんので、日本語入力FEPはアプリケーションソフトより、最初に登録しなければなりません。

6.1 始めにすること・・・日本語入力FEPの登録

さきほども触れましたが、現在市販されている大多数の「アプリケーションソフト」は大きく分けて「日本語入力FEP」の部分と、「メインプログラム」の部分に分けることができます。
これはMS－DOSの特徴である、「デバイスドライバ」で「日本語入力FEP」がサポートされているからで、MS－DOS以前の「CP／M86」や日本電気㈱のコンピュータ本体に標準添付されてくる「BASIC」などとは異なります。

MET's Filedriver 4はこの特徴を生かして、先に「日本語入力FEP」を登録した後、「アプリケーションソフト」を登録し、この時使用する「日本語入力FEP」を指定する方式をとっています。
また、登録した後も指定した「日本語入力FEP」を、別の「日本語入力FEP」に変更することもできます。
登録方法も対話式でハードディスク内にインストールする「自動登録」と、既にハードディスク内の,サブディレクトリにインストールされている日本語入力FEPをメニューに登録する「マニュアル登録」があります。
さらに、日本語入力FEP以外のキャラクタ系デバイスドライバを登録する、「ユーザ登録」、インストールファイラー内に記載されている、補足説明のみを表示する「ヘルプ表示」の機能もあります。
することができ、登録されたデバイスドライバも各アプリケーションソフトに設定することができます。

最後に、この機能のメニュータイトルは「デバイスドライバの登録」となっていますが、「自動登録」「マニュアル登録」は、日本語入力FEPのみの登録となります。
「ユーザ登録」で、各種のデバイスドライバを登録することができますが、キャラクタ系のデバイスド　ライバのみの登録となります。

6.2 日本語入力FEPの登録方法

6.2.1 日本語入力FEPの自動登録

この日本語入力FEPの自動登録とは、**MET's Filedriver 4**で準備している、登録用の手順を記述したテキストファイル（以下ファイラー）が対応している、日本語入力FEPを会話式でハードディスク内にインストールしていく方法をさします。

後述する、マニュアル登録と異なるのは、ファイルをハードディスクにインストール、要するにコピーする、という作業を行う点です。

また、自動登録の場合、以下の制限事項があります。

日本語入力FEP 自動登録制限事項

- **MET's Filedriver 4**でサポートしていない日本語入力FEPは、登録することができません
- 自動登録を実行した場合、その辞書指定は、Aドライブのルートディレクトリとなっていますので、辞書が違う位置に存在している場合は、自動登録終了後、「F5：編集」の「1：デバイス情報ファイル」で、「日本語入力FEP」を選択し、自動登録した日本語入力FEPを指定して、辞書パスを変更してください。
  辞書パスの指定方法は、各日本語入力FEPの取り扱い説明書をごらん下さい。
- インストールされるファイルは、動作に最低限必要なファイルのみに限っています。したがって、その中に含まれていないファイルで、お客様が必要とされるファイルは、お手数ですが手作業で、ハードディスク内にコピーして下さい
- MS－DOS Ver5.0に正式に対応していない、日本語入力FEPはMS－DOS Ver5.0では使わないで下さい。
  インストールされる日本語入力FEPが、MS－DOS Ver5.0対応かどうかは、そのメーカ様にご確認下さい。

以下の手順で実行して下さい

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して、 下さい。

以下の様なウインドが開きます。

デバイス
0: デバイスドライバの登録
1: デバイスドライバの削除

②上記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

登録形式

1: 自動登録
2: マニュアル登録
3: ユーザー登録
4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③前記のウインドが開きましたら、「自動登録」に ↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な日本語入力FEPの選択ウインドが表示されます。

登録FEP選択

ファイル名	日本語FEP名
ACE .HCF	ACE
ALPHAX1 .HCF	α X − 1
ATOK6 .HCF	ATOK6
ATOK7 .HCF	ATOK7
ATOK7S .HCF	ATOK7.Small
ATOK7_12.HCF	ATOK7 Ver1.20
EGﾌﾞﾘｯｼﾞ .HCF	EGBridge
FIX4S .HCF	FIX4S

△ ▽ 決定 中止

④このウインドが「登録FEP選択ウインド」です。
このウインドで、**MET's Filedriver 4**に登録したい、日本語入力FEPを選択します。
ここでは、例としてATOK7 を使用します。
ATOK7 にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい
次の様なウインドが開きます。

```
タイトル、表題、登録ディレクトリを設定して下さい

タイトル [ATOK7              ]
 表  題  [                   ]

登録するパス名
[A:¥ATOK7                                                  ]

        行移動 : ↑ ↓      F・10 : 設定完了      ESC : 中止
```

⑤この画面では登録する「日本語入力FEP」のタイトル、表題、登録パス名などの変更ができます。

⑥まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、FEPのメニュータイトルの右横に表示される［ ］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。

⑦⏎キーを押すと、「登録するパス名」にカーソルが移動します。
このパスは変更することが可能です。
たとえば、AドライブがAP登録ドライブになっていた場合、ここでは「A：¥ATOK7」となりますが、Bドライブに登録したければ、BSキーで消して、「B：¥ATOK7」とすれば、Bドライブの¥ATOK7にファイルが転送されます。

⑧もう1度⏎キーを押すと、今度は「タイトル」にカーソルが移動します。
自動登録の場合は、そのファイラーで設定されているタイトルが、ここに最初から表示されていますが、変えたい場合は、BSキーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で20文字、全角で10文字登録できます。

⑨全て終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
次のウインドが表示されます。

メニュー上の登録位置を設定して下さい

日本語FEP選択	
0. －－－－－－－－－－－	[ ]
1. －－－－－－－－－－－	[ ]
2. －－－－－－－－－－－	[ ]
3. －－－－－－－－－－－	[ ]
4. －－－－－－－－－－－	[ ]
5. －－－－－－－－－－－	[ ]
6. －－－－－－－－－－－	[ ]
7. －－－－－－－－－－－	[ ]
8. －－－－－－－－－－－	[ ]
9. －－－－－－－－－－－	[ ]
*. FEPは使用しない	[ ]

⑩この画面は日本語入力FEPのメニュー画面です。
登録したい位置に ↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
また、テンキーの0～9を押すと、その位置に移動します。
ただし、その位置に他のFEPが登録されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され、 登録することはできません。

そこは登録済みです　　　何かキーを押して下さい

さらに、「＊」には「FEPを使用しない」が、あらかじめ割り当てられています。
「＊」キーを押すと、カーソルはそこに移動しますが、登録することはできません。
登録しようとした場合、以下のエラーメッセージが表示されます。

そこには登録できません　　　何かキーを押して下さい

⑪登録位置を決めましたら、⏎キーを押して下さい
ATOK7の場合は、次の様なウインドが開きます。

このファイラーはATOK7のファイラーです

以下のアプリケーションソフトにバンドリングされているATOK7をインストール元として使用することができます

一太郎 Ver4.3　　　　（保存用ディスク５枚）

一太郎 dash　　　　（保存用ディスク３枚）

続きがありますので、何かキーを押して下さい

注意事項

上記、ウインドの内容はファイラーによって異なります。
ここでは、ATOK7(ATOK7.HCF)を例に上げています。

⑫後は、画面に表示されるメッセージにしたがって、インストールを行なって下さい。
インストール作業を開始します。
インストールが終了すると、以下の様なウインドが表示されます。

補足説明を表示しますか？

［する］　［しない］

⑬これは、各ファイラー内に個別に記述された、補足説明を表示するか、しないか、の選択で、「する」を選択した場合、以下のウインドを表示します。
ただし、この時、ESCキーだけは押さないで下さい。
それまでの登録作業が無効になります。
必ず、[←] キーと [→] キーで選択し、[↵]キーで決定して下さい。

この補足説明はATOK7の補足説明です

このファイラーでインストールできるATOK7は以下のアプリケーションソフトにバンドリングされているものです

一太郎 Ver4.3　　　（保存用ディスク5枚）

一太郎 dash　　　（保存用ディスク3枚）

続きがありますので、何かキーを押して下さい

⑭ATOK7（ATOK7.HCF）の場合、これがヘルプ表示（補足説明）の最初の画面です。
後は、画面の指示にしたがって、何かキーを押して下さい。
補足説明の内容が一通り、表示されます。
最後に、以下の様なウインドが表示されます。

補足説明を表示しますか？

する　　しない

⑮ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。
ただし、この時、ESCキーだけは押さないで下さい。
それまでの登録作業が無効になります。
必ず、← キーと → キーで選択し、⏎キーで決定して下さい。

ATOK7の補足説明の表示を終了します

何かキーを押して下さい

以上で、日本語入力FEPの自動登録は終了です。

6.2.2 日本語入力FEPのマニュアル登録

この、日本語入力FEPのマニュアル登録という機能は、**MET's Filedriver 4**でサポートしている日本語入力FEPが、**MET's Filedriver 4**のFEPメニューに登録されていない状況で、ハードディスク内のサブディレクトリに存在している場合、そのFEPを登録する場合に使用する方法です。

たとえば、**MET's Filedriver 4**では、ATOK7を自動登録でサポートしていますが、**MET's Filedriver 4**導入以前に、お客様の手でハードディスク内にATOK7が導入されているケースがあるとします。

この場合、**MET's Filedriver 4**の自動登録で、ATOK7を再登録しても問題はないのですが、ATOK7関係のファイルが重複してしまい、無駄なファイルがハードディスクに存在する結果となります。

この様な無駄を省くためにも、マニュアル登録を活用してください
また、マニュアル登録には以下の様な制限事項があります。

日本語入力FEP 自動登録制限事項

- マニュアル登録をおこなえる日本語入力FEPは、**MET's Filedriver 4**が対応しているものに限ります。
- マニュアル登録の対象となる日本語入力FEPは、サブディレクトリ内に格納されている事が、条件となります。
- マニュアル登録を実行した場合、その辞書指定は、Aドライブのルートディレクトリとなっていますので、辞書が違う位置に存在している場合は、マニュアル登録終了後、「F5：編集」の「1：デバイス情報ファイル」で、「日本語入力FEP」を選択し、マニュアル登録した日本語入力FEPを指定して、辞書パスを変更してください。
  辞書パスの指定方法は、各日本語入力FEPの取り扱い説明書をごらん下さい。
- MS－DOS Ver5.0に正式に対応していない、日本語入力FEPはMS－DOS Ver5.0では使わないで下さい。
  インストールされる日本語入力FEPが、MS－DOS Ver5.0対応かどうかは、そのメーカ様にご確認下さい。

以下の例は、まだ、**MET's Filedriver 4**のFEPメニューに、ATOK7が登録されていないものとし、ハードディスクAドライブの、サブディレクトリ￥ATOK7には、ATOK7が既に存在している、と仮定します。

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

デバイス

0: デバイスドライバの登録

1: デバイスドライバの削除

②上記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

登録形式

1: 自動登録

2: マニュアル登録

3: ユーザー登録

4: ヘルプ表示

> **注意事項**
>
> 前記のウインドは「スペースキー」を押して、「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「マニュアル登録」に ↓ キーか ↑ キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様な日本語入力FEPの選択画面が表示されます。

登録FEP選択

ファイル名	日本語FEP名
ACE　　　.HCF	ACE
ALPHAX1 .HCF	αＸ－１
ATOK6　 .HCF	ATOK6
ATOK7　 .HCF	ATOK7
ATOK7S　.HCF	ATOK7 Small
ATOK7_12.HCF	ATOK7 Ver1.20
EGﾌﾞﾘｯｼﾞ　.HCF	EGBridge
FIX4S　 .HCF	FIX4S

[△]　[▽]　[決定]　[中止]

④前記の「登録FEP選択」のウインドが表示されましたら、マニュアル登録を行いたい「日本語入力FEP」に ↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
この例では「ATOK7」を例にしていますので、「ATOK7」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の画面の様にハードディスクに内容がツリー構造で表示されます。
ツリー構造の表示状態は、お客様のハードディスクの内容によって、異なります。

登録FEP選択

```
¥                         ＿＿＿＿＿＿＿＿
├ATOK7                    ＿＿＿＿＿＿＿＿
├DOS                      ＿＿＿＿＿＿＿＿
├MFD                      ＿＿＿＿＿＿＿＿
│ ├HCA
│ ├OS
│ ├ワープロ                IO.SYS
│ │    ├日本語            MSDOS.SYS
│ │    ├英語              COMMAND.COM
│ │    └毛筆
│ ├業務
│ ├通信
│ ├統合型
│ ├表計算
```

[RET:決定]　[ROLLUP:↓]　[ROOLUP:↑]　[ESC:中止]

注意事項

この時、表示されたドライブ以外のハードディスクに、日本語入力FEPが登録されている場合は、← キーか → キーを押して下さい。
次のウインドが画面中央に表示されます。

ドライブ変更

ドライブを変更して下さい

A B C D E F G H I J K L M
N O P Q R S T U V W X Y Z

RET ： 決定　ESC ： 中止

この画面が表示されましたら、目的の日本語入力FEPが存在する、ハードディスクを選択して⏎キーを押して下さい。
そのハードディスクのツリー構造が表示されます。

⑤「④」の画面が表示されましたら、¥ATOK7というディレクトリに、↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な画面が表示されます。

タイトル、表題、登録ディレクトリを設定して下さい

タイトル　[ATOK7　　　　　]
表　題　[　　　　　　　　]

登録するパス名
[A:¥ATOK7　　　　　　　　　　　　　　]

行移動 ： ↑ ↓　F･10 ： 設定完了　ESC ： 中止

⑥この画面では登録する「日本語入力FEP」のタイトル、表題、登録パス名などの変更ができます。

⑦まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、FEPのメニュータイトルの右横に表示される［　　］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。

⑧⏎キーを押すと、「登録するパス名」にカーソルが移動します。
このパスは変更することが可能です。

⑨もう1度⏎キーを押すと、今度は「タイトル」にカーソルが移動します。
自動登録の場合は、そのファイラーで設定されているタイトルが、ここに最初から表示されていますが、変えたい場合は、BSキーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で20文字、全角で10文字登録できます。

⑩全て終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
次のウインドが表示されます。

メニュー上の登録位置を設定して下さい

日本語FEP選択		
0.	――――――――――――	[　　　　　　]
1.	――――――――――――	[　　　　　　]
2.	――――――――――――	[　　　　　　]
3.	――――――――――――	[　　　　　　]
4.	――――――――――――	[　　　　　　]
5.	――――――――――――	[　　　　　　]
6.	――――――――――――	[　　　　　　]
7.	――――――――――――	[　　　　　　]
8.	――――――――――――	[　　　　　　]
9.	――――――――――――	[　　　　　　]
*.	FEPは使用しない	[　　　　　　]

⑪画面は日本語入力FEPのメニュー画面です。
登録したい位置に↓キーか↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
また、テンキーの0～9を押すと、その位置に移動します。
ただし、その位置に他のFEPが登録されている場合は、以下のエラーメッセージが表示され、登録することはできません。

そこは登録済みです　　何かキーを押して下さい

さらに、「＊」には「FEPを使用しない」が、あらかじめ割り当てられています。
「＊」キーを押すと、カーソルはそこに移動しますが、登録することはできません。
登録しようとした場合、以下のエラーメッセージが表示されます。

そこには登録できません　　何かキーを押して下さい

⑫登録位置を決めましたら、⏎キーを押して下さい
ATOK7の場合は、次の様なウインドが開きます。

ATOK7のマニュアル登録を実行します

ハードディスクにATOK7とその辞書ファイルが、インストールされていることと、ATOK7のシステムファイルがルートディレクトリ以外に格納されていることが前提になります

何かキーを押して下さい

⑬後は、画面の指示通りに作業を行って下さい
ここではATOK7を例に上げましたが、その他の日本語入力FEPでも、基本的な流れは同じです。

インストールが終了すると、以下の様なウインドが表示されます。

補足説明を表示しますか？

する　　しない

⑭これは、各ファイラー内に個別に記述された、補足説明を表示するか、しないか、の選択で、「する」を選択した場合、以下のウインドを表示します。
ただし、この時、ESCキーだけは押さないで下さい。
それまでの登録作業が無効になります。

必ず、[←] キーと [→] キーで選択し、[⏎]キーで決定して下さい。

この補足説明はATOK7の補足説明です このファイラーでインストールできるATOK7は以下のアプリケ ーションソフトにバンドリングされているものです 一太郎 Ver4.3　　（保存用ディスク５枚） 一太郎 dash　　　（保存用ディスク３枚） 続きがありますので、何かキーを押して下さい

⑮ATOK7 (ATOK7.HCF)の場合、これがヘルプ表示（補足説明）の最初の画面です。
後は、画面の指示にしたがって、何かキーを押して下さい。
補足説明の内容が一通り、表示されます。
最後に、以下の様なウインドが表示されます。

補足説明を表示しますか？ [する]　　[しない]

ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。
ただし、この時、ESCキーだけは押さないで下さい。
それまでの登録作業が無効になります。
必ず、[←] キーと [→] キーで選択し、[⏎]キーで決定して下さい。

ATOK7の補足説明の表示を終了します 何かキーを押して下さい

以上で、日本語入力FEPのマニュアル登録は終了です。

6.2.3 デバイスドライバのユーザ登録

この項のタイトルをご覧になって、「おや？」っと思われた方もいらっしゃると思いますが、この「ユーザ登録」で登録できる物は、日本語入力FEPに限りません。

すなわち、MS－DOSの「PRINT.SYS」や「RSDRV.SYS」等も、この機能を使用して、メニューに登録することができます。

> **注意事項**
>
> ただし、登録できるのはキャラクタ系デバイスドライバとなります。
> また、メモリ関係のデバイスドライバはここでは登録しないで、ルートディレクトリのCONFIG.SYSに、各メモリ関係デバイスドライバの、取り扱い説明書をご覧になって登録して下さい。
> MS－DOS Ver5.0に正式に対応していない、デバイスドライバはMS－DOS Ver5.0では使わないで下さい。
> 登録されるデバイスドライバが、MS－DOS Ver5.0対応かどうかは、そのメーカ様にご確認下さい。

以下の手順で実行して下さい。

以下の例は、MS－DOSの、PRINT.SYSの登録方法で、ハードディスクはAドライブとし、PIRNT.SYSは、Aドライブのサブディレクトリ￥DOSに存在していると仮定します。

① **MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

デバイス
0: デバイスドライバの登録
1: デバイスドライバの削除

②上記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

登録形式
1: 自動登録
2: マニュアル登録
3: ユーザー登録
4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは「スペースキー」を押して、「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③前記のウインドが開きましたら、「ユーザ登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

デバイスファイル名を入力して下さい
■

④上記のウインドが開きましたら、以下のデバイスファイル名を入力して下さい。

```
A：¥DOS¥PRINT.SYS
```

注意事項

ここで入力できる文字数は、半角でパス名を含めて64文字です。
また、ファイル名及びパス名は正確に入力して下さい。
指定したディレクトリが存在しない、またはファイル名が存在しない場合、以下の様なエラーメッセージが表示されます。

ファイルが見つかりません　何かキーを押して下さい

このメッセージが表示されましたら、何かキーを押して下さい。
「③」のウインドに戻ります。

さらに、ATOK7やKatana(刀)シリーズの様に、複数のデバイスドライバーで構成されている場合は、1つ1つのデバイスドライバーを登録して下さい。
ただし、「③」のウインドではパスと、ファイル名のみの指定となり、オプションなどの指定はできません。
オプションの指定は、タイトル設定で行うことができます。

⑤「④」でファイル名を入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
次の様な画面が表示されます。

```
タイトル、オプションを設定して下さい

タイトル    [█                    ]
オプション  [PRINT.SYS                                 ]

        行移動 : ↑ ↓      F･10 : 設定完了      ESC : 中止
```

⑥前記の画面が表示された状態で、まず、タイトルにカーソルが合っていますので、タイトルを入力して下さい。
もし、タイトルを設定したくなければ、それでも結構ですが、デバイスメニュー上には、何も登録されません。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。
ここでは例として「PRINT.SYS」と入力します。

⑦次に⏎キーを押すと、「オプション」のカーソルが移動します。
ここでは使用するデバイスドライバの、動作オプションを指定することができます。
半角で40文字入力することができます。
ただし、デバイスドライバ自信のファイル名は変更することができません。
この例では、とりあえず何も入力しません。

⑧入力が終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
次の様な画面が表示されます。

デバイス選択	
0.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
1.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
2.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
3.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
4.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
5.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
6.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
7.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
8.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]
9.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　　　　]

⑨前記の画面が、デバイスドライバのメニュー画面です。
ここで、登録したい位置を決定します。
[↑] キーと [↓] キーで位置を選択することができます。
位置が決定しましたら、⏎キーを押して下さい。
MET's Filedriver 4 のメインメニュー、またはメニュー画面に戻ります。

注意事項

ここで登録したデバイスドライバは、**MET's Filedriver 4** では日本語入力FEPを認識後、認識されます。
したがって、このデバイスドライバの登録で、メモリ関係のデバイスドライバを登録することはできません。
メモリ関係のデバイスドライバは、各デバイスドライバの取り扱い説明書にしたがって、MET' s Filedriver 4起動ドライブの、CONFIG.SYSに宣言して下さい。

6.2.4 日本語FEPファイラーのヘルプ表示

この機能は、日本語入力FEPの登録用ファイラー内に記述されている、補足説明のみを表示する機能です。

日本語入力FEPの登録用ファイラー内に記述されている補足説明は、MET's Filedriver 3でも存在はしていましたが、インストールを実行しなければ表示されませんでした。

MET's Filedriver 4では、これを1つの機能として昇格させ、インストールを実行しなくても各ファイラーの補足説明、実行にあたっての注意事項を表示できるようにしました。

以下に、ATOK7を例に上げて説明します。

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して、下さい。
以下の様なウインドが開きます。

デバイス
0: デバイスドライバの登録
1: デバイスドライバの削除

②上記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

登録形式
1: 自動登録
2: マニュアル登録
3: ユーザー登録
4: ヘルプ表示

> 注意事項
>
> 前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「4:ヘルプ表示」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

登録FEP選択	
ファイル名	日本語FEP名
ACE .HCF	ACE
ALPHAX1 .HCF	αX－1
ATOK6 .HCF	ATOK6
ATOK7 .HCF	ATOK7
ATOK7S .HCF	ATOK7 Small
ATOK7_12.HCF	ATOK7 Ver1.20
EGﾌﾞﾘｯｼﾞ .HCF	EGBridge
FIX4S .HCF	FIX4S
△ ▽	決定 中止

④上記のウインドが表示されましたら、ヘルプ表示（補足説明）を表示させたいファイラーにカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ここでは、例としてATOK7(ATOK7.HCF)にカーソルを合せて、⏎キーを押します。
次の様なウインドが表示されます。

この補足説明はATOK7の補足説明です
このファイラーでインストールできるATOK7は以下のアプリケーションソフトにバンドリングされているものです

一太郎 Ver4.3　　（保存用ディスク5枚）
一太郎 dash　　（保存用ディスク3枚）

続きがありますので、何かキーを押して下さい

⑤ATOK7（ATOK7.HCF）の場合、これがヘルプ表示（補足説明）の最初の画面です。
後は、画面の指示にしたがって、何かキーを押して下さい。
補足説明の内容が一通り、表示されます。
最後に、以下の様なウインドが表示されます。

補足説明を表示しますか？

する　　しない

⑥ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。

ATOK7の補足説明の表示を終了します

何かキーを押して下さい

⑦何かキーを押すと、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。

6.3 登録した日本語入力FEP、デバイスドライバの使用方法

前項までで、日本語入力FEPの「自動登録」、「マニュアル登録」、デバイスドライバの「ユーザ登録」の方法を説明してまいりました。

この項では、これらの総仕上として、登録した日本語入力FEPとデバイスドライバーを、どうのように**MET's Filedriver 4**で使用するか、を説明します。

6.3.1 標準で使うデバイスの選択

このタイトル、「標準で使うデバイスの選択」とは、**MET's Filedriver 4**のメニュー画面内、または「Sell(COMMAND.COM)起動」でMS－DOSのコマンドラインを表示した場合に、使用するデバイスドライバを選択する、という意味です。

したがって、**MET's Filedriver 4**のメニューに登録されている、アプリケーションソフトで使用するデデバイスドライバの選択ではありません。

その場合は、次項の「APで使うデバイスの選択」を実行することになります。

前項までに、日本語入力FEPは「ATOK7」を、デバイスドライバは「PRINT.SYS」を例に上げてきましたが、この項ではこの２つを使用して、「標準で使うデバイスの選択」を説明します。

なお、この２つを使用するのは、あくまで例としてですので、他の日本語入力FEPやデバイスドライバを登録されている方は、それに読み変えて下さい。

以下の手順で行なって下さい。

① **MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF3「変更」を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

変更
0: 標準で使うﾃﾞﾊﾞｲｽの選択
1: APで使うﾃﾞﾊﾞｲｽの選択

②前記のウインドが表示されましたら、「0: 標準で使うﾃﾞﾊﾞｲｽの選択」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

日本語FEPを選択して下さい

日本語FEP選択

0.	ATOK7	[　　　　　　　　]
1.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
2.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
3.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
4.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
5.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
6.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
7.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
8.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
9.	−−−−−−−−−−−−	[　　　　　　　　]
*.	FEPは使用しない	[　　　　　　　　]

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「4：標準で使うデバイスの選択」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③ここで、**MET's Filedriver 4**の画面上で使いたい「日本語入力FEP」に ↓ キーか、↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
もし、選択しない場合は、「FEPは使用しない」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ここでは、例として、前項で例に上げたATOK7を使用します。
次の様にウインドが切り換わります。

デバイスドライバを選択して下さい　(F･10:終了)

デバイス選択

0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS]
1. ―――――――――――	[ ]
2. ―――――――――――	[ ]
3. ―――――――――――	[ ]
4. ―――――――――――	[ ]
5. ―――――――――――	[ ]
6. ―――――――――――	[ ]
7. ―――――――――――	[ ]
8. ―――――――――――	[ ]
9. ―――――――――――	[ ]

④ここで、標準で使用したいデバイスドライバに、[↓]キー [↑]キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
もし、使用したくなければ、ファンクションキーのF10を押して下さい。
設定した場合は、次のウインドの様に、選択されたデバイスドライバには、左に番号が表示されます。

デバイスドライバを選択して下さい　(F･10:終了)

デバイス選択

① 0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS]
1. ―――――――――――	[ ]
2. ―――――――――――	[ ]
3. ―――――――――――	[ ]
4. ―――――――――――	[ ]
5. ―――――――――――	[ ]
6. ―――――――――――	[ ]
7. ―――――――――――	[ ]
8. ―――――――――――	[ ]
9. ―――――――――――	[ ]

注意事項

このメニュー画面には、全部で10個までのデバイスドライバを登録することができますが、各ドライバの相性で、動作不良を起こさないとも限りませんので、選択するドライバは必要最小限に留めて下さい。
なお、選択の解除は、選択されたデバイスドライバに ↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
選択時についた番号が消えれば、選択は解除されたことになります。

また、複数のドライバで構成されている日本語入力FEPなど、登録の順番が問題になるようなデバイスドライバに関しては、選択の順番に注意して下さい。
たとえば、Katana(刀) Ver4.0は、KTN4.SYSとKTN4C.SYSで構成されていて、KTN4.SYSの次に、KTN4C.SYSがなければなりません。
もし、これを逆に選択した場合は、正常に動作しません。

なお、Katana(刀) Ver4.0は自動登録で登録することができます。

⑤「④」での選択が終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
画面がいったん、消えて選択した日本語入力FEPと、デバイスドライバのメッセージが表示されてから、**MET's Filedriver 4** のメニュー画面が表示されます。
以上で標準使用のデバイスの設定は終了です。

6.4 アプリケーションソフトの登録

前項までで、アプリケーション登録の為の、「日本語入力FEP」の登録、「デバイスドライバ」の登録と、「標準で使用するデバイスの選択」が終了しました。

この項ではいよいよ「アプリケーションソフト」の登録を行ないます。

MET's Filedriver 4での「アプリケーションソフト」の登録方法は、以下の3つに分類されます。

●自動登録

MET's Filedriver 4出荷時に収められている、アプリケーションソフト登録用の「.HCA」ファイルを使用して、目的のアプリケーションソフトを対話形式でインストールする方法です。

この場合、対象のソフトはあらかじめ「.HCA」のファイル名で用意されているものに限ります。

「.HCA」のリストに存在していないソフトは、後述する「マニュアル登録」で「.HCM」のファイル名で登録されているか、お客様の完全な手作業での「ユーザ登録」での登録となります。

また、この場合、動作に必要な最低限のファイルしか、転送しない場合があります。

したがって、登録後、お客様が必要とするファイルが、存在していない可能性もあります。

この場合はお手数ですが、手作業でそのファイルをコピーして下さい。

●マニュアル登録

この方法を使用する場合は、2つのケースがあります。

1つは、**MET's Filedriver 4**が「.HCA」でサポートしているソフトが、すでにお客様自信の手でハードディスク内に存在しているケースです。

この場合は、このマニュアル登録で「.HCA」でサポートしているファイラーを選択し、ハードディスクに存在するアプリケーションソフトを選択すれば、**MET's Filedriver 4**のメニューに登録することができます。

ただし、目的のソフトがサブディレクトリ内に存在し、そのソフトが、**MET's Filedriver 4**の「.HCA」でサポートされていることが前提となり、そのディレクトリ名とディレクトリ構造は、そのソフトに付属しているハードディスク・インストールプログラムの初期値でインストールされているとします。

これは、アプリケーションソフトに添付されている、ハードディスクインストールプログラムでは、そのインストールディレクトリ名を自由に変更できるケースがあるためです。

また、マニュアル登録実行時は、「.HCA」と、後述する「.HCM」が全て表示されます。

もう1つは、目的のアプリケーションソフトが、純粋にハードディスクにコピーできないため、その実行用の情報のみを持たせたファイル、「.HCM」を使用してのメニュー登録です。

これは、目的のアプリケーションソフトに、不正コピー防止用の「コピープロテクト」が掛けられていたり、ファイルを圧縮してフロッピーディスク内に格納されていたり、専用の

インストールソフトを使用しないと、動作に必要な環境ファイルを精製しない、等のアプリケーションソフト用に用意されています。

ただし、これも目的のアプリケーションソフトが、ハードディスク内のサブディレクトリに存在し、なおかつ「.HCM」のリストに存在していないと、マニュアル登録での登録はできません。

また、マニュアル登録時は「.HCA」も含めて、コピー動作はいっさい行いません。

さらに、「.HCM」にてマニュアル登録をサポートしているソフトでも、お客様のCONFIG.SYSの状況によっては、メモリ不足で起動しないケースがあります。

この場合は、CONFIG.SYSの内容を変更するか、**MET's Filedriver 4**がインストールされているドライブとは、別のドライブにインストールして、そこからMS－DOSを起動してのご使用をお奨めします。

●ユーザ登録

この登録方法は、**MET's Filedriver 4**で用意されている、「.HCA」、「.HCM」のファイルリストに存在しない、アプリケーションソフトを登録する方法です。

「.HCA」、「.HCM」に存在しないということは、そのアプリケーションソフトの起動環境が、**MET's Filedriver 4**では、いっさいわからない、ということになります。

したがって、そのアプリケーションソフトが、ハードディスクの、どのサブディレクトリに存在し、そこからの起動ファイル名や、動作に必要なデバイスドライバがあれば、その指定もお客様が行わなければなりません。

これらの内容は弊社では分りませんので、お客様自信が調査しなければなりません。

また、そのアプリケーションソフトの特性もあり、ユーザ登録を行ったからといって、必ず動作するわけではありません。

そのアプリケーションが、動作に必要なメモリが大き過ぎるためのメモリ不足、動作にDOSエクステンダー等を必要とするソフト、その他いろいろな条件で動作しないケースが考えられます。

その場合は、**MET's Filedriver 4**がインストールされているドライブとは、別のドライブにそのアプリケーションソフトをインストールして、そこからMS－DOSを起動し、ご使用になって下さい。

または、**MET's Filedriver 4**をそのドライブから削除し、他のドライブへインストールしても結構です。

ただし、すでに存在している**MET's Filedriver 4**を「COPYコマンド」、「XCOPYコマンド」、市販されているバックアップソフト等使用して、他のドライブへ移動すること行わないで下さい。

最悪の場合、**MET's Filedriver 4**が正常に動作しなくなります。

以上の３つが、**MET's Filedriver 4**でサポートしている登録方法です。

次の項からそれぞれの登録方法について説明いたします。

6.4.1 アプリケーションソフトの自動登録

この登録方法は、**MET's Filedriver 4**で使用している、「.HCA」の「自動登録用ファイラー」を使っての登録方法です。

この方法は対話形式で行ない、目的のアプリケーションソフト以外のディスクを、インストールする場合もあります。

以下の手順で行なって下さい。

> **注意事項**
>
> MS－DOS Ver5.0でご使用の場合、MS－DOS Ver5.0に、正式に対応しているアプリケーションソフトのみをご使用下さい。
> お持ちのアプリケーションソフトが、MS－DOS Ver5.0に対応しているかどうかは、そのメーカ様にご確認下さい。
> また、不正コピー防止用のコピープロテクトをはずしたアプリケーションソフトの自動登録はサポートしていません。

① **MET's Filedriver 4**の「メイン画面」の状態から、ファンクションキーの、F1「AP」を押して、次の様なウインドを表示して下さい。

AP
0: アプリケーションの登録
1: アプリケーションの削除

②前記のウインドが開きましたら、「0：アプリケーションの登録」に [↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。

次の様にウインドが表示されます。

登録形式
1: 自動登録
2: マニュアル登録
3: ユーザー登録
4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「アプリケーションの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「自動登録」に [↓] キー [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な、ウインドが表示されます。

登録AP選択

ファイル名	アプリケーション名
OS	
ワープロ	
業務	
通信	
統合型	
表計算	
ｸﾞﾗﾌｨｯｸ	
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	

[△] [▽] [決定] [中止]

注意事項

前記の画面は8行まで表示しますが、**MET's Filedriver 4**の大きいジャンルは9つあります。
したがって、上記の画面では「ユーティリティ」を表示していません。
ユーティリティを選択されたい場合は、[↓] キーを押して、カーソルを移動するか、[ROOLUP] キーを押して、画面をスクロールさせて下さい。
ユーティリテイのジャンルが表示されます。

④「③」の画面が表示されましたら、登録したいアプリケーションソフトのジャンルに、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。

その中の、自動登録用アプリケーションファイラー（「.HCA」のファイル）を表示します。もし、その中に目的のアプリケーションのファイルがない場合は、「親ディレクトリ」に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ジャンル別ディレクトリ表示に戻ります。

また、ワープロのジャンルを選択した場合、その下に、日本語、英語、毛筆の３ジャンルが存　在します。
なお、この一覧は親ディレクトリの表示を含めて、８個のファイルを同時に表示しますが、[↓] キーと、[↑] キーでスクロールできるほか、[ROLLUP] キー、[ROLLDOWN] キーで、８個づつ移動できます。
中止したいときは「ESCキー」を押して下さい。
ファンクションキーから選択した場合には、「メイン画面」に戻り、メインメニューを使用した場合には「メインメニュー」に戻ります。

⑤目的のアプリケーションソフトの、自動登録用ファイラーを見つけましたら、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な画面が表示されます。
以下は一太郎 Ver4.3を選択した場合です。

```
タイトル、表題、登録ディレクトリを設定して下さい
```

```
タイトル ［一太郎 Ver4.3      ］
 表　題  ［                   ］

登録するパス名
 ［A:¥TARO4                                        ］

        行移動 ： ↑ ↓     F･10 ： 設定完了     ESC ： 中止
```

⑥この画面では登録する「アプリケーションソフト」のタイトル、表題、登録パス名などの変更が行えます。

⑦まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、アプリケーションメニューのメニュータイトルの右横に表示される［　　］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。

半角で２０文字、全角で１０文字入力することができます。

⑧[⏎]キーを押すと、「登録するパス名」にカーソルが移動します。
このパスは変更することが可能です。

⑨もう１度、[⏎]キーを押すと、今度は「タイトル」にカーソルが移動します。
自動登録の場合は、そのファイラーで設定されているタイトルが、ここに最初から表示されていますが、変えたい場合は、[BS]キーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で２０文字、全角で１０文字登録できます。

⑩全て終わりましたら、ファンクションキーの[F10]を押して下さい。
次のウインドが表示されます。

日本語FEP選択		
0.	ATOK7	[ ]
1.	――――――――――――	[ ]
2.	――――――――――――	[ ]
3.	――――――――――――	[ ]
4.	――――――――――――	[ ]
5.	――――――――――――	[ ]
6.	――――――――――――	[ ]
7.	――――――――――――	[ ]
8.	――――――――――――	[ ]
9.	――――――――――――	[ ]
*.	FEPは使用しない	[ ]

⑪この画面で、登録するアプリケーションソフトで使用する、日本語入力FEPを選択します。
すでに、ATOK7が登録されている状況ですが、基本的には何も登録されていません。

日本語入力FEPが未登録の状態ならば、ESCキーを押してこの作業を中止し、先に日本語入力FEPの登録を済ませて下さい。
日本語入力FEPの登録方法は、この取り扱い説明書の、「日本語入力FEPの自動登録」をご参照下さい。
また、登録されるアプリケーションソフトが日本語入力を使用しない場合、「＊：FEPを使用しない」を選択して下さい。
[↑] キーか [↓] キーで選択し、[⏎]キーで決定します。
使用する日本語入力FEPを決めると、以下の様なウインドが表示されます。

デバイスドライバを選択して下さい　(F・10:終了)

デバイス選択

① 0.　PRINT.SYS	[PRINT.　SYS　　]
1.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
2.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
3.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
4.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
5.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
6.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
7.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
8.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]
9.　－－－－－－－－－－－－	[　　　　　　]

⑫ここで、使用したいデバイスドライバを選択します。
この画面ではすでに、PRINT.SYSが登録されています。
なお、先程の日本語入力FEPとは異なり、必ず選択しも選択する必要はありません。
[↑] キーか [↓] キーで選択し、⏎キーで決定します。
選択しない場合は、ファンクションキーのF10を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

メニュー上の登録位置
を設定して下さい

⑬前記のウインドが表示されましたら、登録したいメニュー位置を決定し、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドを表示して、登録を開始します。

このファイラーは 一太郎 Ver4.3 のファイラーです

何かキーを押して下さい

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

⑭インストールが終了すると、そのアプリケーションソフトの補足説明が表示されますので、内容を確認しながら、何かキーを押して下さい。
表示が終了すると、以下の様なメッセージが表示されます。

補足説明を表示しますか？

する　　しない

⑮ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。
ただし、ESCキーは押さないで下さい。
登録したアプリケーションソフトがすべて、キャンセルされ、未登録の状態になります。

一太郎 Ver4.3の補足説明の表示を終了します

何かキーを押して下さい

何かキーを押すと、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

以上で**MET's Filedriver 4**での、アプリケーションソフトの自動登録は終了です。
この後、メニューから登録したアプリケーションを起動させ、動作確認を行って下さい。
登録したアプリケーションソフトによっては、EMSを必要とする場合もありますので、その場合は、EMSドライバを、各EMSドライバの取り扱い説明書にしたがって、**MET's Filedriver 4**を立ち上げた、ハードディスクのCONFIG.SYSに設定して下さい。

6.4.2 アプリケーションソフトのマニュアル登録

この登録方法は、**MET's Filedriver 4**が、自動登録用ファイラー「.HCA」と、マニュアル登録専用
ファイラー「.HCM」でサポートしているアプリケーションソフトが、ハードディスク内に、既にお客様の手でインストールされている場合の、**MET's Filedriver 4**へのメニュー登録方法です。

また、不正コピー防止のコピープロテクトの関係や、専用インストーラを使用しないと、動作環境ファイルが作成されないアプリケーションソフトの登録方法でもあります。

したがって、マニュアル登録専用ファイラーの「.HCM」でしかサポートされていない、アプリケーションソフトのマニュアル登録を実行する前には、そのアプリケーションソフトが、ハードディスク内に存在しているかどうかを確認して下さい。

また、不正コピー防止用のコピープロテクトを外して、ハードディスクにコピーされたソフトは、そのファイルの全てが、ハードディスク内に存在していても、サポートは致しません。
必ず正規のフロッピーディスクの、正規のハードディスクインストールプログラムを使用して、ハードディスクにインストールして下さい。
不正コピーは著作権を侵害する行為です。

以下の方法で、マニュアル登録を実行して下さい。

①まず、マニュアル登録を行いたいアプリケーションソフトが、ハードディスクに存在しているかどうかを、確認して下さい。
もし、インストールされていなければ、そのアプリケーションソフトのハードディスクインストールプログラム、またはハードディスクインストール方法にしたがって、アプリケーションソフトをハードディスクにインストールして下さい。
この方法は誠にお手数ですが、各アプリケーションソフトの、取り扱い説明書をご覧下さい。
また、そのディレクトリ名を記憶して下さい。

②**MET's Filedriver 4**を起動して、ファンクションキーのF1「AP」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

AP
0: アプリケーションの登録
1: アプリケーションの削除

③前記のウインドが開きましたら、「0：アプリケーションの登録」に、↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様にウインドが表示されます。

登録形式
1: 自動登録
2: マニュアル登録
3: ユーザー登録
4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「アプリケーションの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「マニュアル登録」に ↓ キー ↑ キーでカーソルを 合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な、ウインドが表示されます。

登録AP選択

ファイル名　　　　　　アプリケーション名

OS

ワープロ

業務

通信

統合型

表計算

ｸﾞﾗﾌｨｯｸ

ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ

[△]　[▽]　[決定]　[中止]

注意事項

前記の画面は8行まで表示しますが、**MET's Filedriver 4**の大きいジャンルは9つあります。
したがって、上記の画面では「ユーティリティ」を表示していません。
ユーティリティを選択されたい場合は、[↓] キーを押して、カーソルを移動するか、[ROOLUP] キーを押して、画面をスクロールさせて下さい。
ユーティリテイのジャンルが表示されます。

④「③」の画面が表示されましたら、マニュアル登録したい、アプリケーションソフトのジャンルに、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。

アプリケーションファイラー（「.HCA」と「.HCM」のファイル）を表示します。
もし、その中に目的のアプリケーションのファイルがない場合は、「親ディレクトリ」に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。
ジャンル別ディレクトリ表示に戻ります。

また、ワープロのジャンルを選択した場合、その下に、日本語、英語、毛筆の３ジャンルが存在します。

なお、この一覧は親ディレクトリの表示を含めて、８個のファイルを同時に表示しますが、[↓] キーと、[↑] キーでスクロールできるほか、[ROLLUP] キー、[ROLLDOWN] キーで、８個づつ移動できます。

中止したいときは「ESCキー」を押して下さい。
ファンクションキーから選択した場合には、「メイン画面」に戻り、メインメニューを使用した場合には「メインメニュー」に戻ります。

注意事項

マニュアル登録時は、マニュアル登録専用ファイラー「.HCM」だけでなく、自動登録ファイラーである、「.HCA」も表示します。
これは、「.HCA」もマニュアル登録の機能を持っているためですが、マニュアル登録時に「.HCA」を実行させた場合、そのファイラー表示内容は、自動登録時とは異なります。

⑤マニュアル登録を実行したいアプリケーションソフトの、ファイラーを選択し⏎キーを押しましたら、以下の様なツリー構造が表示されます。
このツリー構造は、ハードディスクのディレクトリ構造で、表示されるドライブは、「MET's Filedriver 4の環境設定」で「AP登録ドライブ」に設定したドライブになります。

```
A:¥

¥                                   --------
├ATOK7                              --------
├DOS                                --------
├MFD                                --------
│ ├HCA
│ ├OS
│ ├ワープロ                          IO.SYS
│ │      ├日本語                     MSDOS.SYS
│ │      ├英語                       COMMAND.COM
│ │      └毛筆
│ ├業務
│ ├通信
│ ├統合型
│ ├表計算

RET:決定   ROLLUP:↓   ROOLUP:↑   ESC:中止
```

注意事項

この時、表示されたドライブ以外のハードディスクに、日本語入力FEPが登録されている場合は、← キーか → キーを押して下さい。
次のウインドが画面中央に表示されます。

ドライブ変更

ドライブを変更して下さい

A B C D E F G H I J K L M
N O P Q R S T U V W X Y Z

RET : 決定　ESC : 中止

この画面が表示されましたら、目的の日本語入力FEPが存在する、ハードディスクを選択して⏎キーを押して下さい。
そのハードディスクのツリー構造が表示されます。

⑥「⑤」の画面が表示されましたら、マニュアル登録を行いたいアプリケーションソフトが存在するディレクトリに、↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様な画面が表示されます。

タイトル、表題、登録ディレクトリを設定して下さい

タイトル　[一太郎 Ver4.3　]
表　題　[　]

登録するパス名
[A:¥TARO4　]

行移動 : ↑ ↓　F･10 : 設定完了　ESC : 中止

⑦この画面ではマニュアル登録を実行する、「アプリケーションソフト」のタイトル、表題、の変更ができます。
ここでは、一太郎 Ver4.3を例に上げています。
なお、自動登録と異なり、パス名の変更はできません。
パス名は、ツリー構造表示で選択したディレクトリ名が入ります。

⑧まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、アプリケーションメニューのメニュータイトルの右横に表示される［　］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で２０文字、全角で１０文字入力することができます。

⑨⏎キーを押すと、「タイトル」にカーソルが移動します。
マニュアル登録の場合は、そのファイラーで設定されているタイトルが、ここに最初から表示されていますが、変えたい場合は、BSキーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で２０文字、全角で１０文字登録できます。

⑩全て終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
次のウインドが表示されます。

日本語FEP選択		
0.	ATOK7	[　　　　]
1.	------------	[　　　　]
2.	------------	[　　　　]
3.	------------	[　　　　]
4.	------------	[　　　　]
5.	------------	[　　　　]
6.	------------	[　　　　]
7.	------------	[　　　　]
8.	------------	[　　　　]
9.	------------	[　　　　]
*.	FEPは使用しない	[　　　　]

⑪この画面で、マニュアル登録するアプリケーションソフトで、使用したい日本語入力FEPを選択します。
すでに、ATOK7が登録されている状況ですが、基本的には何も登録されていません。
日本語入力FEPが未登録の状態ならば、ESCキーを押してこの作業を中止し、先に日本語入力FEPの登録を済ませて下さい。
日本語入力FEPの登録方法は、この取り扱い説明書の、「日本語入力FEPの自動登録」をご参照下さい。
また、マニュアル登録されるアプリケーションソフトが日本語入力を使用しない場合、「＊：FEPを使用しない」を選択して下さい。

[↑] キーか [↓] キーで選択し、⏎キーで決定します。
使用する日本語入力FEPを決めると、以下の様なウインドが表示されます。

デバイスドライバを選択して下さい　(F･10:終了)

デバイス選択	
① 0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS　]
1. －－－－－－－－－－－－	[　]
2. －－－－－－－－－－－－	[　]
3. －－－－－－－－－－－－	[　]
4. －－－－－－－－－－－－	[　]
5. －－－－－－－－－－－－	[　]
6. －－－－－－－－－－－－	[　]
7. －－－－－－－－－－－－	[　]
8. －－－－－－－－－－－－	[　]
9. －－－－－－－－－－－－	[　]

⑫ここで、使用したいデバイスドライバを選択します。
この画面ではすでに、PRINT.SYSが登録されています。
なお、先程の日本語入力FEPとは異なり、必ず選択しも選択する必要はありません。
[↑] キーか [↓] キーで選択し、⏎キーで決定します。
選択しない場合は、ファンクションキーのF10を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

メニュー上の登録位置 を設定して下さい

⑬前記のウインドが表示されましたら、登録したいメニュー位置を決定し、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドを表示して、登録を開始します。

一太郎 Ver4.3 のマニュアル登録を実行します

何かキーを押して下さい

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

⑭インストールが終了すると、そのアプリケーションソフトの補足説明が表示されますので、
内容を確認しながら、何かキーを押して下さい。
表示が終了すると、以下の様なメッセージが表示されます。

補足説明を表示しますか？

する　　しない

⑮ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。
ただし、ESC キーは押さないで下さい。
登録したアプリケーションソフトがすべて、キャンセルされ、未登録の状態になります。

一太郎 Ver4.3の補足説明の表示を終了します

何かキーを押して下さい

何かキーを押すと、**MET's Filedriver 4** の画面に戻ります。

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

以上で **MET's Filedriver 4** での、アプリケーションソフトのマニュアル登録は終了です。この後、メニューから登録したアプリケーションを起動させ、動作確認を行って下さい。登録したアプリケーションソフトによっては、EMSを必要とする場合もありますので、その場合は、EMSドライバを、各EMSドライバの取り扱い説明書にしたがって、**MET's Filedr iver 4** を立ち上げた、ハードディスクのCONFIG.SYSに設定して下さい。

6.4.3 アプリケーションソフトのユーザ登録

この登録方法は、**MET's Filedriver 4**の自動登録ファイラー「.HCA」、マニユアル登録ファイラー「.HCM」でサポートしていないアプリケーションソフトを登録する方法です。

<u>ただし、すべてのソフトが、この登録方法で登録できるとは限りませんので、ご注意下さい。</u>

以下は、ユーザ登録に関する注意事項です

ユーザ登録に関する注意事項
ユーザ登録は、**MET's Filedriver 4**で用意されている、「.HCA」、「.HCM」のファイルリストに存在しない、アプリケーションソフトを登録する方法です。
「.HCA」、「.HCM」に存在しないということは、そのアプリケーションソフトの起動環境が
MET's Filedriver 4では、いっさいわからない、ということになります。
したがって、そのアプリケーションソフトが、ハードディスクの、どのサブディレクトリに存在し、そこからの起動ファイル名や、動作に必要なデバイスドライバがあれば、その指定もお客様が行わなければなりません。
これらの内容は弊社では分りませんので、お客様自信が調査しなければなりません。
また、そのアプリケーションソフトの特性もあり、ユーザ登録を行ったからといって、必ず動作するわけではありません。
そのアプリケーションが、動作に必要なメモリが大き過ぎるためのメモリ不足、動作にDOSエクステンダー等を必要とするソフト、その他いろいろな条件で動作しないケースが考えられます。
その場合は、**MET's Filedriver 4**がインストールされているドライブとは、別のドライブにそのアプリケーションソフトをインストールして、そこからMS－DOSを起動し、ご使用になって下さい。
または、**MET's Filedriver 4**をそのドライブから削除し、他のドライブへインストールしても結構です。
ただし、すでに存在している**MET's Filedriver 4**を「COPYコマンド」、「XCOPYコマンド」市販されているバックアップソフト等使用して、他のドライブへ移動すること行わないで下さい。
最悪の場合、**MET's Filedriver 4**が正常に動作しなくなります。
また、ハードディスクのルートディレクトリに、全てのファイルを展開するようなアプリケーションソフトや、ルートディレクトリでないと動作しないアプリケーションソフトは、ユーザ登録はできません
なお、MS－WINDOWSは、**MET's Filedriver 4**ではご使用になることができません。

以下に、ユーザ登録の作業手順を説明します。

① **MET's Filedriver 4**を起動して、ファンクションキーのF1「AP」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

AP

0: アプリケーションの登録

1: アプリケーションの削除

②前記のウインドが開きましたら、「0：アプリケーションの登録」に、↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様にウインドが表示されます。

登録形式

1: 自動登録

2: マニュアル登録

3: ユーザー登録

4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「アプリケーションの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「ユーザー登録」に ↓ キー ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様な、ウインドが表示されます。

```
A:¥
─────────────────────────────────────────────
¥                                 │ ────────
├ATOK7                            │ ────────
├DOS                              │ ────────
├MFD                              │ ────────
│ ├HCA                            │
│ ├OS                             │ IO.SYS
│ ├ワープロ                       │ MSDOS.SYS
│ │      ├日本語                  │ COMMAND.COM
│ │      ├英語                    │
│ │      └毛筆                    │
│ ├業務                           │
│ ├通信                           │
│ ├統合型                         │
│ ├表計算                         │
─────────────────────────────────────────────
RET:決定   ROLLUP:↓   ROOLUP:↑   ESC:中止
```

注意事項

この時、表示されたドライブ以外のハードディスクに、ユーザ登録を行いたいアプリケーションソフトが登録されている場合は、[←] キーか [→] キーを押して下さい。
次のウインドが画面中央に表示されます。

```
        ドライブ変更
──────────────────────────
   ドライブを変更して下さい

 A B C D E F G H I J K L M
 N O P Q R S T U V W X Y Z

 RET : 決定    ESC : 中止
```

この画面が表示されましたら、目的のアプリケーションソフトが存在する、ハードディスクを選択して[↵]キーを押して下さい。
そのハードディスクのツリー構造が表示されます。

④このツリー構造は、ハードディスクのディレクトリ構造で、表示されるドライブは、「MET's Filedriver 4の環境設定」で「AP登録ドライブ」に設定したドライブになります。
ここで、ユーザ登録を行いたいアプリケーションソフトが格納されているディレクトリに、
[↑] キーか、[↓] キーで、カーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。
以下のウインドが表示されます。

```
タイトル、表題、登録ディレクトリを設定して下さい

タイトル [                    ]
 表 題   [                    ]

登録するパス名
[A:¥                                                  ]

        行移動 : ↑ ↓    F・10 : 設定完了    ESC : 中止
```

⑤この画面ではユーザ登録を行う、「アプリケーションソフト」のタイトル、表題、の変更ができます。
なお、自動登録と異なり、パス名の変更はできません。
パス名は、ツリー構造表示で選択したディレクトリ名が入ります。

⑥まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、アプリケーションメニューのメニュータイトルの右横に表示される［　　］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。

⑦[⏎]キーを押すと、「タイトル」にカーソルが移動します。
マニュアル登録の場合は、そのファイラーで設定されているタイトルが、ここに最初から表示されていますが、変えたい場合は、[BS]キーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で20文字、全角で10文字登録できます。

⑧全て終わりましたら、ファンクションキーの[F10]を押して下さい。
次のウインドが表示されます。

日本語FEP選択

0.	ATOK7	[　　　　　　]
1.	―――――――――――	[　　　　　　]
2.	―――――――――――	[　　　　　　]
3.	―――――――――――	[　　　　　　]
4.	―――――――――――	[　　　　　　]
5.	―――――――――――	[　　　　　　]
6.	―――――――――――	[　　　　　　]
7.	―――――――――――	[　　　　　　]
8.	―――――――――――	[　　　　　　]
9.	―――――――――――	[　　　　　　]
*.	FEPは使用しない	[　　　　　　]

⑨この画面で、ユーザ登録するアプリケーションソフトで、使用したい日本語入力FEPを選択します。
この画面では、ATOK7が登録されている状況ですが、基本的には何も登録されていません。

日本語入力FEPが未登録の状態ならば、ESCキーを押してこの作業を中止し、先に日本語入力FEPの登録を済ませて下さい。
日本語入力FEPの登録方法は、この取り扱い説明書の、「日本語入力FEPの自動登録」をご参照下さい。
また、マニュアル登録されるアプリケーションソフトが日本語入力を使用しない場合、「＊：FEPを使用しない」を選択して下さい。
[↑] キーか [↓] キーで選択し、⏎キーで決定します。
使用する日本語入力FEPを決めると、以下の様なウインドが表示されます。

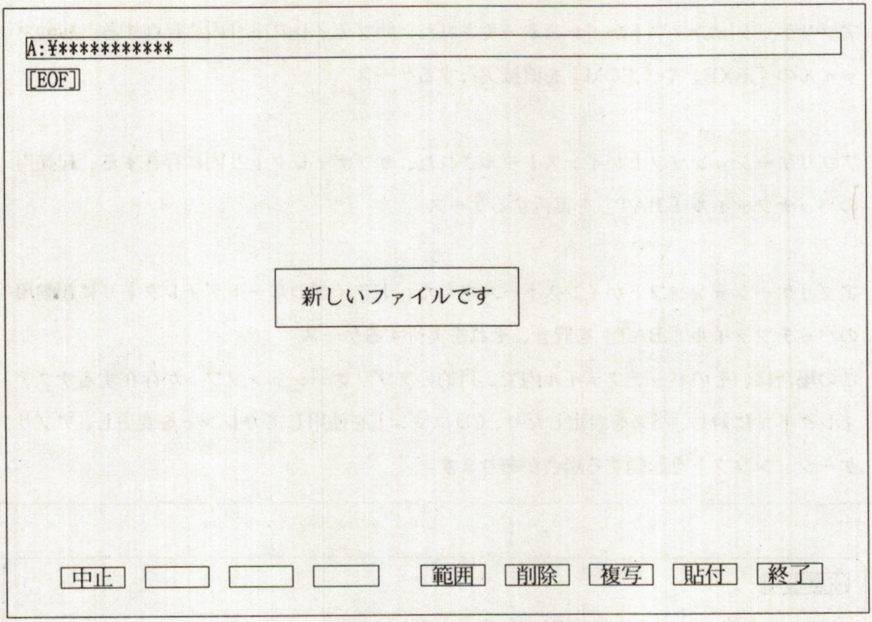
デバイスドライバを選択して下さい　(F･10:終了)

デバイス選択	
① 0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS　　]
1. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
2. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
3. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
4. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
5. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
6. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
7. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
8. ーーーーーーーーーーーー	[　　]
9. ーーーーーーーーーーーー	[　　]

⑩ここで、使用したいデバイスドライバを選択します。
この画面ではすでに、PRINT.SYSが登録されています。
なお、先程の日本語入力FEPとは異なり、必ず選択しも選択する必要はありません。
[↑] キーか [↓] キーで選択し、⏎キーで決定します。
選択しない場合は、ファンクションキーの[F10]を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

メニュー上の登録位置 を設定して下さい

⑪前記のウインドが表示されましたら、登録したいメニュー位置を決定し、⏎キーを押して下さい。
「**MET's Filedriver 4**の環境設定」で設定した、エディタが立ち上がります。
なお、以下のエディタ画面は、出荷状態で**MET's Filedriver 4**に添付されている、ME.EXEの画面です。



注意事項

この画面の「EOF」は、「End of File」の略で、ファイル内容の終わりを意味します。文字入力は、この「EOF」の前にしか行えません。

⑫この画面で、ユーザ登録を実行したい、アプリケーションソフトの起動ファイル名を、半角文字で入力します。
この起動ファイル名は、個々のアプリケーションソフトでまったく異なっていて、大別すると以下の３つのパターンに別れます。

・アプリケーションソフトがインストールされた、サブディレクトリ内に存在する、起動ファイルの「.EXE」や「.COM」を直接実行するケース

・アプリケーションソフトがインストールされた、サブディレクトリ内に存在する、起動用のバッチファイル「.BAT」を実行するケース

・アプリケーションソフトがインストールされた、ドライブのルートディレクトリに起動用のバッチファイル「.BAT」を置き、それを実行するケース
この場合は、そのバッチファイル内で、目的のアプリケーションソフトが存在するサブディレクトリに対し、パスを設定したり、CDコマンドを使用してカレントを変更し、アプリケーションソフトを起動する場合があります。

注意事項

前記の、起動ファイル名の種別には例外もあります

基本的に、これらの起動ファイル名は、そのアプリケーションソフトの取り扱い説明書に、記載されています。

また、アプリケーションソフトによっては、ハードディスクインストール後に、インストールしたハードディスクの「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」を、書き換えるケースもありますので、その「AUTOEXEC.BAT」を参考にする方法もあります。
ただし、ある程度、MS－DOSに関する知識が必要です。

⑬実行情報ファイルの編集が終わりましたら、ファンクションキーのF10に終了キーがありますので、押して下さい。
「⑪」で決定したメニュー位置に、「⑤」で入力したタイトルでアプリケーションソフトが登録されます。
この後、登録したアプリケーションソフトが、正常に起動するかをチェックして下さい。
もし、起動しなければ、次項の「ユーザ登録で登録したソフトが動作しない場合」にしたがって、チェックして下さい。

6.4.4 ユーザ登録で登録したソフトが動作しない場合

前項でユーザ登録の方法を説明しましたが、うまく動作しないケースも考えられます。
主に以下の点が原因として考えられますので、チェックして下さい。

可能性その１

実行情報ファイル、MFD.BATが間違っている

対処方法

再度、そのアプリケーションソフトの、起動ファイル名を確認して下さい。
変更方法は、ファンクションキーのF5「編集」を押して、表示される３つのファイル形式から「2:実行情報のファイル」を選択し、目的のアプリケーションソフトを選んで下さい。
前項の「⑫」のエディタ画面が起動しますので、間違っていましたら変更して下さい。

可能性その２

そのアプリケーションソフトの起動に、そのソフトに添付されているデバイスドライバか、指定のデバイスドライバが必要

対処方法

まず、そのデバイスドライバのファイル名と、どこに存在しているか、を確認して下さい。
アプリケーションソフトによっては、ハードディスクインストールプログラムで、インストールされないケースもありますので、その取り扱い説明書をご参照下さい。
また、メモリ関係のデバイスドライバは、ルートディレクトリの「CONFIG.SYS」に記述してから、コンピュータを再起動させて下さい。

それ以外の場合は、ファンクションキーのF5「編集」を押して、表示される３つのファイル形式から「1:デバイス情報ファイル」を選択します。
「アプリケーション」、「日本語入力FEP」と表示されますので、「アプリケーション」を選択し、メニューに登録されたアプリケーションソフトのタイトルを選択して下さい
そのアプリケーションソフトのデバイス情報ファイル、「CONFIG.DEV」が、以下の様に表示されます。
なお、以下の画面は、日本語入力FEPは設定されていない場合です。

```
A:¥*********¥CONFIG.DEV
:
[EOF]














 [中止] [    ] [    ] [    ]   [範囲] [削除] [複写] [貼付] [終了]
```

もし、日本語入力FEPが設定されていた場合は、以下の様になります。
以下は、ATOK7、標準辞書「ATOK7.DIC」で設定されている場合です。

```
A:¥*********¥CONFIG.DEV
:¥ATOK7
ATOK7A.SYS /D=A:¥ATOK7.DIC
ATOK7B.SYS
:
[EOF]
```

[中止] [ ] [ ] [ ] [範囲] [削除] [複写] [貼付] [終了]

この画面の、「ATOK7B.SYS」の次の行、「EOF」の直前の行に、「：」がありますが、お客様がデバイスドライバを追加される場合は、この「：」の次の行に記述して下さい。
もし、「：」の前、「ATOK7B.SYS」の直下の行に記述した場合、動作はしますが、**MET's Filedriver 4**の「APで使用するデバイスの選択」で、日本語入力FEPを他の物に変更した場合、その内容は、ATOK7と一緒に消され、変更した日本語入力FEPのみの、内容となります。
「：」は、「APで使用するデバイスの選択」で、消してはいけないデバイスドライバの区切りを示すもので、アプリケーションソフトの自動登録ファイラー内で、デバイスドライバを登録する場合にも、この「：」の下にデバイスドライバが記述されます。
ただし、「APで使用するデバイスの選択」の「デバイス選択」で、選択されたデバイスドライバは、「：」以前の行に記述されます。

したがって、ユーザ登録を行ったアプリケーションソフトで、使用するデバイスドライバを記述する場合は、「：」の下の行になります。
ただし、この時ファイル名と、そのファイルが存在するディレクトリに注意して下さい。
このデバイス情報ファイル、「CONFIG.DEV」は、ユーザ登録を行ったアプリケーションソフトのサブディレクトリに存在しています。

もし、目的のデバイスドライバが、それ以外のディレクトリに存在する場合は、そのパス名も指定しなければなりません。

以下は、前記のATOK7の指定があるデバイス情報ファイル、「CONFIG.DEV」にAドライブのサブディレクトリ、￥DOSに存在する、「MOUSE.SYS」の記述を行った例です。

```
A:¥*********¥CONFIG.DEV
:¥ATOK7
ATOK7A.SYS /D=A:¥ATOK7.DIC
ATOK7B.SYS
:
A:¥DOS¥MOUSE.SYS
[EOF]

中止 [ ] [ ] [ ]  範囲 削除 複写 貼付 終了
```

記述が終わりましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
内容を保存して、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。

可能性その3

そのアプリケーションソフトの起動に必要量のメインメモリが不足している、または起動に必要なEMSメモリが確保されていない、またはEMSとは共存できない。

対処方法

これはよくあるケースです。
メインメモリの不足の原因としては、**MET's Filedriver 4**を起動したドライブの、ルートディレクトリのCONFIG.SYSに、日本語入力FEPが宣言されており、なおかつ**MET's Filedriver 4**で、ユーザ登録をおこなったアプリケーションソフトにも、日本語入力FEPが設定されていたり、比較的メインメモリを消費する、常駐型プログラムが起動されていた場合に起ります。
この場合は、どちらかの日本語入力FEPを外すか、常駐型プログラムを解除するして下さい。

また、EMSがらみの問題ですが、最近のアプリケーションソフトはEMSがあってあたりまえの状況になりつつあります。
もし、EMSが必要なアプリケーションソフトで、EMSの設定がない、またはハード的にEMS用のメモリが存在しない場合は、それぞれの取り扱い説明書にしたがって、EMSを設定して下さい。
また、極く小数のケースですが、コンピュータ本体に内蔵されているメモリを、全て自分自身用に確保てしまうケースもあります。
この様なアプリケーションソフトは基本的にEMSとの併用は不可能です。
EMSの設定をとるか、そのアプリケーションソフトをとるか、お客様が判断して下さい。

可能性その４

指定したディレクトリには、目的のアプリケーションソフトが存在していない。

対処方法

目的のアプリケーションソフトが、インストールされているディレクトリを再確認して、もう１度、ユーザ登録を実行して下さい。

6.4.5 アプリケーションソフトのファイラーのヘルプ表示

この機能は、アプリケーションソフトの登録用ファイラー内に記述されている、補足説明のみを表示する機能です。

アプリケーションソフトの登録用ファイラー内に記述されている補足説明は、MET's Filedriver 3でも存在はしていましたが、インストールを実行しなければ表示されませんでした。

MET's Filedriver 4では、これを１つの機能として昇格させ、インストールを実行しなくても各ファイラーの補足説明、実行にあたっての注意事項を表示できるようにしました。

以下の方法で実行して下さい。

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF1「AP」を押して、下さい。
以下の様なウインドが開きます。

AP

0: アプリケーションの登録

1: アプリケーションの削除

②前記のウインドが開きましたら、「0：アプリケーションの登録」に ↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様にウインドが表示されます。

登録形式

- 1: 自動登録
- 2: マニュアル登録
- 3: ユーザー登録
- 4: ヘルプ表示

注意事項

前記のウインドは「スペースキー」を押して、「メインメニュー」を表示させ、「アプリケーション登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のウインドが表示されましたら、「4:ヘルプ表示」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

登録AP選択

ファイル名	アプリケーション名
OS	
ワープロ	
業務	
通信	
統合型	
表計算	
ｸﾞﾗﾌｨｯｸ	
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ	

△　▽　決定　中止

注意事項

前記の画面は8行まで表示しますが、**MET's Filedriver 4**の大きいジャンルは9つあります。
したがって、上記の画面では「ユーティリティ」を表示していません。
ユーティリティを選択されたい場合は、[↓] キーを押して、カーソルを移動するか、[ROOLUP] キーを押して、画面をスクロールさせて下さい。
ユーティリテイのジャンルが表示されます。

④「③」の画面が表示されましたら、ヘルプ表示（補足説明）を表示させたいアプリケーションソフトのジャンルに、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。

その中の、アプリケーションファイラーを表示します。
もし、その中に目的のアプリケーションのファイルがない場合は、「親ディレクトリ」に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。
ジャンル別ディレクトリ表示に戻ります。

また、ワープロのジャンルを選択した場合、その下に、日本語、英語、毛筆の３ジャンルが存在します。

なお、この一覧は親ディレクトリの表示を含めて、８個のファイルを同時に表示しますが、[↓] キーと、[↑] キーでスクロールできるほか、[ROLLUP] キー、[ROLLDOWN] キーで、８個づつ移動できます。
中止したいときは「ESCキー」を押して下さい。
ファンクションキーから選択した場合には、「メイン画面」に戻り、メインメニューを使用した場合には「メインメニュー」に戻ります。

⑤目的のアプリケーションソフトのファイラーを見つけましたら、[↓] キーか [↑] キーで、カーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。
次の様な画面が表示されます。
以下は一太郎 Ver4.3を選択した場合です。

```
このファイラーは 一太郎 Ver4.3 のファイラーです

何かキーを押して下さい
```

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

⑥前記の画面がそのソフトの補足説明になります。
内容を確認しながら、何かキーを押して下さい。
表示が終了すると、以下の様なメッセージが表示されます。

> 補足説明を表示しますか？
>
> する　　しない

⑦ここで、「する」を選択した場合、再度、補足説明が表示されます。
また、「しない」を選択した場合は、以下のウインドを表示します。
登録したアプリケーションソフトがすべて、キャンセルされ、未登録の状態になります。

> 一太郎 Ver4.3の補足説明の表示を終了します
>
> 何かキーを押して下さい

⑧何かキーを押すと、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。

注意事項

前記の画面内容は、一部変更になる場合があります

第７章　MET's Filedriver 4の、メニューに関する残りの各機能

7.1 アプリケーションの削除

この機能は、**MET's Filedriver 4**のメニューに登録した「アプリケーションソフト」を、削除する機能です。

この機能で、使用しないアプリケーションソフトを、メニューから削除することができます。

ただし、ディレクトリまで削除すると、**MET's Filedriver 4**では復活させることができません。

ご注意下さい。

以下に手順を追って説明いたします。

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF1「AP」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

AP
0: アプリケーションの登録
1: アプリケーションの削除

②前記のウインドが開きましたら、「アプリケーションの削除」に、↓キーか↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

削除するものを指定して下さい

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「アプリケーションの削除」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のメッセージが表示されましたら、**MET's Filedriver 4**の、メニュー上に登録されているアプリケーションソフト名から、削除したいアプリケーションソフト名に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

削除
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊を削除します よろしいですか？ [はい]　[いいえ]

> 注意事項
> ＊＊＊＊＊＊＊は削除対象のアプリケーションソフト名が入ります

④上記の画面が出ましたら、削除したければ「はい」に、削除したくなければ「いいえ」に、カーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
「いいえ」を選択した場合、**MET's Filedriver 4**に戻ります。
「はい」を選択した場合、次の様なウインドが表示されます。

削除
ディレクトリも削除しますか？ [はい]　[いいえ]

⑤前記のウインドで「はい」を選択した場合、無条件で、削除対象のアプリケーションソフトが存在するディレクトリを削除し、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

「いいえ」を選択した場合、ディレクトリはそのままで、**MET's Filedriver 4**のメニューからタイトルだけを削除し、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

> **注意事項**
>
> アプリケーションディレクトリの下に、それ用のデータのディレクトリを作成していると、そのディレクトリも無条件で削除してしまいますので、ご注意下さい。

なお、ディレクトリを削除しなければ、**MET's Filedriver 4**のマニュアル登録か、ユーザ登録の機能を使用して、アプリケーションメニューへの再登録も可能です。
ディレクトリを削除した場合は、**MET's Filedriver 4**では復活できません。

7.1.1 デバイスドライバの削除

この機能はもう使う予定がなかったり、間違えて登録してしまった「日本語入力FEP」や「デバイスドライバ」をこの機能で削除することができます。
以下の手順で実行して下さい。

1. 日本語入力FEPを削除する場合

① **MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

```
デバイス
─────────────
0: デバイスドライバの登録
1: デバイスドライバの削除
```

②前記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの削除」に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

```
1: 日本語入力ＦＥＰ
2: デバイスドライバ
```

```
どちらを削除するか
指定して下さい
```

注意事項

前記のウインドは「スペースキー」を押して、「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」ウインドが開きましたら、既に「日本語入力FEP」にカーソルが合っていますので、そのまま⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

日本語FEPを選択して下さい

日本語FEP選択		
0.	ATOK7	[ ]
1.	―――――――――――	[ ]
2.	―――――――――――	[ ]
3.	―――――――――――	[ ]
4.	―――――――――――	[ ]
5.	―――――――――――	[ ]
6.	―――――――――――	[ ]
7.	―――――――――――	[ ]
8.	―――――――――――	[ ]
9.	―――――――――――	[ ]
*.	FEPは使用しない	[ ]

④前記のウインドが表示されましたら、削除したい日本語入力FEPのタイトルに、↓キー、か、↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
この画面では、ATOK7が登録されている状況ですので、例として、ATOK7にカーソルを合せて、⏎キーを押します。
次の様な画面が表示されます。

削除

ATOK7　　　　　を削除します

よろしいですか？

［はい］　［いいえ］

注意事項

このウインド内容はATOK7を例にしています

⑤このウインドが表示されましたら、削除したければ「はい」に、削除したくなければ「いいえ」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
「いいえ」を選択した場合、**MET's Filedriver 4**に戻ります。
「はい」を選択した場合、次の様なウインドが表示されます。

削除

ディレクトリも削除しますか？

［はい］　［いいえ］

⑥前記のウインドで「はい」を選択した場合、無条件で削除対象の日本語入力FEPのディレクトリを削除し**MET's Filedriver 4**に戻ります。

「いいえ」を選択した場合、ディレクトリはそのままで、**MET's Filedriver 4**の、日本語入力 FEPのメニューから、日本語入力FEPのタイトルだけを削除し、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

注意事項

日本語入力FEPのディレクトリの階層下に、ディレクトリを作成していると、そのディレクトリも無条件で削除してしまいますので、ご注意下さい。

なお、ディレクトリを削除しなければ、**MET's Filedriver 4**の、マニュアル登録の機能を使用して、日本語入力FEPメニューへの再登録も可能です。
ディレクトリを削除した場合は、**MET's Filedriver 4**では復活できません。

2. デバイスドライバを削除する場合

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF2「DEV」を押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

デバイス
0: デバイスドライバの登録
1: デバイスドライバの削除

②前記のウインドが表示されましたら、「デバイスドライバの削除」に、↓キーか↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

1: 日本語入力ＦＥＰ
2: デバイスドライバ

どちらを削除するか 指定して下さい

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「2：デバイスドライバの削除」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③前記のウインドが開きましたら、「デバイスドライバ」に、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

デバイス選択

0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS]
1. ――――――――――――	[ ]
2. ――――――――――――	[ ]
3. ――――――――――――	[ ]
4. ――――――――――――	[ ]
5. ――――――――――――	[ ]
6. ――――――――――――	[ ]
7. ――――――――――――	[ ]
8. ――――――――――――	[ ]
9. ――――――――――――	[ ]

④このウインドが表示されましたら、削除したいデバイスドライバに、[↓] キーか [↑] キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
この画面では、PRINT.SYSが登録されていますので、例として、PRINT.SYSを使用し、カーソルを合せます。
次の様なウインドが開きます。

削除

PRINT.SYS　　を削除します
よろしいですか？

[はい]　[いいえ]

⑤前記のウインドが表示されましたら、削除したければ「はい」に、削除したくなければ「いいえ」にカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。

「いいえ」を選択した場合、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

「はい」を選択した場合、デバイスドライバのメニュー画面から、削除対象のデバイスドライバを削除し、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

以上でデバイスドライバの削除は終了です。

7.1.2 標準で使うデバイスの選択

MET's Filedriver 4の画面の上で、使用する「日本語入力FEP」を設定することができます。

詳しくはお手数ですが「4.3 標準使用の日本語入力FEP、デバイスドライバの設定」をご一読下さい。

7.1.3 APで使うデバイスの選択

MET's Filedriver 4では、アプリケーションソフト登録時に、あらかじめ登録しておいた「日本語入力FEP」の中から、使用したいものを指定して登録します。

ところがこの「日本語入力FEP」を変更したい場合、または、アプリケーションソフト登録時、使いたい日本語入力FEPが登録されていない、日本語入力FEPを変更したい等のケースが出てきます。

MET's Filedriver 4では、この作業を行う機能があり、それが本項の「APで使うデバイスの選択」です。

ただし、以下の制限事項があります。

APで使うデバイスの選択の制限事項

- アプリケーションソフトによっては、特定の「日本語入力FEP」でしか、動作しないものがあります。
- この作業は日本語FEPとデバイスドライバとが1セットになっており、日本語FEPは変更しないが、デバイスドライバは変更しないとか、日本語FEPは変更するが、デバイスドライバは変更しないという作業は出来ません。

以下の手順で実行して下さい。

① **MET's Filedriver 4**の「メイン画面」の状態から、ファンクションキーのF3「変更」を押して下さい。
次のウインドが開きます。

デバイス変更
0: 標準で使うデバイスの選択
1: APで使うデバイスの選択

②前記のウインドが開きましたら、「APで使うデバイスの選択」に [↓] キーか、[↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次のメッセージが表示されます。

デバイスを変更するAP を指定して下さい

注意事項

前記のメッセージは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「5：APで使うデバイスの選択」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

③「②」のメッセージが表示されましたら、デバイスを変更したいアプリケーションのタイトルに、[↓] キーか [↑] キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次のウインドが開きます。

日本語FEPを選択して下さい

日本語FEP選択

0. ATOK7 [ ]
1. ------------ [ ]
2. ------------ [ ]
3. ------------ [ ]
4. ------------ [ ]
5. ------------ [ ]
6. ------------ [ ]
7. ------------ [ ]
8. ------------ [ ]
9. ------------ [ ]
*. FEPは使用しない [ ]

④前記のウインドが開きましたら、指定したアプリケーションソフトで使用したい、日本語入力 FEPに、↓ キーか ↑ キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
この画面では、ATOK7が登録されている状態ですが、登録されている日本語入力FPを選択して下さい。
もし、何も登録されていなければ、この作業を中止し、日本語入力FEPを登録して下さい。

また、指定したアプリケーションソフトから、日本語入力FEPを外す場合は、「＊：FEPは使用しない」を選択して下さい。
以下のウインドが表示されます。

デバイスドライバを選択して下さい　(F･10:終了)

デバイス選択

0. PRINT.SYS	[PRINT. SYS　]
1. －－－－－－－－－－－	[　]
2. －－－－－－－－－－－	[　]
3. －－－－－－－－－－－	[　]
4. －－－－－－－－－－－	[　]
5. －－－－－－－－－－－	[　]
6. －－－－－－－－－－－	[　]
7. －－－－－－－－－－－	[　]
8. －－－－－－－－－－－	[　]
9. －－－－－－－－－－－	[　]

⑤このウインドが表示されましたら、指定したアプリケーションソフトで、使用したいデバイスドライバに、↓ キーか ↑ キーでカーソルを合せて、ファンクションキーのF10を押して下さい。
この画面は、PRINT.SYSが登録されている状況ですが、指定したアプリケーションソフトで使用するデバイスドライバを指定して下さい。
指定した場合は、そのデバイスドライバのタイトルの左横に、①～⑨までの記号が表示されます。

また、すでに登録されているデバイスドライバを解除したい場合、何も選択せず、ファンクションキーのF10を押して下さい。

選択したアプリケーションソフトの、デバイスドライバを変更して、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。

以上で「APで使うデバイスの選択」は終了です
「日本語入力FEP」を変更したアプリケーションソフトを起動して下さい。
変更した「日本語入力FEP」でアプリケーションソフトが立ち上がってきます。

ただし、制限事項でもご説明いたしましたが、アプリケーションソフトのなかには、設定された「日本語入力FEP」でないと立ち上がらなかったり、立ち上がっても動作に制約が発生するプリケーションソフトもありますので、ご注意下さい。

例）　一太郎　Ver4.3ATOK7のみ
　　　花子　　Ver2ATOK7のみ

注意事項

ATOK6は、16ビットFATでフォーマットされている、ハードディスクでは正常には動作しません
これには、10MB以上の領域を確保している、SCSI型ハードディスクと、大容量のノート型パソコンの内蔵ハードディスクが相当します。

7.1.4 APタイトル・表題変更

MET's Filedriver 4では、「自動登録」、「マニュアル登録」、「ユーザ登録」でアプリケーションソフトと、日本語入力FEPを含んだ、デバイスドライバを登録できることはご説明いたしましたが、このうち、「自動登録」、「マニュアル登録」で登録した場合、メニュー画面には自動的にアプリケーションソフトのタイトルが記入されます。

このタイトル名は、**MET's Filedriver 4**の、登録用ファイラー内の２行目で宣言されています。
ところがこのタイトルが気にいらない方もいらっしゃると思います。

そこで、**MET's Filedriver 4**では、「アプリケーションソフト」と「日本語入力FEP」のタイトルを変更することができます。

また、タイトル名の右横に［　］で囲われた部分があります。
この部分は「表題」と呼びます。

アプリケーションソフトの場合、この箇所は「自動登録」、「マニュアル登録」では、何も記入しませんし、「日本語入力FEP」の場合も同様です。

ここはどのように使われてもかまいません。
使われる方が、登録したアプリケーションソフトに関連する事柄を、記入しても結構ですし、バージョンを記入しても結構です。

以下の手順で操作して下さい。

●アプリケーションの場合

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF4「表題」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

表題変更
1：アプリケーション
2：日本語入力ＦＥＰ

> 注意事項
>
> 前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「APタイトル・表題の変更」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

②前記のウインドが開きましたら、「アプリケーション」に ↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

> メニューの位置を設定
> して下さい

③「②」のウインドが表示されましたら、タイトル名を変更したいアプリケーション名に、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
そのページに変更したいタイトルがない場合は、→ キーか、← キーを押すことによって、ページが変りますので、ページを変更して、そのアプリケーションソフトにカーソルを合せて⏎キーを押して下さい。
次の様にウインドが開きます。

タイトル・表題変更
タイトル [　　　　　　　　　　]
表　題 [　　　　　　　　　　]
登録するパス名
[A:¥*********　　　　　　　　　　]
行移動 : ↑ ↓　F・10 : 設定完了　ESC : 中止

④まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、アプリケーションメニューのメニュータイトルの右横に表示される［ ］の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。

⑤⏎キーを押すと、「登録するパス名」にカーソルが移動します。
ここで、タイトル・表題を変更するアプリケーションソフトが、インストールされている、ディレクトリ名を変更することができます。
ただし、変更できるのは、そのソフトが存在するディレクトリのみで、そのディレクトリが属している上位階層のディレクトリ名を変更することはできません。

例をあげると、A：¥ABC¥DEFというディレクトリに、アプリケーションソフトがインストールされていると仮定して、この登録パスをここで変更しようとした場合、変更できるのは、DEFのみで、ABCの部分は変更することができない、ということです。

パス名を変更した場合、アプリケーションソフトがインストールされているディレクトリは、その変更した名前に、リネームされます。

⑥⏎キーを押すと、「タイトル」にカーソルが移動します。
変えたい場合は、BSキーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で20文字、全角で10文字登録できます。

⑦作業が終了しましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
変更した内容をメニューに書き込み、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

以上でアプリケーションソフトのタイトル・表題変更は終了です。

●「日本語入力FEP」の場合

①**MET's Filedriver 4**の「メイン画面」から、ファンクションキーのF4「表題」を押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

表題変更
1: アプリケーション
2: 日本語入力ＦＥＰ

> 注意事項
>
> 前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「APタイト ル・表題の変更」にカーソルを合せて、↵キーを押しても表示されます。
> また、デバイスドライバのユーザ登録で、登録したデバイスドライバはタイトル・表題の変更はできません。

②前記のウインドが開きましたら、「日本語入力FEP」に ↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、↵キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

日本語FEP選択		
0.	ATOK7	[　　　　　　]
1.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
2.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
3.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
4.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
5.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
6.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
7.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
8.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
9.	ーーーーーーーーーーー	[　　　　　　]
*.	FEPは使用しない	[　　　　　　]

③上記のウインドが表示されましたら、タイトル名を変更したい日本語入力FEP名に、[↓]キーか [↑] キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
このウインドには、ATOK7が登録されている状況ですので、ATOK7を例にあげます。
次の様にウインドが開きます。

```
                    タイトル・表題変更

    タイトル  [ATOK7              ]
     表  題   [                   ]

    登録するパス名
    [A:¥ATOK7****                                        ]

          行移動 :  ↑  ↓    F・10 : 設定完了      ESC : 中止
```

④まず、このウインドが表示された段階で、表題にカーソルが合っています。
この表題は、アプリケーションメニューのメニュータイトルの右横に表示される [ ] の箇所のことで、ここにメニュータイトルに入り切らない、バージョン表示などを記述するなどの使用方法があります。
半角で20文字、全角で10文字入力することができます。

⑤⏎キーを押すと、「登録するパス名」にカーソルが移動します。
ここで、タイトル・表題を変更するアプリケーションソフトが、インストールされている、ディレクトリ名を変更することができます。
ただし、変更できるのは、そのソフトが存在するディレクトリのみで、そのディレクトリが属している上位階層のディレクトリ名を変更することはできません。

例をあげると、A:¥ABC¥DEFというディレクトリに、アプリケーションソフトがインストールされていると仮定して、この登録パスをここで変更しようとした場合、変更できるのは、DEFのみで、ABCの部分は変更することができない、ということです。
前記のウインドでは、「A:¥ATOK7」となっていますが、変更できるのは「ATOK7」の箇所で、「A:¥」は変更する事ができません。

パス名を変更した場合、アプリケーションソフトがインストールされているディレクトリは、その変更した名前に、リネームされます。

⑥⏎キーを押すと、「タイトル」にカーソルが移動します。
変えたい場合は、BSキーで消して、お好みのタイトルを入力して下さい。
半角で２０文字、全角で１０文字登録できます。

⑦作業が終了しましたら、ファンクションキーのＦ１０を押して下さい。
変更した内容をメニューに書き込み、**MET's Filedriver 4**に戻ります。

以上で日本語入力FEPのタイトル・表題変更は終了です。

7.1.5 AP環境ファイルの編集

この機能では、**MET's Filedriver 4**が、アプリケーションソフトや、日本語入力FEPを使用するために必要なファイル、「CONFIG.DEV」と「MFD.BAT」を編集することができます。

使用するエディタは「**MET's Filedriver 4**の環境設定」で設定したエディタを使用します。
何も設定されていない場合、標準添付の「ME.EXE」が立ち上がります。
また、「任意のファイル」で「CONFIG.DEV」と「MFD.BAT」以外のファイルを編集することも可能です。

以下にファイル別に説明してきます。
なお、以下の説明で使用しているエディタは、標準添付の「ME.EXE」を使用しています。

●デバイス情報ファイル（CONFIG.DEV）

このファイルは、**MET's Filedriver 4**にインストールされた、アプリケーションソフトのデバイス情報を司どるファイルで、この中に日本語入力FEPを始めとする、各種のデバイスドライバの記述が行われます。
以下の手順でその内容を表示、編集することが可能です。

① **MET's Filedriver 4**のメイン画面から、ファンクションキーのF5「編集」を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

編集ファイル選択

1：デバイス情報ファイル
2：実行情報のファイル
3：任意のファイル

> 注意事項
>
> 前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

②前記のウインドが表示されましたら、「デバイス情報ファイル」に、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが開きます。

編　集
1：アプリケーション
2：日本語入力ＦＥＰ

③前記のウインドが表示されましたら、「アプリケーション」に、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

> 編集の対象となるもの
> を指定して下さい

④前記のウインドが表示されましたら、「デバイス情報ファイル（CONFIG.DEV）」を編集したいアプリケーションソフトのタイトルに、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下は、例として「一太郎Ver4.3」の「デバイス情報ファイル（CONFIG.DEV）」を表示しています。
なお、ATOK7は標準のATOK7で、辞書ファイルはATOK7.DICの例です。

```
A:¥TARO4¥CONFIG.DEV

:¥ATOK7
ATOK7A.SYS /D=A:¥ATOK7.DIC
ATOK7B.SYS
```

中止 | 　 | 　 | 　 | 範囲 | 削除 | 複写 | 貼付 | 終了

注意事項

この画面の「EOF」は、「End of File」の略で、ファイル内容の終わりを意味します。
文字入力は、この「EOF」の前にしか行えません。

⑤上記が、一太郎 Ver4.3の「デバイス情報ファイル（CONFIG.DEV）」の内容です。
お客様の使用状態によっては、多少異なる場合があります。
また、エディタ画面の操作方法については、後で説明いたします「任意のファイル」で説明します。

⑥まず、１行目ですが、これはATOK7が格納されているディレクトリを示しています。
この例は、**MET's Filedriver 4**と同じドライブに、ATOK7がインストールされていますので、「：¥ATOK7」となっていますが、もし違うドライブの場合は、「：(ドライブ番号)：¥ATOK7」となります。

たとえば、**MET's Filedriver 4**がAドライブに登録されていて、ATOK7がBドライブに登録されていた場合は、「：B：¥ATOK7」となります。

⑦次の行ですが、ATOK7の場合は、2つのファイルから構成されていますので、2行目から3行目がこれに相当します。
ほとんどの日本語入力FEPは、1つのファイルのみですが、高機能化がすすむにつれ、2つ以上のファイルで構成される例があります。
デバイス選択で選択したデバイスドライバは、この日本語入力FEPの下に記述されます。

⑧最下行の「：」ですが、これは消してはいけないデバイスドライバの区切りを示すもので、アプリケーションソフトの自動登録ファイラー内で、デバイスドライバを登録する場合にも、この「：」の下にデバイスドライバが記述されます。
したがって、お客様が手作業で、デバイスドライバを組み込む場合は、この「：」の次の行以下に記述して下さい。
ただし、デバイス情報ファイル「CONFIG.DEV」は、そのアプリケーションのディレクトリに存在していますので、違うディレクトリに存在するデバイスドライバのファイル名を入力するさいは、パス名も含めて入力して下さい。

⑨編集が終了しましたら、ファンクションキーのF10を押して下さい。
変更した内容を保存して、**MET's Filedriver 4**の画面に、戻ります。

●実行情報のファイル（MFD.BAT）

この機能は、**MET's Filedriver 4**に、登録されたアプリケーションソフトが、**MET's Filedriver 4**上から起動する為に必要なファイル、MFD.BATを編集する機能です。

MET's Filedriver 4は,アプリケーションソフトを起動する際、このファイルの内容を読み取り、その中に記述されているファイルを動作させて、アプリケーションソフトを起動します。
この内容が異なっていると、**MET's Filedriver 4**から、アプリケーションソフトを起動させることができません。
以下の手順でその内容を表示、編集することが可能です。

①**MET's Filedriver 4**のメイン画面から、ファンクションキーのF5「編集」を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

編集ファイル選択

1：デバイス情報ファイル
2：実行情報のファイル
3：任意のファイル

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

②前記のウインドが表示されましたら、「実行情報ファイル」に、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なメッセージが表示されます。

編集の対象となるもの
を指定して下さい

③ここで、「実行情報のファイル（MFD.BAT）」を編集したいアプリケーションソフトに、↓ キーか、↑ キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
選択したアプリケーションソフトの「実行情報のファイル（MFD.BAT）」がエディタ画面で表示されます。
エディタ画面の操作方法はこの後の「任意のファイル」で説明します。

注意事項

MET's Filedriver 3までは、実行情報ファイル名はSETUP.BATでしたが、このファイル名だと、登録したアプリケーションソフト内に、「SETUP.EXE」や「SETUP.COM」が存在した場合、そちらを起動してしまいました。
MET's Filedriver 4では、実行情報ファイル名を、MFD.BATに変更し、このようなことを防いでいます。
また、MET's Filedriverシリーズから、**MET's Filedriver 4**に変更した場合、SETUP.BATは、**MET's Filedriver 4**から、そのアプリケーションソフトを1回起動することで、MFD.BATにリネームされます。
したがって、MET's Filedriverシリーズから、**MET's Filedriver 4**に変更された直後は、全てのアプリケーションソフトを必ず1回起動して下さい。
もし、実行情報ファイルが、SETUP.BATのままだと、この実行情報ファイルの編集を行った場合、SETUP.BATは無視され、MFD.BATが新規に作成されます。

●任意のファイル

この機能は、任意のテキストファイルを編集する機能です。
ここにカーソルを合せて⏎キーを押すと以下のような画面が表示されます。
以下の手順で使用して下さい。

① **MET's Filedriver 4**のメイン画面から、ファンクションキーのF5「編集」を押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。

編集ファイル選択

1: デバイス情報ファイル
2: 実行情報のファイル
3: 任意のファイル

注意事項

前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

②前記のウインドが表示されましたら、「任意のファイル」に、↓キーか、↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

編集するファイル名を入力して下さい（中止：ESC）

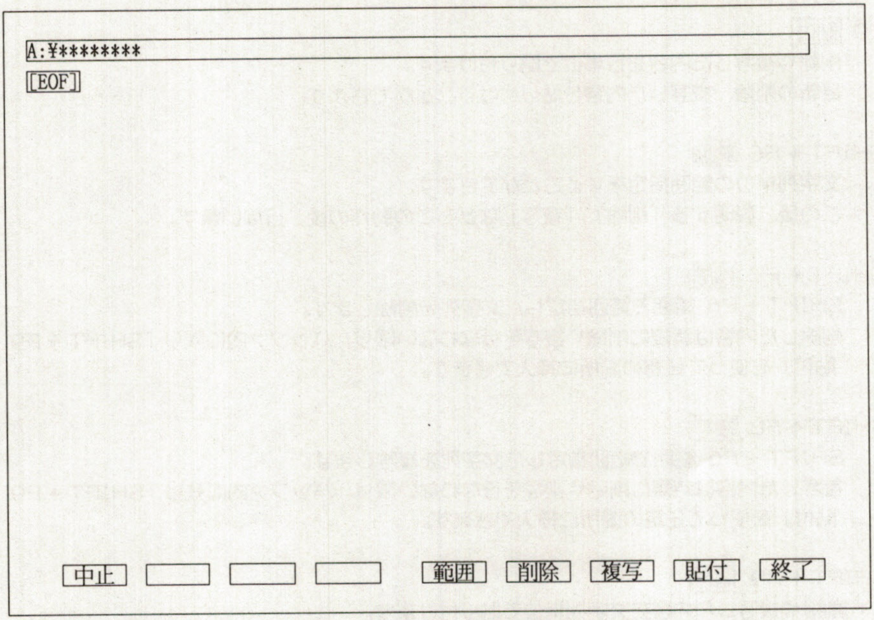
③前記のウインドが表示されましたら、編集したいテキストファイル名を入力して、⏎キーを押して下さい。
ファイル名を入力せず、⏎キーを押すと、**MET's Filedriver 4**のシステムファイルがある、サブディレクトリ￥MFDのファイル一覧が表示されます
また、ディレクトリにカーソルを合せて⏎キーを押すと、そのディレクトリ内のファイルとディレクトリを表示します。

ちがうドライブに存在するファイルを編集する場合は、そのドライブ番号を入力して下さい。

たとえば、Bドライブのルートディレクトリにある、ファイルを編集したい場合は、「B：¥」と入力すると、Bドラブのルートディレクトリのファイル一覧が表示されます。

また、**MET's Filedriver 4**に添付されている、「ME.EXE」は編集できるファイルサイズは約64KBまでで、バイナリファイルの編集はできません。
64KB以上のファイルを編集したい場合、バイナリファイルを編集したい場合は、本書の「**MET's Filedriver 4**の環境設定」をご覧になり、エディタを変更して下さい。

●エディタ画面の操作方法



上記の画面が標準添付の「ME.EXE」でのエディタ画面です。
上記の画面は、何もファイルを読み込んでいない時の状態です。
以下が使用できるキーの一覧です。

F1 [中止]
編集内容をセーブせずに中止するかどうかを決定できます。
「はい」を選択するとセーブせずに中止し、「いいえ」を選択すると作業を継続します。

F6 範囲

行単位の範囲指定をすることができます。
この後、説明する「削除」、「複写」などもこの動作の後、行ないます。

F7 削除

範囲指定した行を削除します。
削除した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「貼付」を使って挿入できます。

F8 複写

範囲指定した行を複写します。
複写した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「貼付」を使って挿入できます。

F9 貼付

削除や複写した内容を行単位で貼り付けます。
最新の削除、複写した内容を貼り付けることができます。

SHIFT＋F6 範囲

文字列単位の範囲指定をすることができます。
この後、説明する「削除」、「複写」などもこの動作の後、行ないます。

SHIFT＋F7 削除

SHIFT＋F6 範囲で範囲指定した文字列を削除します。
削除した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「SHIFT＋F9 貼付」を使って任意の箇所に挿入できます。

SHIFT＋F8 複写

SHIFT＋F6 範囲で範囲指定した文字列を複写します。
複写した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「SHIFT＋F9 貼付」を使って任意の箇所に挿入できます。

SHIFT＋F9 貼付

削除や複写した内容を文字列単位で貼り付けます。
最新の削除、複写した内容を貼り付けることができます。

F10 終了

編集した内容を書き込んで終了します。
変更していない場合はそのまま元に戻ります。

また、次のキーの組合わせがエディタ内で使用できます。

↑↓←→・・・・・・・・・・・・カーソル移動
ROLL　UP・・・・・・・・スクロールアップ
ROLL　DOWN・・・・・スクロールダウン
SHIFT＋→・・・・・・・・行末カーソル移動
SHIFT＋←・・・・・・・・行頭カーソル移動
SHIFT＋↑・・・・・・・・高速上カーソル移動
SHIFT＋↓・・・・・・・・高速下カーソル移動
CTRL＋C・・・・・・・・上に１画面スクロール
CTRL＋R・・・・・・・・下に１画面スクロール
CTRL＋D・・・・・・・・右に１文字スクロール
CTRL＋S・・・・・・・・左に１文字スクロール
CTRL＋E・・・・・・・・上に１文字スクロール
CTRL＋X・・・・・・・・下に１画面スクロール
CTRL＋G・・・・・・・・１文字削除
CTRL＋H・・・・・・・・バックスペース
CTRL＋I・・・・・・・・インサートタブ
CTRL＋Q・・・・・・・・文頭へジャンプ
CTRL＋Z・・・・・・・・文末へジャンプ

◆行削除のしかた

①適当なテキストファイルを、前項の「任意のファイル編集」で選択し、読み込んで下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、削除したい行にカーソルを合せ、ファンクションキーの[F6 範囲]を押して下さい。
画面の右上に「行範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「行範囲指定」になっていることを示しています。

③「行範囲指定」が表示されましたら、[↓]キーを押して下さい。
1行分が反転して表示されます。
これはその行が指定された事を示します。
また、この状態から、[↑]キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその行が指定から解除されたことを示します。

> 注意事項
>
> 「行範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から下方向にのみ、有効となります。

④削除したい行を選択しましたら、ファンクションキーの[F7 範囲]を押して下さい。
選択した行が削除され、「行範囲指定」が解除されます。
また、削除された内容は再び「行削除」か「複写」を行うまでと記憶されますので、[F9 貼付]で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

文字列単位の削除のしかた

①適当なテキストファイルを、前項の「任意のファイル編集」で選択し、読み込んで下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、削除したい文字列の先頭にカーソルを合せ、SHIFTキーを押しながら、ファンクションキーの F6 範囲 を押して下さい。
画面の右上に「範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「範囲指定」になっていることを示しています。

③「範囲指定」が表示されましたら、→ キーを押して下さい。
選択した文字列が反転して表示されます。
これはその文字列が指定された事を示します。
また、この状態から、← キーを押すと反転表示されていた文字列が通常の表示に戻ります。
これはその文字列が指定から解除されたことを示します。

注意事項

「範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から右方向にのみ、有効となります。

④削除したい文字列を選択しましたら、ファンクションキーの F7 範囲 を押して下さい。
選択した文字列が削除され、「範囲指定」が解除されます。
また、削除された内容は再び「文字列削除」か「文字列複写」を行うまでと記憶されますので、SHIFT キーを押しながら、ファンクションキーの F9 貼込 で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

◆行複写、貼り付けのしかた

①適当なテキストファイルを、前項の「任意のファイル編集」で選択し、読み込んで下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、複写したい行にカーソルを合せ、ファンクションキーの[F6 範囲]を押して下さい。
画面の右上に「行範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「行範囲指定」になっていることを示しています。

③「行範囲指定」が表示されましたら、[↓]キーを押して下さい。
1行分が反転して表示されます。
これはその行が指定された事を示します。
また、この状態から、[↑]キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその行が指定から解除されたことを示します。

> 注意事項
>
> 「行範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から下方向にのみ、有効となります。

④複写したい行を選択しましたら、ファンクションキーの[F8 複写]を押して下さい。
選択した行が複写され、「行範囲指定」は解除されますので、複写した内容を貼り付けたい位置に、カーソルを移動させ、ファンクションキーの[F8 複写]を押して下さい。
複写した内容が貼り付けられ、「行範囲指定」が解除されます。
また、複写された内容は再び「行削除」か「複写」を行うまでと記憶されますので、[F9 貼付]で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

◆文字列複写、貼り付けのしかた

①適当なテキストファイルを、前項の「任意のファイル編集」で選択し、読み込んで下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、複写したい文字列にカーソルを合せ、SHIFTキーを押しながら、ファンクションキーのF6 範囲を押して下さい。
画面の右上に「範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「範囲指定」になっていることを示しています。

③「範囲指定」が表示されましたら、→ キーを押して下さい。
選択した文字列が反転して表示されます。
これは文字列が指定された事を示します。
また、この状態から、← キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその文字列が指定から解除されたことを示します。

注意事項

「範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から右方向にのみ、有効となります。

④複写したい文字列を選択しましたら、SHIFTキーを押しながらファンクションキーのF8 複写を押して下さい。
選択した文字列が複写され、「行範囲指定」は解除されますので、複写した内容を貼り付けたい位置に、カーソルを移動させ、SHIFTキーを押しながらファンクションキーのF8 複写を押して下さい。
複写した内容が貼り付けられ、「範囲指定」が解除されます。
また、複写された内容は再び「文字列削除」か「文字列複写」を行うまでと記憶されますので、SHIFTキーを押しながら、ファンクションキーのF9 貼込で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

7.1.6 メモリスイッチの設定

MET's Filedriver 4 では、コンピュータ本体のメモリスイッチの変更を行なうことができます。

基本的には、MS－DOSでサポートされている、「SWITCHコマンド」と同様な作業を行ないます。

以下の手順で実行して下さい

MET's Filedriver 4 の、「メイン画面」が表示されている状態から、ファンクションキーのF8「メモリSW」を押すか、押して下さい。

以下の様なウインドが表示されます。

メモリスイッチ設定							
メモリサイズ	128	256	384	512	640	768	
プリンタ	16ドット系	24ドット系					
画面表示属性	白	緑					
BOOT 装置	標準	640KB	1M	HDD1	HDD2	SCSI	光ディスク
数値演算プロセッサ	なし	10Mhz	8Mhz/16MHz				
数値演算プロセッサ2	なし	あり					
W ：登録	ESC ：中止	TAB ：次画面					

注意事項

このウインドは、スペースキーを押して表示される、メインメニューの「8:メモリスイッチの設定」を選択しても表示されます。
また、以下のメッセージが表示された場合、お手数ですが、コンピュータ本体のディップスイッチ、SW2－5を「ON」の状態に設定して下さい。
設定方法は、コンピュータ本体の取り扱い説明書をごらん下さい。

注意！！
ディップスイッチ2－5（PC－9801Nの場合は1－5）がOFFになっています。 メモリスイッチを変更しても、リセットまたは電源OFFで初期化されてしまいますのでディップスイッチをONに切り換えて下さい。

このメモリスイッチのウインドの項目の意味は以下の通りです。

●メモリサイズ
ここでコンピュータ本体が起動してくるとき認識できるメモリサイズを設定できます。
PC－9801VX2以降の機種でしたら、特殊な場合を除いて640で結構です。

●プリンタ
セントロニクスインターフィスCEN16かCEN24かの設定です。
分かりやすく説明すると、MS－DOSの機能でハードコピーを取る機能がありますが、その時印刷対象のプリンタが、16ドットか24ドットのどちらか、ということです。
PC－8821などの、16ドットプリンタをご使用のかたは「16ドット系」を、PC－PR201などの、24ドット以上のプリンタをご使用のかたは「24ドット系」を選択して下さい。

●画面表示属性
MET's Filedriver 4の画面ではなく、MS－DOSのA＞の状態での画面表示色を設定します。
色は「白」と「緑」の２色です。おすきな方を選択して下さい。

●BOOT装置
MS－DOSを立ち上げる装置の指定です。

◆「標準」の場合は、コンピュータが、フロッピーディスクドライブを見に行って、フロッピーディスクドライブに、ディスクが何も挿入されていないと、今度はハードディスクを見に行きます。
この時、ハードディスクが接続されていると、優先順位が一番上の、SASI型ハードディスクからMS－DOSを起動し、SASI型ハードディスクが接続されていないと、SCSI型ハードディスクを見に行きます。

◆「640KBFD」の場合は、MS－DOSのシステムが存在する640KBか、720KBフォーマットのフロッピーディスクを優先して起動します。
この時、MS－DOSのシステムが存在する、1.2MBフォーマットのディスクがフロッピードライブに挿入されていた場合は、1～2回のアクセスの後しばらくしてから、MS－DOSをそのディスクから起動します。
また、この設定の時、ハードディスクからMS－DOSを起動することはできません。

◆「1MBFD」の場合は、MS－DOSのシステムが存在する、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを優先して起動します。
この時、MS－DOSのシステムが存在する、640KBまたは、720KBフォーマットのフロッピーディスクが、フロッピードライブに挿入されていた場合は、1～2回のアクセスの後、しばらくしてから、MS－DOSをそのディスクから起動します。
また、この設定の時ハードディスクからMS－DOSを起動することはできません。

◆「HDD1」の場合は、物理的に存在する、SASI型ハードディスクユニットの、最初のハードディスクユニットから、優先的にMS－DOSを起動します。
PC－9801シリーズは、SASIのハードディスクを物理的に2台まで認識できますが、その内の若い番号のSASIになります。
SASIのハードディスクを拡張フォーマットして、領域を複数に分割していても、それはコンピュータには1台のSASIと認識されていますので、ご注意下さい。

◆「HDD2」の場合は、物理的に存在するSASI型ハードディスクユニットの、2台目のハードディスクユニットから優先的にMS－DOSを起動します。
PC－9801シリーズは、SASIのハードディスクを物理的に2台まで認識できますが、その内の古い番号のSASIになります。
SASIのハードディスクを拡張フォーマットして、領域を複数に分割していても、それはコンピュータには1台のSASIと認識されていますので、ご注意下さい。

◆「SCSI」の場合は、コンピュータ本体に接続されている、SCSI型ユニットのハードディスクユニットから優先的にMS－DOSを起動します。

●数値演算プロセッサ
この項目で指定ではV30系の指定を行ないます。
ここにある周波数以外は、サポートしていませんので、これ以外のかたはMS－DOSの「SWITCHコマンド」で設定してください。

●数値演算プロセッサ2
この項目では80X86系の数値演算プロセッサの指定を行ないます。

以上が、このウインドでの設定内容です。
「TABキー」を押すと、次のウインドを表示します。

メモリスイッチ設定

ボーレート	75	150	300	600	1200	2400	4800	9600
キャラクタ長	7ビット			8ビット				
パリティチェック	なし			奇数		偶数		
ストップビット長	1ビット		1.5ビット			2ビット		
通信方式	全二重			半二重				
Xパラメータ	無効			有効				

W：登録　　ESC：中止　　TAB：次画面

●ボーレート

通信速度を設定します。単位は「bps」または「ボー」という場合があります。
基本的には「1200」か「2400」で大丈夫ですが、通信を行なう相手先により変化する場合があります。

●キャラクタ長

1つの文字の大きさを表したもので「データ長」という場合があります。

●パリティチェック

通信しているデータが正しいかどうかを調べるオプションです。

●ストップビット長

通信データの最後にくる「ストップビット」の長さの指定です。

●通信方式

「全二重」と「半二重」があります。
一般的には「全二重」ですが、一部特殊な場合に「半二重」が使われている場合が、あります。

●Xパラメータ

コンピュータ同士で、RS232Cを使って通信を行なう時に使うパラメータで、「有効」の場合は、送り先のコンピュータのバッファが一杯になったときに、送り元の通信をいったん停止させます。
もし「無効」の状態で送り先のバッファが一杯になった場合は、送り元はそのまま送り続け、データはオーバーフローします。

注意事項

RS232Cのパラメータは、通信ソフト内でもサポートしている場合がありますので、そちらで設定されてもかまいません。むしろその方がいい場合があります。

全てを、設定しましたら 「W」キーを押すと変更した状態で登録し、「ESC] キーを押すと設定を中止し、「TAB」キーを押すと、もう片方のウインドを表示します。
また、「W」キーを押して登録しても、コンピュータ本体のディップスイッチのSW2－5が「OFF」になっていますと、登録は無効になります。
この場合は、ディップスイッチのSW2－5を「ON」にして下さい。
ディップスイッチの設定の仕方は、お手数ですが、コンピュータ本体の取扱説明書をごらん下さい。
また、この設定は、設定後コンピュータ本体の「リセットボタン」を押して、MS－DOSを再起動しないと、有効にはなりません。

7.1.7 Shell(COMMAND.COM)起動

MET's Filedriver 4では、MS－DOSの「A＞」を「メインメニュー」から呼び出すことができます。 以下の手順で行なってください。

①**MET's Filedriver 4**の、「メイン画面」から、ファンクションキーのF9「SHELL」を押して下さい。
画面が切り換わり、MS－DOSのプロンプトが表示されます。
以下は、MS－DOS Ver3.3Dで、Aドライブに**MET's Filedriver 4**がインストールされている状況での、「SHELL」の実行画面です。

```
F・10で戻ります
Command ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 3.3D
A>









 C1   CU   CA   S1   SU    VOID  NWL  INS  REP  復帰
```

> **注意事項**
>
> この画面は、スペースキーを押して、メインメニューの「9：SHELL（COMMAND.COM）起動」を選択しても表示されます。

②上記の画面が、「Shell(Command.com)」を起動した画面になります。
この状態でのカレンドディレクトリは、「A：￥MFD」になっています。
MET's Filedriver 4に復帰させる場合は、ファンクションキーのF10「復帰」を押して下さい。
MET's Filedriver 4に戻ります。

7.1.8 MFD Ⅳ実行環境の設定

環境設定の仕方については、「**MET's Filedriver 4**の環境設定」で詳しくご説明しましたので、各項目については、ここではふれませんが、この内容が書かれているファイルのご説明をいたします。

この環境設定の内容が記述されるファイルは、サブディレクトリ¥MFDの中にある「MFD.CNF」というファイルです。

このファイルは、**MET's Filedriver 4**がインストールされた時点で作成されます。

したがいまして、お客様が作成する必要はありません。

第８章　ファイル管理

MET's Filedriver 4 はファイルのコピーや削除、リネームなどを行なうファイル管理機能、「FDRV.EXE」を標準で添付しています。

この機能を使うことにより、ハードディスク内のファイルの操作がさらに効率よく行なうことが可能です。

また、「MFD IVの実行環境の設定」で、起動ファイル管理を設定することにより、お客様が使い慣れているファイル管理ソフトを、**MET's Filedriver 4** の機能の一部として使うことが可能になります。

設定の方法は「**MET's Filedriver 4** の環境設定」をご一読下さい。

以下に **MET's Filedriver 4** の標準添付の「FDRV.EXE」について説明して行きます。

8.1 ファイル管理の呼び出し

ファイル管理の画面は大きく分けて、以下の２つに分けることができます。

●ツリー表示画面

ハードディスクのディレクトリ構造が表示することができます。

何処に、どのようなディレクトリが存在するか、一目瞭然で知ることができます。

以下の手順で呼び出して下さい。

① **MET's Filedriver 4**の、「メイン画面」から、ファンクションキーのF6「FILE」を押して下さい。

次の様に画面が切り換わります。

```
A:¥
-----------------------------------------------------------------
¥                                        | ________
├─DOS                                    | ________
├─MFD                                    | ________
│  ├─HCA                                 |--------------------
│  │  ├─OS                               | IO.SYS
│  │  ├─ワープロ                         | MSDOS.SYS
│  │  │  ├─日本語                        | COMMAND.COM
│  │  │  ├─英語                          | CONFIG.SYS
│  │  │  └─毛筆                          | README.DOC
│  │  ├─業務                             | README2.DOC
│  │  ├─通信                             | SETUP.DEF
│  │  ├─統合型                           | NECAI.SYS
-----------------------------------------------------------------
F:ファイル操作        X:ドライブ変更          C:ディレクトリコピー
M:ディレクトリ作成    D:ディレクトリ削除      R:ディレクトリ名変更
A:ディレクトリ属性変更 S:Command.com起動      I:ディスク情報
```

注意事項

前記の画面は、スペースキーを押して表示されるメインメニューの「+：ファイル管理の呼び出し」を選択しても、表示できます。

④この画面が、FDRV.EXEで表示される、ハードディスク内ディレクトリ構造のツリー表示画面です。
ツリー表示の状態はお客様のハードディスクの状態によって変ります。

●ファイル操作画面

前記の、ツリー表示画面から、「F：ファイル操作」を実行することにより、カーソルが合っているディレクトリのファイルを、一覧で表示することができます。
以下の手順で呼び出して下さい。

①「ツリー表示画面」から以下のキー操作の内、どれかを行なって下さい。
この時、カーソルは一番上の「￥」に合っていると仮定します。
「ツリー表示画面」の出し方は前項をご参照下さい
この場合、操作方法は、以下の３通りあります。

●ファンクションキーの「F1」を押す
●アルファベットの「F」を押す
●コマンド表示されている「F：ファイル操作」にカーソルを合せて⏎キーを押す

②上記、３通りの操作方法で、操作すると、以下のような画面が表示されます。
ファイルの一覧状態はお客様のハードディスクの状態によって異なり、以下は一例です。

A:¥

ファイル名	サイズ	作成日	作成時刻	属性
IO .SYS	65536	91-11-18	00:00:04	R H S A
MSDOS .SYS	39614	91-11-18	00:00:04	R H S A
COMMAND .COM	48416	91-11-18	00:00:04	A
CONFIG .SYS	23	91-11-15	01:00:00	A
README .DOC	3152	91-11-18	00:00:04	A
README2 .DOC	6432	91-11-18	00:00:04	A
SETUP .DEF	6207	91-11-18	00:00:04	A
NECAI .SYS	664576	91-11-18	00:00:04	A
AUTOEXEC.BAT	21	91-11-15	01:00:00	A
AUTOEXEC.BAK	21	91-11-15	01:00:00	A
AUTOEXEC.BAC	21	91-11-15	01:00:00	A

ファイル内容合計
, バイト

ファイル個数
11個

Markファイル数
0 個

検索グループ名
.

E:ファイル内容編集　C:ファイルコピー　D:ファイル削除
R:ファイル名変更　A:ファイル属性変更　W:グループ別表示

以上２つの画面から、「FDRV.EXE」は構成されています。
次の項では、「FDRV.EXE」の「ツリー表示画面」と、「ファイル操作画面」で、使うことのできる、コマンドの説明を行ないます。

8.2 ツリー表示時のコマンド

以下のコマンドはツリー表示時のコマンドです。

8.2.1 F：ファイル操作

使用キー　　F、F1 FILE、F：ファイル操作

機能　　ファイル操作画面に入るコマンドです。
カーソルバーが合っている、ディレクトリのファイルを一覧表示します。

操作方法

①ツリー表示画面で、ファイル内容を一覧させたいディレクトリに、カーソルが合っている状態で、アルファベットのFか、ファンクションキーのF1、FILEを押して下さい。

または、←キーか、→キーで、F：ファイル操作にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。

②そのディレクトリのファイルが以下のように表示されます。
一覧表示されたファイルの内容はお客様のハードディスクに異なります。

A:¥

ファイル名	サイズ	作成日	作成時刻	属性
IO .SYS	65536	91-11-18	00:00:04	R H S A
MSDOS .SYS	39614	91-11-18	00:00:04	R H S A
COMMAND .COM	48416	91-11-18	00:00:04	A
CONFIG .SYS	23	91-11-15	01:00:00	A
README .DOC	3152	91-11-18	00:00:04	A
README2 .DOC	6432	91-11-18	00:00:04	A
SETUP .DEF	6207	91-11-18	00:00:04	A
NECAI .SYS	664576	91-11-18	00:00:04	A
AUTOEXEC.BAT	21	91-11-15	01:00:00	A
AUTOEXEC.BAK	21	91-11-15	01:00:00	A
AUTOEXEC.BAC	21	91-11-15	01:00:00	A

ファイル内容合計
, バイト

ファイル個数
11個

Markファイル数
0 個

検索グループ名
.

E:ファイル内容編集　　C:ファイルコピー　　D:ファイル削除
R:ファイル名変更　　A:ファイル属性変更　　W:グループ別表示

8.2.2 X：ドライブ変更

使用キー　　　　X、F2 DRIVE、X：ドライブ変更

機能　　　　　　ツリー表示を行なうドライブを、変更するコマンドです。
コンピュータ本体に接続されているディスクドライブ装置（RAMディスクを含む）を認識します。
ただし、仮想ドライブは対象外です。

操作方法

①ツリー画面が表示されている状態で、アルファベットのXか、ファンクションキーのF2、DRIVEを押して下さい。
または、← キーか → キーで、X：ドライブ変更にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のようなウインドが、画面中央に表示されます。

ドライブ変更
ドライブを変更して下さい A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z RET ： 決定　　ESC ： 中止

②前記のウインドが表示されましたら、変更したいドライブ番号を、キーボードから入力して⏎キーを押すか、カーソルを、そのドライブに合せて、⏎キーを押して下さい。
そのドライブのツリー構造を表示します。
この時、有効なドライブは、カラーモニターでは白地で表示され、無効なドライブは紫色で表示されます。
なお、前記の画面で「ESCキー」を押すと、ドライブ変更を中止します。

8.2.3 C：ディレクトリコピー

使用キー　　C、F3 複写、C：ディレクトリコピー

機能　　すでに、作成されているディレクトリに対して、ディレクトリからコピーを行ないます。
ただし、コピー先ディレクトリは、あらかじめ存在していなければなりません。

操作方法

①内容をコピーしたいディレクトリに、カーソルバーを合せて、アルファベットのCか、ファンクションキーのF3、複写を押して下さい。
または、←キーか、→キーで、C：ディレクトリコピーにカーソルを合せて、⏎キーを押して　下さい。
以下のようなウインドが表示されます。

ディレクトリコピー
コピー先のディレクトリを指定して下さい

ドライブ変更
ドライブを変更して下さい A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z RET : 決定　　ESC : 中止

②コピー先のディレクトリが存在するドライブを、カーソル、またはキーボードから指定した後、⏎キーを押して下さい。
この時、有効なドライブは、カラーモニターでは白地で表示され、無効なドライブは紫色で表示されます。
また、コピー先ディレクトリが同一ドライブに存在する場合も、そのドライブを指定して下さい。

③転送先のドライブのツリー表示が表示されますので、コピー先のディレクトリにカーソルを合せ、⏎キーを押して下さい。
そのディレクトリに、コピー元のディレクトリ内のファイルをコピーします。

ただし、同一ドライブの同じディレクトリにはコピーできません。

④ディレクトリコピーが終了しましたら、何か適当なキーを押して下さい。
ツリー表示画面に戻ります。

8.2.4 M：ディレクトリ作成

使用キー　　　M、F3 作成、M：ディレクトリ作成

機能　　　　　カーソルバーが合っている、ディレクトリにサブディレクトリを作成します。
ただし、パス名が64文字を越えるようなディレクトリは作成できません。

操作方法

①サブディレクトリを作成したいディレクトリに、カーソルバーを合せ、アルファベットのMか、ファンクションキーのF4、作成を押して下さい。
また、M：ディレクトリ作成に、←キーか、→キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ここでは例としてルートディレクトリにカーソルバーを合せます。

②以下のようなウインドが表示されますので、作成したいディレクトリ名を入力して下さい。
入力できる文字は半角でディレクトリ名として８文字、拡張子として３文字、全角でディレクトリ名として４文字、拡張子は１文字です。
ここでは例として、半角で、「TEST」と入力して、⏎キーを押します。

```
ディレクトリ作成
─────────────────
作成するディレクトリ名を
入力して下さい
[TEST        ]
```

③画面が、再度ツリー表示を行ないますので、「TEST」というディレクトが、作成されているかどうか、確認して下さい。
以下は作成された例です。

```
A:¥

¥                                      | ーーーーーーーー
├──TEST                                | ーーーーーーーー
├──MFD                                 | ーーーーーーーー
│   ├──HCA                             |
│   │   ├──OS                          | IO.SYS
│   │   ├──ワープロ                    | MSDOS.SYS
│   │   │   ├──日本語                  | COMMAND.COM
│   │   │   ├──英語                    | CONFIG.SYS
│   │   │   └──毛筆                    | README.DOC
│   │   ├──業務                        | README2.DOC
│   │   ├──通信                        | SETUP.DEF
│   │   ├──統合型                      | NECAI.SYS

F:ファイル操作          X:ドライブ変更          C:ディレクトリコピー
M:ディレクトリ作成      D:ディレクトリ削除      R:ディレクトリ名変更
A:ディレクトリ属性変更  S:Command.com起動       I:ディスク情報
```

作成されていれば作業は終了です。

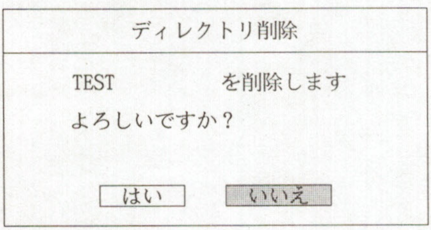
8.2.5 D：ディレクトリ削除

使用キー　　　D、F5 削除、D：ディレクトリ削除

機能　　　　　目的のディレクトリを削除します。
ルートディレクトリと、階層下にサブディレクトリが存在するディレクトリは、削除できません。

操作方法

①削除したいディレクトリに、カーソルバーを合せて、アルファベットのDか、ファンクションキーのF5、削除を押して下さい。
または、カーソルを、←キーか、→キーでD：ディレクトリ削除に合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。
ここでは例として、「M：ディレクトリ作成」で作成した、「TEST」というディレクトリにカーソルを合せます。



②削除したければ「はい」に、削除したくなければ「いいえ」に、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
再度ツリー表示されますので、削除されたかどうか確認して下さい。

8.2.6 R：ディレクトリ名変更

使用キー　　R、F6 名前、R：ディレクトリ名変更

機能　　目的のディレクトリ名を変更します。
ルートディレクトリの名前は変更できません。

操作方法

①名前を変更したいディレクトリに、カーソルを合せて、アルファベットのRか、ファンクションキーのF6、名前を押して下さい。
または、カーソルを、←キーか、→キーでR：ディレクトリ名変更に合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。
ここでは例として、「M：ディレクトリ作成」で作成した、「TEST」というディレクトリにカーソルを合せます。

ディレクトリ名変更
作成するディレクトリ名を 入力して下さい [TEST　　　　　]

②上記のウインドの状態で、変更前のディレクトリ名を「BS」キー、または「ESC」キーで消した後、変更したい名前を入力して下さい。
「BS」キーですと、１文字づつ消しますが、「ESC」キーだと、変更対象になっているディレクトリ名を一度に消すことができます。

入力できる文字は半角で１２文字、全角で６文字です。
また、カーソルキーで、変更対象になっている、ディレクトリ名の先頭にカーソルを移動し、そこから上書きすることもできます。
ここでは例として「TEST」を「TEST1」に変更します。

③ディレクトリ名を変更した後、⏎キーを押して下さい。
ツリー表示の中の、対象ディレクトリが変更した名前に変ります。

8.2.7 A：ディレクトリ属性変更

キー　　　　　　A、F7 属性、A：ディレクトリ属性

機能　　　　　　ディレクトリの属性を変更することができます。

操作方法

①属性を変更したいディレクトリに、カーソルバーを合せて、アルファベットのAか、ファンクションキーのF7、属性を押して下さい。
または、カーソルを、←キーか、→キーでA：ディレクトリ属性変更に合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。
ここでは例として、「M：ディレクトリ作成」で作成した、「METS」というディレクトリにカーソルを合せます。

属性変更		
TEST	の属性を	
変更します		
(R)書込禁止	OFF	ON
(H)不可視	OFF	ON
(S)ｼｽﾃﾑﾌｧｲﾙ	OFF	ON
(A)保存ﾌﾗｸﾞ	OFF	ON
W：書き込み　ESC：中止		

②上記のウインドが、ディレクトリ属性変更画面です。
← キーと → キーで、ON／OFFが設定でき、↑ キーと ↓ キー、で各項目間の移動が行なえます。

◆（R）書込禁止
ONにするとディレクトリに対する書き込みを禁止し、OFFにすると書き込み禁止を解除します。

◆（H）不可視
MS－DOSのコマンドラインから、DIRコマンド等でディレクトリを見えない状態にします。

◆（S）システムファイル

基本的には、MS－DOS本体のファイルである、MS－DOS.SYSとIO.SYSに設定されている属性です。

ディレクトリに設定してもあまり意味はありませんが、設定すると（H）不可視と同様にDIRコマンド等で見ることはできません。

◆（A）保存フラグ

ファイルの作成・更新が行なわれる度に設定されます。

③設定が終了しましたら、「W」キーを押して下さい。

設定した内容で、属性を設定します。

設定しても、「ESC」キーを押した場合は、設定内容は無効になります。

8.2.8 S：COMMAND.COM起動

キー　　　　　　　　S、F8 DOS、S：Command.com 起動

機能　　　　　　　　カーソルバーがあるディレクトリをカレントディレクトリとして、MS－DOSのコマンドラインに入ります。

操作方法

①ディレクトリにカーソルバーを合せて、アルファベットのSか、ファンクションキーのF8、DOSを押して下さい。
または、カーソルを、←キーか、→キーで「S：Command.com 起動」に合せて⏎キーを押して下さい。
以下のような画面が表示されます。
ここでは例として、「 M：ディレクトリ作成」で作成した、「TEST」というディレクトリにカーソルを合せます。

```
F・10で戻ります
Command ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ 3.3D
A>




C1  CU  CA  S1  SU    VOID  NWL  INS  REP  復帰
```

②画面が、MS－DOSのコマンドラインの状態になります。
この状態から戻るには、ファンクションキーのF10、[復帰]か、A＞の状態から、[EXIT]と入力して下さい。
FDRV.EXEの画面に戻ります。

8.2.9 I：ディスク情報

キー　[I]、[F9 情報]、[I：ディスク情報]

機能　ツリー構造が表示されている、ディスクドライブの情報を表示します。

[操作方法]

①アルファベットのIか、ファンクションキーのF9、[情報]を押して下さい。
または、[←]キーか、[→]キーで、カーソルを「I：ディスク情報」に合せて、[⏎]キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。
なお、ディスク情報画面の内容はお客様のハードディスクにより異なる場合があります。

ディスク情報	
ドライブ	**
ボリュームラベル	*****
総ディレクトリ数	*****
全ディスク容量	****,***,*** バイト
使用可能ディスク容量	****,***,*** バイト
クラスタ数／ドライブ	**,***
セクタ数 ／クラスタ	*
バイト数 ／セクタ	*,***

②上記が、ディスク情報の画面です。
ツリー表示に戻すときは、「ESC」キーを押して下さい。

8.3 ファイル操作時のコマンド

以下のコマンドはファイル操作時のコマンドです。

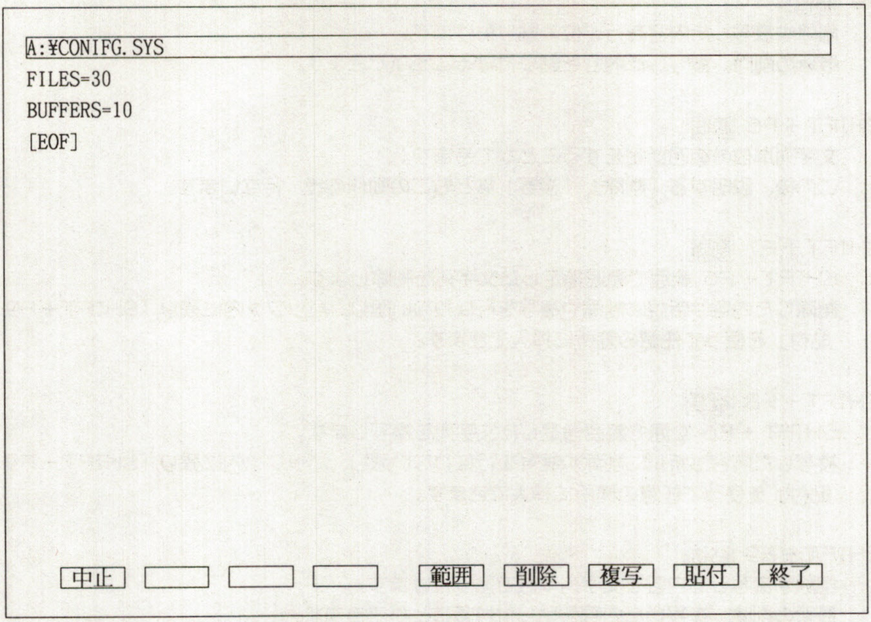
8.3.1 E：ファイル操作

キー　　E、F2 編集、E：ファイル内容編集

機能　　テキストファイルの内容を編集することができます。
ただし、扱えるファイルサイズは約64KBまでです。
それ以上のファイルは編集する　ことができません。
また、バイナリファイルの編集はできません。

操作方法

①編集したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットのEか、ファンクションキーのF2、編集を押して下さい。
または、←キーか、→キーで、E：ファイル内容編集にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ここでは、**MET's Filedriver 4**がインストールされた直後の、ルートディレクトリの「CON FIG.SYS」を例に上げます。
以下のような画面が表示されます。
なお、「CONFIG.SYS」の内容はお客様の状態によって異なる場合があります。



②上記の画面がファイル編集画面になります。
以下は各ファンクションキーに割り当てた機能の説明です。

F1 中止

編集内容をセーブせずに中止するかどうかを決定できます。
「はい」を選択するとセーブせずに中止し、「いいえ」を選択すると作業を継続します。

F6 範囲

行単位の範囲指定をすることができます。
この後、説明する「削除」、「複写」などもこの動作の後、行ないます。

F7 削除

範囲指定した行を削除します。
削除した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「貼付」を使って挿入できます。

F8 複写

範囲指定した行を複写します。
複写した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「貼付」を使って挿入できます。

F9 貼付

削除や複写した内容を行単位で貼り付けます。
最新の削除、複写した内容を貼り付けることができます。

SHIFT＋F6 範囲

文字列単位の範囲指定をすることができます。
この後、説明する「削除」、「複写」などもこの動作の後、行ないます。

SHIFT＋F7 削除

SHIFT＋F6 範囲で範囲指定した文字列を削除します。
削除した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「SHIFT＋F9 貼付」を使って任意の箇所に挿入できます。

SHIFT＋F8 複写

SHIFT＋F6 範囲で範囲指定した文字列を複写します。
複写した内容は新規に削除や複写を行なわない限り、バッファ内に残り「SHIFT＋F9 貼付」を使って任意の箇所に挿入できます。

SHIFT＋F9 貼付

削除や複写した内容を文字列単位で貼り付けます。
最新の削除、複写した内容を貼り付けることができます。

F10 終了

編集した内容を書き込んで終了します。
変更していない場合はそのまま元に戻ります。

また、次のキーの組合わせがエディタ内で使用できます。

↑↓←→・・・・・・・・・・・カーソル移動
ROLL UP・・・・・・・・スクロールアップ
ROLL DOWN・・・・・スクロールダウン
SHIFT＋→・・・・・・・・行末カーソル移動
SHIFT＋←・・・・・・・・行頭カーソル移動
SHIFT＋↑・・・・・・・・高速上カーソル移動
SHIFT＋↓・・・・・・・・高速下カーソル移動
CTRL＋C・・・・・・・・・上に１画面スクロール
CTRL＋R・・・・・・・・・下に１画面スクロール
CTRL＋D・・・・・・・・・右に１文字スクロール
CTRL＋S・・・・・・・・・左に１文字スクロール
CTRL＋E・・・・・・・・・上に１文字スクロール
CTRL＋X・・・・・・・・・下に１画面スクロール
CTRL＋G・・・・・・・・・１文字削除

ＣＴＲＬ＋Ｈ・・・・・・・・・バックスペース
ＣＴＲＬ＋Ｉ・・・・・・・・・インサートタブ
ＣＴＲＬ＋Ｑ・・・・・・・・・文頭へジャンプ
ＣＴＲＬ＋Ｚ・・・・・・・・・文末へジャンプ

◆行削除のしかた

①編集したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットの[E]か、ファンクションキーのF2、[編集]を押して下さい。
または、[←]キーか、[→]キーで、[E：ファイル内容編集]にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、削除したい行にカーソルを合せ、ファンクションキーの[F6 範囲]を押して下さい。
画面の右上に「行範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「行範囲指定」になっていることを示しています。

③「行範囲指定」が表示されましたら、[↓] キーを押して下さい。
1行分が反転して表示されます。
これはその行が指定された事を示します。
また、この状態から、[↑] キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその行が指定から解除されたことを示します。

> 注意事項
>
> 「行範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から下方向にのみ、有効となります。

④削除したい行を選択しましたら、ファンクションキーの[F7 範囲]を押して下さい。
選択した行が削除され、「行範囲指定」が解除されます。
また、削除された内容は再び「行削除」か「複写」を行うまでと記憶されますので、[F9 貼付]で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

文字列単位の削除のしかた

①編集したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットの[E]か、ファンクションキーのF2、[編集]を押して下さい。
または、[←]キーか、[→]キーで、[E：ファイル内容編集]にカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下　さい。

②エディタ画面が表示されましたら、削除したい文字列の先頭にカーソルを合せ、[SHIFT]キーを押しながら、ファンクションキーのF6 範囲を押して下さい。
画面の右上に「範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「範囲指定」になっていることを示しています。

③「範囲指定」が表示されましたら、[→] キーを押して下さい。
選択した文字列が反転して表示されます。
これはその文字列が指定された事を示します。
また、この状態から、[←] キーを押すと反転表示されていた文字列が通常の表示に戻ります。
これはその文字列が指定から解除されたことを示します。

> **注意事項**
>
> 「範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から右方向にのみ、有効となります。

④削除したい文字列を選択しましたら、ファンクションキーの[F7 範囲]を押して下さい。
選択した文字列が削除され、「範囲指定」が解除されます。
また、削除された内容は再び「文字列削除」か「文字列複写」を行うまでと記憶されますので、[SHIFT]キーを押しながら、ファンクションキーの[F9 貼込]で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

◆行複写、貼り付けのしかた

①編集したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットの[E]か、ファンクションキーのF2、[編集]を押して下さい。
または、[←]キーか、[→]キーで、[E：ファイル内容編集]にカーソルを合せて、[⏎]キーを押して下さい。

②エディタ画面が表示されましたら、複写したい行にカーソルを合せ、ファンクションキーの[F6 範囲]を押して下さい。
画面の右上に「行範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「行範囲指定」になっていることを示しています。

③「行範囲指定」が表示されましたら、[↓]キーを押して下さい。
1行分が反転して表示されます。
これはその行が指定された事を示します。
また、この状態から、[↑]キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその行が指定から解除されたことを示します。

> 注意事項
>
> 「行範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から下方向にのみ、有効となります。

④複写したい行を選択しましたら、ファンクションキーの[F8 複写]を押して下さい。
選択した行が複写され、「行範囲指定」は解除されますので、複写した内容を貼り付けたい位置に、カーソルを移動させ、ファンクションキーの[F8 複写]を押して下さい。
複写した内容が貼り付けられ、「行範囲指定」が解除されます。
また、複写された内容は再び「行削除」か「複写」を行うまでと記憶されますので、[F9 貼付]で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

◆文字列複写、貼り付けのしかた

①編集したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットのEか、ファンクションキーのF2、編集を押して下さい。
または、←キーか、→キーで、E：ファイル内容編集にカーソルを合せて、⏎キーを押して下　さい。

②エディタ画面が表示されましたら、複写したい文字列にカーソルを合せ、SHIFTｷｰを押しながら、ファンクションキーのF6 範囲を押して下さい。
画面の右上に「範囲指定」と表示されます。
これは現在の作業モードが「範囲指定」になっていることを示しています。

③「範囲指定」が表示されましたら、→ キーを押して下さい。
選択した文字列が反転して表示されます。
これは文字列が指定された事を示します。
また、この状態から、← キーを押すと反転表示されていた行が通常の表示に戻ります。
これはその文字列が指定から解除されたことを示します。

注意事項

「範囲指定」を行った場合、その指定はカーソル位置から右方向にのみ、有効となります。

④複写したい文字列を選択しましたら、SHIFTキーを押しながらファンクションキーのF8 複写を押して下さい。
選択した文字列が複写され、「行範囲指定」は解除されますので、複写した内容を貼り付けたい位置に、カーソルを移動させ、SHIFTキーを押しながらファンクションキーのF8 複写を　押して下さい。
複写した内容が貼り付けられ、「範囲指定」が解除されます。
また、複写された内容は再び「文字列削除」か「文字列複写」を行うまでと記憶されますので、SHIFTキーを押しながら、ファンクションキーのF9 貼込で指定した箇所に貼り込むことができます。
ただし、終了した時点でその内容はクリアされます。

8.3.2 C：ファイルコピー

キー　　　　C、F3 複写、C：ファイルコピー

機能　　　ファイル単位で、目的先のドライブやディレクトリにコピーします。

操作方法

①コピーしたいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットのCか、ファンクションキーのF3、複写を押して下さい。
または、←キーか、→キーで、C：ファイルコピーにカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
ここでは、ルートディレクトリの「CONFIG.SYS」を例に上げます。
以下のようなウインドが表示されます。

ファイルコピー
CONFIG.SYS　をコピーします コピー先のドライブを指定して下さい

ドライブ変更
ドライブを変更して下さい A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z RET：決定　　ESC：中止

②ここで、コピー先のディレクトリが存在する、ドライブ番号を、キーボードのアルファベットか、←キーか、→キーで選択して下さい。
そのドライブのツリー構造が表示されます。

③コピー先ドライブのツリー構造が表示されましたら、カーソルバーをそこに合せて、⏎キーを押して下さい。
選択した「CONFIG.SYS」をコピーします。

④コピー終了後、何かをキーを押して下さい。
元の画面に戻ります。

●複数のファイルをコピーする場合

ファイル操作画面の「ファイルコピー」は、複数のファイルをコピーすることが可能です。
以下の手順で行なって下さい。
例として「CONFIG.SYS」と「AUTOEXEC.BAT」を例に上げます。

①まず、「CONFIG.SYS」にカーソルバーを合せて、「スペース」キーを押して下さい。ファイル名が白く反転して表示されます。

②次に、「AUTOEXEC.BAT」にカーソルバーを合せて、「スペース」キーを押して下さい。ファイル名が白く反転して表示されます。

③このように、「スペースキー」で白く反転させたファイルを、「マークファイル」と呼びます。
このマークを解除したい場合は、マークされたファイルに、カーソルバーを合せ、再度「スペース」キーを押すと解除されます。

④この後、アルファベットの[C]か、ファンクションキーのF3、[複写]を押して下さい。
または、[←]キーか、[→]キーで、[C：ファイルコピー]にカーソルを合せて、[↵]キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。

ファイルコピー
Markファイルをコピーします コピー先のドライブを指定して下さい

ドライブ変更
ドライブを変更して下さい A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z RET ： 決定　　ESC ： 中止

⑤あとは通常のファイルコピーと同じ操作を行なって下さい。

8.3.3 D：ファイル削除

キー　[D]、[F4 削除]、[D：ファイル削除]

機能　　　　　指定したファイルを削除します

> [注意事項]
>
> ファイルを削除する場合は、そのファイルが削除しても、いいファイルかどうかを確認の上、削除して下さい。
> 一度削除してしまうと、FDRV.EXEでは復活できませんので、ご注意下さい。

[操作方法]

①削除したいファイルに、カーソルバーを合せて、アルファベットの[D]か、ファンクションキーのF4、[削除]を押して下さい。
　または、カーソルを、[←]キーか、[→]キーで[D：ファイル削除]に合せて、[↵]キーを押して下さい。
　以下のようなウインドが表示されます。

```
            ファイル削除
--------------------------------------
   ********.***　を削除します
         よろしいですか？

      [はい]        [いいえ]
```

②この画面で「はい」を選択すると削除し、「いいえ」を選択するとファイルを削除しません。
　ファイルを削除した場合も、削除しなかった場合も元の画面に戻ります。

●複数ファイルを削除する場合

①削除したいファイルにカーソルバーを合せて、「スペース」キーを押して下さい。
そのファイルが白く反転表示されます。

②カーソルバーを別のファイルに合せて、「スペース」キーを押して下さい。
そのファイルも白く反転表示されます。

③このように「スペース」キーで、白く反転させたファイルを、「マークファイル」と呼びます。
このマークを解除したい場合は、マークされたファイルに、カーソルバーを合せ、再度スペースキーを押すと解除されます。

④この後、アルファベットのDか、ファンクションキーのF4、[削除]を押して下さい。
または、カーソルを [←] キーか、[→] キーで、[D：ファイル削除]に合せて、[⏎]キーを押して下さい。
マークしたファイルの削除を開始します。

⑤削除が終了しましたら、何かキーを押して下さい。
元の画面に戻ります。

8.3.4 R：ファイル名変更

キー　　　　　R、F5 名前、R：ファイル名変更

機能　　　　　目的ファイルのファイル名を変更します。

> 注意事項
>
> 名前を変更する場合、そのファイル名を変更してもいいかどうか、確認してから行なって下さい。
> うかつにファイル名を変更した場合、そのファイルが、正常動作しない場合もありえますのでご注意下さい。

操作方法

①名前を変更したいファイルに、カーソルバーを合せ、アルファベットのRか、ファンクションキーのF5 名前を押して下さい。
　または、カーソルを、←キーか、→キーでR：ファイル名変更に合せ、⏎キーを押して下さい。
　以下のようなウインドが表示されます。

ファイル名変更
新しいファイル名を 入力して下さい [　　　　　　]

②ここで、新しいファイル名を入力して下さい。
　入力できるのは、ファイル名は半角で８文字、全角で４文字、拡張子は半角で３文字です。
　変更後、⏎キーを押して下さい。変更したファイル名で表示されます。

8.3.5 A：ファイル属性変更

キー　　　　　A、F6 属性、A：ファイル属性変更

機能　　　　　目的ファイルの属性を変更します。

操作方法

①属性を変更したいファイルに、カーソルを合せて、アルファベットのAか、ファンクションキーのF6、属性を押して下さい。
または、カーソルを、← キーか、→ キーでA：ファイル属性変更に合せて、⏎キーを押して下さい。
以下のようなウインドが表示されます。

```
属性変更
TEST          の属性を
変更します
(R)書込禁止    OFF    ON
(H)不可視      OFF    ON
(S)ｼｽﾃﾑﾌｧｲﾙ    OFF    ON
(A)保存ﾌﾗｸﾞ    OFF    ON

作成日付       ****-**-**
作成時刻         **:**:**
    W : 書き込み   ESC : 中止
```

②上記のウインドが、ファイル属性変更画面になります。
← キーと → キーで、ON／OFFが設定でき、↑ キーと ↓ キー、で各項目間の移動が行なえます。

(R)書込禁止
　対象ファイルを書込禁止にします。

(H)不可視
　MS－DOSのコマンドラインから、DIR等で見えなくなるようにします。

(S) システムファイル

MS－DOS本体のファイルである、MS－DOS.SYSと、IO.SYSに設定されている属性です。

他のファイルに設定してもあまり意味はありません。

(A) 保存フラグ

ファイルの作成・更新が行なわれる度に設定されます。

③設定が終了しましたら、「W」キーを押して下さい。

設定した内容で、属性を設定します。

設定しても、「ESC」キーを押した場合は、設定内容は無効になります。

8.3.6 W：グループ別表示

キー　　　　W、F7 検索、W：グループ別表示

機能　　　　ワイルドカードを設定し、その設定に見合ったファイルを画面に表示します。

操作方法

①ファイル操作画面から、アルファベットのWか、ファンクションキーのF7、検索を押して下さい。
　または、カーソルを、←キーか、→キーでW：グループ別表示に合せて、⏎キーを押して下さい。
　以下のようなウインドが表示されます。

ワイルドカード変更
ワイルドカードを指定 して下さい [　　　　　　　　]

②ここで、ワイルドカードを入力して、⏎キーを押して下さい。
　ここでは例として「*.SYS」とします。

③すると、表示されるファイルは全て、拡張子が「.SYS」のファイルとなります。

注意事項

・ワイルドカードとは
MS－DOSでは、ファイル名を指定するとき、2種類の符号を使って指定することができます。
これは「*」と「?」で、「*」の場合は、ファイル名と拡張子において、「任意の文字列」を指定する形になります。
たとえば、A＞から「DIR *.COM」と入力すると、そのディレクトリに存在する、拡張子が「COM」のファイルを表示します。
また、「DIR A*.*」と入力すると、そのディレクトリに存在するファイルの、ファイル名の頭に「A」が付くファイルを全て表示します。
このように、FDRV.EXEだけでなく、MS－DOSにおいても、ワイルドカードを使うことにより、ファイル操作をより簡単にすることができます。

第９章　スケジューラ機能

MET's Filedriver 4 では、簡単なスケジューラを搭載しています。

このスケジューラは、**MET's Filedriver 4** 起動時から、2079年12月31日までのスケジュールを管理することができ、登録可能数は、その範囲内で1000件です。

ただし、このスケジュールの年月日、時間管理は、コンピュータ本体の内蔵カレンダー、内蔵時計に依存していますので、ご使用になる前には、コンピュータ本体の内蔵カレンダー、内蔵時計を正確に合せて下さい。

このスケジューラは、新規登録、更新、削除の３つの機能から成り立っています。

以下に各機能ごとに使用方法を説明して行きます。

9.1 スケジューラの新規登録

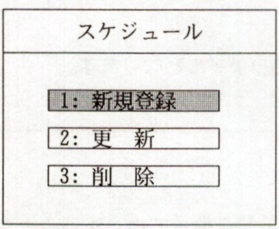
この機能は、スケジューラを新規に登録する機能です。

登録時に、サブディレクトリ￥MFD内に、「SCHEDULE.DAT」が存在していれば、それを使用して新規登録を行い、存在しなければ、あらたに「SCHEDULE.DAT」を作成し、スケジュールを登録します。

以下の手順で実行して下さい

① **MET's Filedriver 4** の、メイン画面が表示されている状態から、「TAB」キーを押して下さい。

以下の様なウインドが表示されます。



②前記のウインドが表示されましたら、「新規登録」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。

以下の様なウインドが表示されます。

スケジュール入力
▒　　/**/**　**:**:** [　　　　　　　　　　　]

③このウインドで、スケジュールを入力します。
まず、最初に表示された状態では、「年」の箇所にカーソルが合っていて、何も入力されていない状態になっています。
もし、次の年のスケジュールでしたら、ここで年を入れます。
入力は西暦で、４桁の年号を入力して下さい。
入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
「月」にカーソルが移動します。

④「月」にカーソルが移動しましたら、スケジュールの予定のある「月」を入力して下さい。
入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
「日」にカーソルが移動します。
また、この時、↑キーを押すと、カーソルは、前の「年」に移動しますので、「年」を再入力することもできます。

⑤「日」にカーソルが移動しましたら、スケジュールのある「日」を入力して下さい。
入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
「時間」にカーソルが移動します。
また、この時、↑キーを押すと、カーソルは、前の「月」に移動しますので、「月」を再入力することもできます。

⑥時間にカーソルが移動しましたら、スケジュールの予定時間を入力して下さい。
分単位で入力することができます。
入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
「スケジュール欄」にカーソルが移動します。
また、この時、↑キーを押すと、カーソルは、前の「日」に移動しますので、「日」を再入力することもできます。

⑦「スケジュール欄」にカーソルが移動しましたら、スケジュール内容を記入して下さい。
半角で３６文字、全角で１８文字入力することができます。
入力しましたら、⏎キーを押して下さい。
内容を保存して、**MET's Filedriver 4**の画面に戻ります。
また、⏎キーを押す前に、↑キーを押すと、カーソルは、前の「時間」に移動しますので、「時間」を再入力することもできます。

⑧入力した年月日、時刻が来ると、**MET's Filedriver 4**の機能ファンクションが消え、そのラインに年月日、時刻とともに、スケジュール内容が表示されます。
この表示は、何かキーを押すまで、表示されます。
また、予定年月日が過ぎたスケジュールは、「SCHEDULE.DAT」から、削除されます。

9.2 スケジュールの更新

この機能はいったん、入力したスケジュールが変更になり、修正が必要になった場合、使用します。
以下の手順でスケジュールを変更して下さい。

① **MET's Filedriver 4**の、メイン画面が表示されている状態から、「TAB」キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

```
スケジュール

1: 新規登録
2: 更　新
3: 削　除
```

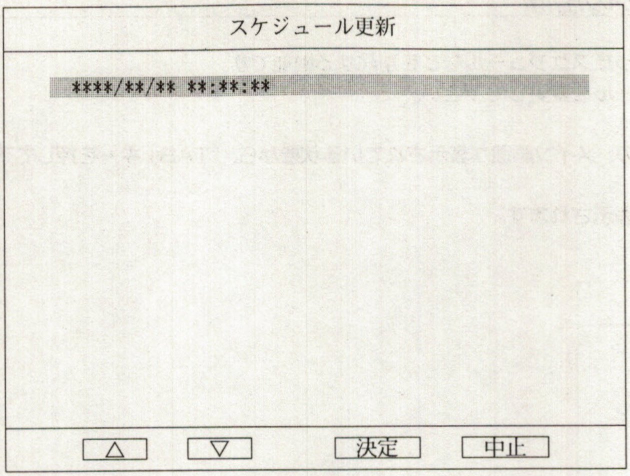
②前記のウインドが表示されましたら、「更新」にカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

注意事項

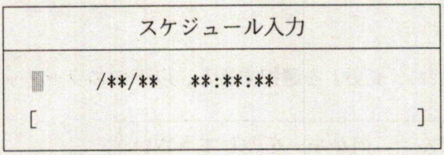
スケジュールが何も登録されていない場合、「変更」を選択すると、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
スケジュールは1つも登録されていません　　何かキーを押して下さい
```

この機能は、スケジュールがある状態で使用して下さい。



③このウインドから、変更したいスケジュールを選択します。
[↑] キーか、[↓] キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
なお、このウインド、1ページには8件のスケジュールが登録でき、全体で1000件まで登録することができます。
以下の様なウインドが開きます。



④この画面で、スケジュールの変更内容を入力して下さい。
操作方法は、「新規登録」と同じです。
「ESC」キーを押すと、「③」のウインドに戻ります。

9.3 スケジュールの削除

この機能は、中止になったスケジュールなどを削除する機能です。
以下の手順でスケジュールを変更して下さい。

① **MET's Filedriver 4**の、メイン画面が表示されている状態から、「TAB」キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

スケジュール

1: 新規登録

2: 更　新

3: 削　除

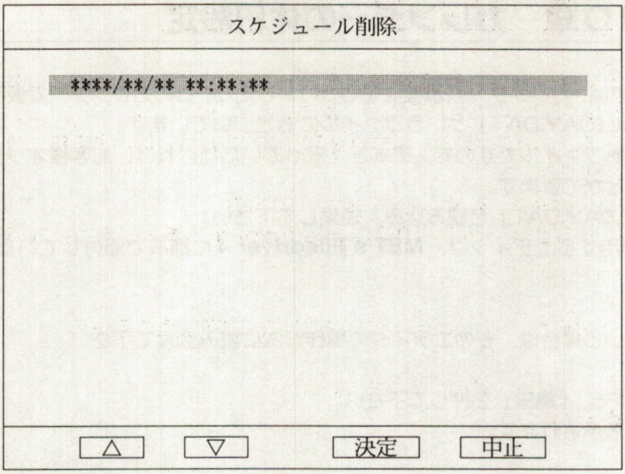
②前記のウインドが表示されましたら、「削除」にカーソルを合せて、↵キーを押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

注意事項

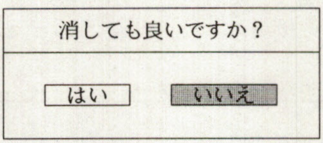
スケジュールが何も登録されていない場合、「変更」を選択すると、以下のエラーメッセージが表示されます。

スケジュールは1つも登録されていません　　何かキーを押して下さい

この機能は、スケジュールがある状態で使用して下さい。



③このウインドから、削除したいスケジュールを選択します。
[↑] キーか、[↓] キーで、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様なウインドが開きます。



④「はい」を選択した場合は、選択したスケジュールが削除され、「③」の画面に戻って、削除指定を待ちます。
削除を続けるのであれば、また削除対象のスケジュールを選択して下さい。

「いいえ」を選択した場合も、「③」の画面に戻ります。
「ESC」キーを２回押すと、**MET's Filedriver 4** の画面に戻ります。

第10章　カレンダーの休日設定

MET's Filedriver 4では、カレンダー表示機能をもうけましたが、このカレンダーで表示する、休日設定は、「HOLIDAY.DAT」というファイルにもとづいています。

このファイルはテキストファイルですので、書式さえ守っていただければ、お客様オリジナルの休日設定を行うことができます。

以下の手順で、「HOLIDAY.DAT」を読み込み、編集して下さい。

なお、以下の説明で使用するエディタは、**MET's Filedriver 4**に標準で添付している、「ME.EXE」
です。

エディタを変更されている場合は、そのエディタの操作方法に読み変えて下さい。

①ファンクションキーのF5、「編集」を押して下さい。
以下の様なウインドが表示されます。

```
編集ファイル選択

  1:デバイス情報ファイル
  2:実行情報ファイル
  3:任意のファイル
```

> 注意事項
>
> 前記のウインドは、「スペースキー」を押して「メインメニュー」を表示させ、「7：AP環境ファイルの編集」にカーソルを合せて、⏎キーを押しても表示されます。

②前記のウインドが表示されましたら、「任意のファイル」に、↓キーか、↑キーでカーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
次の様なウインドが表示されます。

```
編集するファイル名を入力して下さい (中止:ESC)

■
```

③前記のウインドが表示されましたら、⏎キーを押して下さい。
ファイルの一覧が表示されます。
そのファイル一覧は、サブディレクトリ￥MFD内の一覧で、その中に、「HOLIDAY.DAT」という、ファイルが存在しています。
そのファイルに、カーソルを合せて、⏎キーを押して下さい。
以下の様な画面が表示されます。

```
A:¥MFD¥HOLIDAY.DAT
01/01 元日
01/15 成人の日
02/03 節分
02/14 *バレンタインデー
03/03 *ひな祭り
03/14 *ホワイトデー
04/01 *エイプリルフール
04/29 みどりの日
05/03 憲法記念日
05/04 国民の休日
05/05 こどもの日
07/07 *七夕
08/15 終戦記念日
09/15 敬老の日
10/10 体育の日
11/03 文化の日
11/23 勤労感謝の日
12/23 天皇誕生日
12/24 *クリスマス・イヴ
12/25 *クリスマス
12/31 *大晦日
```

[中止] [ ] [ ] [ ] [範囲] [削除] [複写] [貼付] [終了]

④上記の内容が「HOLIDAY.DAT」の内容です。
書式ですが、以下の様になります。

月／日［TABキーで区切り］［＊］［内容］

⑤まず、月／日ですが、これは設定したい日付を入力して下さい。

その次の「[TABキーで区切り]」ですが、これは「月／日」との区切り文字をあらわしていて、「TAB」キーを使用します。

「＊」は、カレンダー表示において、その日を祝日とは表示しない、設定です。
「HOLIDAY.DAT」をみていただければ、分るように、「クリスマス・イヴ」、「七夕」など、祝祭日ではないが、なんの日か表示したい場合に使用します。

最後に内容ですが、半角で２０文字、全角で１０文字入力することができます。

⑥編集が終わりましたら、ファンクションキーのF10、終了を押して下さい。
MET's Filedriver 4に戻ります。
なお、**MET's Filedriver 4**の「AP環境ファイル」から、「任意のファイル」を選択し、「HOLIDAY.DAT」を編集した場合は、編集内容はすぐには反映されません。
MET's Filedriver 4をいったん終了させ、再起動すれば、編集内容のカレンダー設定となります。

第１１章　MET's Filedriver 4のエラーメッセージ

MET's Filedriver 4 のエラーメッセージです。
ご参考にしていただければ幸いです。

●MET's Filedriver 4本体のエラーメッセージ

・メモリ不足でウィンドウが開けません
各機能のウインドが、画面表示されるために必要とする十分なメモリが、確保できないとき表示されます。
メインメモリを十分に確保した後、コンピュータ本体のリセットボタンを押して、MS－DOSを再起動して下さい。

・コマンドまたはファイル名が違います
●ケース１
ファイル管理起動時
ファンクションキーのF6「FILE」か、メインメニューの「＋：ファイル管理の呼び出し」を実行した際に、「MFD IVの実行環境の設定」で設定した、起動ファイル管理の起動ファイル名が間違っているか、そのファイル管理が存在しない場合に表示されます。
また、起動ファイル管理を設定していない場合には、標準添付のFDRV.EXEがサブディレクトリ¥MFD内に存在していない場合、表示されます。

●ケース２
エディタ起動時
ファンクションキーのF5「編集」を押し、各ファイルの編集モードに入った時や、アプリケーションソフトの、「ユーザ登録」時の「SETUP.BAT」編集時、「MFD IVの実行環境の設定」で設定した、起動エディタの起動ファイル名が間違っているか、そのエディタが存在しない場合に表示されます。
また、起動エディタを設定していない場合には、標準添付のME.EXEがサブディレクトリ¥MFD内に存在していない場合、表示されます。

・メモリがたりません
根本的にメモリが不足しています。
メインメモリを十分に確保した後、コンピュータ本体のリセットボタンを押して、MS－DOSを再起動して下さい。

・ファイルが見つかりません
ファイラーなど、**MET's Filedriver 4** に必要なファイルが存在しないときに表示されます。
各ファイルの存在を確認して下さい。

・メニューファイルがありません
MENU.IDXや、FEP.IDXが存在しないときに表示されますが、MET's Filedriver4 は、この２つのファイルがないときは、ファイルを自動的に作成しますので、ハードディスクになんらかの異常がある、と思われます。

・パスが６４文字をこえました
マニュアル登録やユーザ登録で、非常に深い位置にあるディレクトリを指定した時、そのパス名が６４文字を越える場合に発生します。
パス名の６４文字は、ＭＳ－ＤＯＳの制約ですので、登録ディレクトリをもっと浅い位置に移して下さい。

・ドライブ番号が不正です
自動登録で登録するパス名のドライブが使えない場合に表示されます。

・指定されたドライブは不正です
ドライブ選択で紫色で表示されている、存在しないドライブを指定すると表示されます。

・ドライブ番号を指定して下さい
ドライブ指定が必要な場面で、指定されていない場合表示されます。

・そこには何も登録されていません
メイン画面、または日本語FEP選択画面で、何も登録されていない箇所を選択すると表示されます。
アプリケーションソフト、または日本語入力FEPが登録されている箇所を選択して下さい。

・そこはすでに登録済みです
メイン画面、または日本語入力FEP画面で、すでに登録されている箇所に、登録しようと選択した場合表示されます。

・インストール用のファイラーに不正な記述があります （＊＊）
インストール用のファイラー内に、文法にそわない不正な記述があった場合表示します。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・ファイラー中で使われている文字列が長過ぎま」
ファイラー中のアプリケーション名等が、長過ぎた場合表示されます。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・すでに同名のディレクトリがあります
自動登録で指定した登録使用とした場合、自動登録ファイラーで指定したパスが、すでに存在した場合、表示されます。
この場合、登録パス名を変更して下さい。

・ディスクがいっぱいです
転送先ドライブが容量的に一杯になると表示されます。

・変数の値が不正でした
ファイラー中の変数が不正です。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・ラベルが見つかりません
GOTO等で、指定されたとび先のラベルがない場合表示されます。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・ラベルは12文字までです
ファイラー中で12文字を越えたラベルを設定した場合、表示されます。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・ディレクトリ名の変更ができません
登録済みのアプリケーションソフトのディレクトリ名を変更しようとした場合、指定したディレクトリ名がすでにあると表示されます。

・そこには登録できません
日本語入力FEP登録時、「FEPは使用しない」を選択すると表示されます。
それ以外の箇所を選択して下さい。

・アプリケーションが削除されています
メニューに登録されているアプリケーションソフトを起動しようとした際、そのソフトが登録されているディレクトリ、またはドライブが存在しない場合、表示されます。

・指定したFEPは削除されています
メニューに登録されている日本語入力FEPを指定したとき、その日本語入力FEPが登録されているディレクトリ、またはドライブが存在しない場合、表示されます。

・ディレクトリが削除できませんでした
ディレクトリを削除しようとして、削除できないとき表示されます。

・移動先が同じです
INSキーで、メニュー内容を入れ替えようとした時に、移動元と移動先が同じ場合表示されます。

・そのファイルにはアクセスできません
ファイラー中のDELやRENで、アプリケーションの転送元のフロッピーにアクセスしようとした際、表示されます。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・ファイルが削除できません
DELが実行できませんでした。
ファイラー中の「DEL」で指定しているファイル名をチェックして下さい
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・実行するプログラムが見つかりません
ファイラー中、「#」で指定したプログラムが見つからない場合表示されます。
このメッセージが表示されましたら、ただちに弊社へご連絡下さい。

・カレントドライブ以外は指定できません
MET's Filedriver 4の起動ドライブが変ってしまうと、カレントドライブ以外にはアプリケーション登録、実行、その他すべてが行なえなくなります。
これは、COPYコマンド、XCOPYコマンド、市販のバックアップユーティリティなどで**MET's Filedriver 4**を最初にインストールしたドライブから、他のドライブへ移動した場合、発生します。

・MFD起動ドライブが変更されています
上記と同じ理由で使用できないコマンドを選択すると出ます。

●FDRV.EXEのエラーメッセージ

・メモリ不足でウィンドウが開けません
FDRV.EXEが起動するに十分なメモリが確保できないとき表示されます。
メインメモリを十分に確保して下さい。

・そのドライブは使えません
ドライブ変更時に使用できないドライブを指定した時、表示されます。

・ファイル名またはディレクトリ名が不正です
ファイル名またはディレクトリ名を指定する場面で、不正な名前を設定した時表示されます。

・すでに同名のファイルまたはディレクトリが存在しています
ファイルまたはディレクトリ名を変更する時、すでに存在しているファイル名またはディレクトリ名を指定した時、表示されます。

・ドライブにアクセスできません
指定したドライブにディスクが入っていない時表示されます。

・ルートディレクトリは削除できません
ルートディレクトリを削除しようとした時表示されます。

・ディレクトリが空でないので削除できません
ファイルまたはディレクトリが存在するディレクトリを削除しようとした時表示されます。

・カレントディレクトリは削除できません
カレントディレクトリを削除しようとした時に表示されます。
MET's Filedriver 4実行時なら、サブディレクトリ¥MFDを削除しようとした時に表示されます。

・削除できないファイルがありました
システムファイルなど、削除できないファイルがあった場合表示します。

・ルートディレクトリ名は変更できません
ルートディレクトリの名前を変更しようとした時表示されます。

・ルートディレクトリは属性変更はできません
ルートディレクトリの属性を変更しようとした時表示されます。

付録　MET's Filedriver 4のファイラーについて

●解説の前に

次の項からは、**MET's Filedriver 4**で使用しているファイラー文法の解説を行ないますが、その前に誠に勝手ながらおことわりをさせていただきます。

おことわり

1. お客様が作られたファイラーの動作に関しては、当社ユーザサポートはいっさい感知いたしません。
   ただし、文法についての不明点に関しましてはお答えいたします。

2. コピープロテクトが掛かっているアプリケーションソフトのコピープロテクトをはずして、自動登録ファイラーを作成し、登録してそのアプリケーションソフトが動作しなくても当社サ　ポートは感知いたしません。

3. お客様が作成されたファイラーを動作させた結果、ハードディスクやフロッピーディスクを含む、システム全般に影響が出ても当社サポートは感知いたしません。

上記、誠に勝手ながらご理解とご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

●ファイラー文法について

MET's Filedriver 4の文法はMET's Filedriver 3にくらべて強化されている部分があります。

また、MET's Filedriver 3のファイラーは、**MET's Filedriver 4**では使用可能ですが、**MET's Filedriver 4**のファイラーは、MET's Filedriver 3では使えませんのでご注意下さい。

次のページに**MET's Filedriver 4**用の「MET's Fileback-up 3」のファイラーを記載します。

```
Met's HCA Ver4
MET's File back-up 3
¥MFB3
;
IF @==1 GOTO MANYU
IF @==2 GOTO DOC_E
;
ECHO @   このファイラーは MET's File back-up 3 のファイラーです
ECHO
ECHO
ECHO                    以下のディスクを使用します
ECHO
ECHO         MET's File back-up 3 システムディスク
ECHO
PAUSE                    何かキーを押してください
;
*IQ
ECHO @                インストールを実行しますか？
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
;
LET A=0
&A(実行，中止)
IF A==0 GOTO INSTSYS
IF A==1 GOTO ESC
;
*ESC
ECHO @              MET's File back-up 3 の登録を中止しました
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                    何かキーを押してください
ABORT
;
*INSTSYS
$(FBI3.EXE)MET's file back-up 3のシステムディスクを入れて下さい。
;
EXEC=FBI3
```

```
IF @==1 GOTO END_MA
;
COPY %1FBI3.EXE %2
COPY %1README.DOC %2
;
*END_E
ECHO @                MET's file back-up 3の登録が終了しました
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                         何かキーを押して下さい
GOTO DOC_RE
;
*END_MA
ECHO @    MET's Fileback-up 3のマニュアル登録を終了しました
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                         何かキーを押して下さい
GOTO DOC_RE
;
;
*MANYU
ECHO @    MET's Fileback-up 3 のマニュアル登録を実行します
ECHO
ECHO ハードディスク内のサブディレクトリにMET's Fileback-up 3 がイ
ECHO ンストールされていることが前提となります
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                         何かキーを押して下さい
GOTO IQ
;
;
DOC_E
ECHO @          MET's Fileback-up 3 の補足説明を表示します
ECHO MET's Fileback-up 3 は、ディスクキャッシュには対応していません
ECHO ご使用のさいは、ディスクキャッシュを解除してから、ご使用下さい
ECHO
```

```
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                       何かキーを押して下さい
;
;
;
*DOC_RE
ECHO @                    補足説明を表示しますか？
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
;
LET W=0
&W(する,しない)
IF @==1 GOTO DOC_E
IF @==2 GOTO DOCEND
;
*DOCEND
ECHO @          MET's Fileback-up 3 の補足説明を終了します
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
ECHO
PAUSE                       何かキーを押して下さい
;
*END
END
```

前ページに記載した「MET's Fileback-up 3」のファイラーを例に上げて解説を行ないます。
MET's Filedriver 4 のファイラーは大きく分けて５種類のブロックに分けることができます。

- ●ヘッダ
- ●実行形式、デバイス情報
- ●転送するファイル
- ●分岐条件
- ●メッセージ表示

●ヘッダ

１行目から３行目の部分です。例はアプリケーションソフトですので、１行目は「Met's HCA Ver4」となっていますが、日本語入力FEPの場合は「Met's HCF Ver4」となります。

２行目はメニューに登録されるタイトル名です。
ここに記述できるのは半角で２０文字、全角で１０文字です。

３行目は登録されるディレクトリを指定します。
この例ですとサブディレクトリ￥MFB3というディレクトリが作成されます。

MET's Filedriver VINTAGEまでは、ここに「＊」があると、マニュアル登録専用ファイラーと識別されていましたが、**MET's Filedriver 4** ではマニュアル登録専用ファイラーは、拡張子が「.HCM」となっていますので、「＊」がここに入っているファイラーも、拡張子が「.HCA」の場合は、自動登録用ファイラーとして認識されます。

●デバイス情報、実行形式

４４行目がこの部分に相当します。
４４行目で宣言されている「EXEC＝FBI3」の内容が、３行目で作成された「MFB3」というサブディレクトリに、「MFD.BAT」というファイルの形で宣言されます。

また、この例はアプリケーションソフトですので、デバイス形式の例を持っていません。
このデバイス形式というのは、「EXEC＝」で宣言される実行情報と同様に、アプリケーションソフト固有で使用するデバイスドライバを、「DEVICE＝」の形式で記述されているものをさします。

たとえば「一太郎Ver4.3」で使われる「ATOK7」は「ATOK7A.SYS」と「ATO K7B.SYS」、松 Ver5で使われる「松茸V3」は「MTTK3.DRV」というように、そのアプリケーションソフトが立ち上がるために必要なデバイスドライバを「DEVICE＝」で記述します。

ただし、このデバイスドライバのファイル名がわからないという方もいらっしゃるでしょう。
この場合はインストールに使うアプリケーションソフトのシステムディクか、マスターディスクの中に含まれている、「CONFIG.SYS」の内容を見ていただければ、たいていの場合はご理解いただけると思います。

また実行形式の「EXEC＝」のファイル名がわからない場合は、インストールに使うアプリケーションソフトのシステムディクか、マスターディスクの中に含まれている、「AUTOEXEC.BAT」の内容を見ていただければご理解いただけると思います。
ただし、AUTOEXEC.BATの内容をそのまま「EXEC＝」で記述しても動作しない場合があります。
それは「AUTOEXEC.BAT」内で「CD」コマンドを使って、指定のサブディレクトリに入り込み、その中のファイルを実行する指定になっている場合です。
この場合ですとサブディレクトリに入った後の実行ファイルを「EXEC＝」で記述すればほとんどの場合は大丈夫でしょう。

●転送するファイル

この例では47行目と48行目に記述されています。

●分岐条件

26行目から27行目に記述されている部分が相当します。
この例では26行目でカーソルがある位置を「A0」と定義した後、27行目で画面に表示する選択肢を設定します。
26行目では選ばれた選択肢に応じて設定されたラベルに処理を移します。
ここでは「0」に当たる「実行」を選択した場合、「INSTSYS」というラベルへ処理を移し実行します。

●メッセージ表示

「ECHO」から始る部分すべて相当します。
この部分では表示色を指定することができます。

●目的別コマンドリファレンス

◆ドライブの選択とディスクのセットをうながす。

書式
$（ファイル名）文字列
$文字列

例
$(FBI3.EXE)MET's Filedriver 4のシステムディスクを入れて下さい
$MET's Filedriver 4のシステムディスクを入れて下さい

「文字列」に相当する内容を画面表示し、「ファイル名」に記述されたファイル名が、指定されたドライブのディスクに存在するかどうかをチェックします。
もし「ファイル名」に相当するファイルがなかった場合、エラーを表示します。
「ファイル名」を省略した場合、ディスクの内容をチェックせずに次の行に処理を移します。

◆デバイス情報を設定する

書式
ＤＥＶＩＣＥ＝ファイル名
？ＤＥＶＩＣＥ＝ファイル名
！ＤＥＶＩＣＥ＝ファイル名

オプションスイッチ
！、？

例
ＤＥＶＩＣＥ＝ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　／Ｄ＝Ａ：￥ＡＴＯＫ７．ＤＩＣ
？ＤＥＶＩＣＥ＝ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ
！ＤＥＶＩＣＥ＝ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ

デバイスドライバーの登録を行なう書式です。この書式で登録できるデバイスドライバーはキャラクター系ドライバーのみになります。
まず「DEVICE＝」ですが、この書式で宣言された場合はそのままの形で「CONFIG.DRV」に登録されます。
「？DEVICE＝」というように頭に「？」があった場合は、同様の宣言がインストールに使うディスクの「CONFIG.SYS」に存在した場合、「CONFIG.DRV」に登録されます。
「！DEVICE＝」というように頭に「！」があった場合は、インストールに使うディスクの「CONFIG.SYS」の同様な宣言のオプションスイッチを使って、「CONFIG.DEV」に登録します。

◆実行情報を登録する

書式
ＥＸＥＣ＝ファイル名
！ＥＸＥＣ＝ファイル名
？ＥＸＥＣ＝ファイル名

オプションスイッチ
！、？

例
ＥＸＥＣ＝ＪＸＷ

先頭に「EXEC＝」がくると、実行形式とみなされて「SETUP.BAT」に展開されます。
頭に「？」や「！」が付いたときの条件は「DEVICE＝」と同じですが、こちらは「AUTOEXEC.BAT」を参照します。

◆ファイルをコピーする

書式
ＣＯＰＹ　パス１　［ファイル名］　パス２

オプションスイッチ
？、￥

例
ＣＯＰＹ　％１ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　％２
？ＣＯＰＹ　％１ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　％２
ＣＯＰＹ　％１ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　￥
ＣＯＰＹ　％１ＡＴＯＫ￥ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　％２
ＣＯＰＹ　％１ＡＴＯＫ７Ａ．ＳＹＳ　％２￥ＡＴＯＫ

パス１で指定したファイルをパス２に転送します。
パス１は転送元、パス２はファイラーの３行目で指定されたディレクトリが代入されます。
例の１行目は標準的な書式です。
例の２行目の頭に「？」が付いていますがこれは「％１」以降で宣言されたファイル名が、コピー元のディスクにあれば目的先にコピーし、なければコピーしないオプションです。
例の３行目はおしりに「％２」の代りに「￥」がついていますが、これはルートディレクトリに転送するオプションです。

３行目の変形が４行目と５行目で、４行目は転送元のサブディレクトリ「ATOK」からファイルをコピーする指定で、５行目は転送元ディレクトリの下に形成されたサブディレクトリ「AOTK」に転送する指定です。

◆サブディレクトリの作成

書式
ＭＤ　ディレクトリ名

例
ＭＤ　％２￥ＡＴＯＫ
ＭＤ　￥ＡＴＯＫ

サブディレクトリを作成する文法です。
例の１行目では転送先のディレクトリの下に「ATOK」というディレクトリを作成します。
例の２行目では転送先ドライブのルートディレクトリのすぐ下に「ATOK4」というディレクトリを作成します。

◆文字列の表示

書式
ＥＣＨＯ　文字列

例
ＥＣＨＯ　ＡＴＯＫ７
ＥＣＨＯ　＠ＡＴＯＫ７

「ECHO」はその後にくる文字列を表示します。
例の１行目が標準的な書き方です。
例の２行目の「@」は、その文字列が表示される以前の文字列をクリアして、表示するオプションです。

◆文字列の表示とキー入力待ち

書式
ＰＡＵＳＥ　文字列

例
ＰＡＵＳＥ　何かキーを押して下さい。

文字を表示するのは「ECHO」と同じですが、表示後キーが何か押されるまで待ちます。
また、オプションスイッチは「ECHO」のカラー指定を使うことができます。

◆変数への代入、選択処理、変数による分岐選択

書式

```
ＬＥＴ　変数＝数値
＆変数（文字列１，文字列２，・・・）
ＩＦ　変数＝＝数値　コマンド
```

例

```
 ＬＥＴ　Ａ＝０
＆Ａ（　実行　，　中止　）
ＩＦ　Ａ＝＝０　ＧＯＴＯ　ＡＴＯＫ７
ＩＦ　Ａ＝＝１　ＧＯＴＯ　ＥＳＣ
```

この３つの文法はそれぞれ単独で使うことができますが、１セットとして使う場合がほとんどです。
ここでは１セットとして説明します。
まず、１行目の「LET 変数＝数値」ですが、ここでは２行目の「＆変数（文字列１,文字列２,･･･）」用に変数とカーソル位置を決定する数値を代入します。
例を見ますと「A」という変数に「0」が与えられていますが、これは２行目で画面表示を行なう「実行、中止」の文字列の内、「実行」にカーソルを与える設定です。
またここで使える変数はA～Zの２６個で大文字、小文字の区別はありません。
２行目では（）で括られた文字列を等間隔に表示し、選択モードに入ります。
選択した結果は0,1,2,3･･･の値で３行目以降の変数に代入されます。
３行目以降では２行目から代入された変数を元に分岐選択を行ないます。
例では２行目で「実行」を選択した場合、変数０が発生しますので、３行目の「IF A＝＝0 GOTO ATOK7」が有効となり、「AOTK4」というラベルに処理を移します。
もし、「中止」を選択した場合、変数０が発生しますので４行目の「IF A＝＝1 GOTO ESC」が有効になり、「ESC」というラベルに処理を移します。
３行目以降の「IF 変数＝＝数値　コマンド」は、式の結果が真であれば実行します。

◆無条件ジャンプ

書式
GOTO　ラベル名

例
GOTO　ATOK7

処理を指定したラベルに処理を移します。
例では「ATOK7」というラベルに移る指定です。

◆ラベル

書式
＊ラベル名

例
＊ATOK7

ラベルの指定です。

◆ファイルによる分岐条件

書式
IF　EXIST　ファイル名　コマンド
IF　NOT　EXIST　ファイル名　コマンド
IF　EXIST　パス名　ファイル名　コマンド
IF　NOT　EXIST　パス名　ファイル名　コマンド

例
IF　EXIST　ATOK7A. SYS　GOTO　ATOK
IF　NOT　EXIST　AOTK4A. SYS　GOTO　ESC
IF　EXIST　￥ATOK7A. SYS　GOTO　ATOK
IF　NOT　EXIST　￥AOTK4A. SYS　GOTO　ESC

この文法は式の結果が真ならコマンドを実行する文法です。
「IF EXIST・・・」は後にくるファイルが存在する場合、その後に続くコマンドを実行します。
「IF NOT EXIST・・・」は後にくるファイルがない場合、その後に続くコマンドを実行します。

また、ファイル名の前にパスを書くことによって、そのパスにあるファイルを見に行くこともできます。

◆注釈

書式
;

例
;以降はATOK7です

「;」以後に記述された文字列は注釈とみなし、無視します。
各ブロックの区切りとしても使うことができます。

◆ファイルの削除

書式
DEL　ファイル名

例
DEL　%2ATOK7S. SYS

転送先のディレクトリ内のファイルを削除します。転送元に対する指定はできません。

◆ファイル名の変更

書式
REN　旧ファイル名　新ファイル名

例
REN　%2¥ATOK7A. SYS　ATOK7B. SYS

転送先のディレクトリ内のファイル名を変更します。転送元のファイルに対する指定はできません。

◆外部プログラムの実行

書式
#実行プログラム名
#－実行プログラム名

例
#%2¥HDINST. EXE %2

ファイラー内からインストールプログラムなどの外部プログラムを呼び出す文法です。ただし、プログラムによってはサブディレクトリ内では動作しなかったり、画面が壊れるものもあります。

◆インストールの中止

書式
ABORT

例
IF NOT EXIST ¥ATOK7A. SYS ABORT

ファイラー内でインストールを中止するコマンドです。
通常は分岐選択などと組合わせて使用します。

◆マニュアル登録の時の動作

マニュアル登録時は以下の文法が無視されます。

COPY
MD
$ ()

株式会社メッツ
本　社／〒107　東京都港区南青山6-3-14　Phone. 03-3498-3550（商品販売窓口）
大阪営業所／〒541　大阪市中央区北久宝寺町4-3-5　本町サミットビル4F　Phone. 06-245-2089（ユーザサポート窓口）
10:00 AM.～12:00 PM. 2:00 PM.～5:00 PM.（土、日、祭日を除く）